

「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑨
－NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態－

ひきこもりと生活機能

2012年3月

制 作

境 泉洋 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部
平川 沙織 徳島大学大学院総合科学教育部
原田素美礼 徳島大学大学院総合科学教育部
NPO法人全国引きこもりKHJ親の会（家族連合会）

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第一部 家族調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2. 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

3. 結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第二部 本人調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2. 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

3. 結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第三部 自由記述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第四部 全体のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

参考・引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

資料

図表一覧

第一部 家族調査

- 表1-1 本調査の対象となった引きこもり本人が住んでいる場所
- 図1-1 引きこもり本人と家族回答者の続柄
- 図1-2 家族回答者（母親）の年齢
- 図1-3 家族回答者（父親）の年齢
- 図1-4 引きこもり本人と家族回答者の同・別居
- 図1-5 引きこもり本人の性別
- 図1-6 引きこもり本人（男性）の年齢
- 図1-7 引きこもり本人（女性）の年齢
- 図1-8 引きこもりの開始年齢
- 図1-9 引きこもり期間
- 図1-10 引きこもりの程度
- 図1-11 引きこもり本人の相談機関利用状況
- 図1-12 家族回答者の相談機関利用状況
- 図1-13 引きこもり本人の心身・身体機能
- 図1-14 引きこもり本人の活動と参加（学習と知識の応用）
- 図1-15 引きこもり本人の活動と参加（コミュニケーション）
- 図1-16 引きこもり本人の活動と参加（運動）
- 図1-17 引きこもり本人の活動と参加（自己管理）
- 図1-18 引きこもり本人の活動と参加（家庭生活）
- 図1-19 引きこもり本人の活動と参加（対人関係①一般的な対人関係）
- 図1-20 引きこもり本人の活動と参加（対人関係②特別な対人関係）
- 図1-21 引きこもり本人の活動と参加（主要な生活場面）
- 図1-22 引きこもり本人の活動と参加（地域生活・社会生活・市民生活）
- 図1-23 引きこもり本人の環境因子
- 図1-24 家族回答者と引きこもり本人、配偶者の関係
- 図1-25 家族回答者と引きこもり本人の関係の機能状態

第二部 本人調査

- 表2-1 本人回答者が住んでいる場所
- 図2-1 本人回答者の性別
- 図2-2 本人回答者（男性）の年齢
- 図2-3 本人回答者（女性）の年齢
- 図2-4 引きこもりの開始年齢
- 図2-5 引きこもり期間
- 図2-6 引きこもりの程度
- 図2-7 本人回答者の相談機関利用状況
- 図2-8 本人回答者の心身・身体機能
- 図2-9 本人回答者の活動と参加（学習と知識の応用）
- 図2-10 本人回答者の活動と参加（コミュニケーション）
- 図2-11 本人回答者の活動と参加（運動）
- 図2-12 本人回答者の活動と参加（自己管理）
- 図2-13 本人回答者の活動と参加（家庭生活）

- 図 2-14 本人回答者の活動と参加（対人関係①一般的な対人関係）
- 図 2-15 本人回答者の活動と参加（対人関係②特別な対人関係）
- 図 2-16 本人回答者の活動と参加（主要な生活場面）
- 図 2-17 本人回答者の活動と参加（地域生活・社会生活・市民生活）
- 図 2-18 本人回答者の環境因子
- 図 2-19 本人回答者の就職活動量
- 図 2-20 本人回答者の就職努力度
- 図 2-21 本人回答者の就職満足度
- 図 2-22 引きこもり群と大学生の社会的スキル
- 図 2-23 本人回答者の体験の回避の程度

第四部 全体のまとめ

- 図 4-1 家族調査における引きこもり本人の平均年齢と引きこもり開始（初発）年齢
- 図 4-2 心身・身体機能における家族回答者と本人回答者の比較
- 図 4-3 活動と参加（家庭生活）における家族回答者と本人回答者の比較
- 図 4-4 活動と参加（主要な生活場面）における家族回答者と本人回答者の比較
- 図 4-5 環境因子における家族回答者と本人回答者の比較

本調査における用語の定義

- ・引きこもり状態：社会参加（学校・職場に行くなど）をしておらず、自宅以外での活動が失われた状態
- ・家族回答者：家族調査に回答された方
- ・引きこもり本人：主には現在引きこもり状態にある方を示していますが、過去に引きこもり状態を経験されて現在は社会参加されている方（引きこもり経験者）も含まれています。
- ・本人回答者：本人調査に回答された方

はじめに

本報告書の目的は、ひきこもりと生活機能の関連を明らかにすることでした。本報告書では生活機能について、2001年5月に開かれたWHOの総会で採択された機能障害と社会的不利に関する分類（International Classification of Functioning, Disability and Health：通称ICF）を参考に調査を行いました。

これまでの研究から、ひきこもり状態と精神疾患の関連が明らかにされつつあります。しかし、ひきこもりが長期化することによってもたらさせる生活上の支障は精神疾患だけではありません。そこで、ひきこもりによってもたらされる生活上の支障を全般的に把握する視点として生活機能に着目しました。

生活機能は、生活全般の領域において生じている支障を把握する概念です。こうした視点から調査を行うことで、精神疾患に限らない、ひきこもり状態にある人が抱く生活上の支障の把握を目指しました。

本年度の調査では、家族371名、引きこもり経験者106名の協力が得られました。本報告書を通じて、9年間にわたって大規模調査に基づく知見を提供し続けていることも一つの成果であると考えています。

昨年は当会において大きな転機を迎えた年でした。長年にわたって本会を牽引されてきた奥山前代表が逝去されたことは、否応にも大きな影響がありました。池田代表の新体制のもと、1年間をかけて当会の活動も再び軌道に乗りつつあるところですが、そうした中で、本報告書が当会の総意を示す一助になればと考えております。

最後になりましたが、9年に渡り本調査の実施に協力してくださった全国引きこもりKHJ親の会の会員の皆様、各地区代表の方々に心より感謝申し上げます。なお、本調査は、徳島県受託事業「平成23年度ひきこもり支援対策調査研究事業」の助成を受けて実施することができました。ご協力、ご支援くださった皆様のご厚意を無駄にしないよう、本調査の結果を広く普及、活用していく所存です。

平成24年3月吉日

徳島大学大学院S A S研究部

准教授 境 泉 洋

第一部 家族調査

1. 目的

本調査においては、ひきこもり状態にある人の生活機能、及び家族関係について調査を実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

NP0法人全国引きこもりKHJ親の会の支部会が平成23年10月～平成24年1月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会の参加者の内、調査協力の得られた371名の回答が解析に用いられました。

(2) 調査内容（注：調査内容の詳細は、巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 家族調査に回答した方（以下、家族回答者）及び、引きこもり状態にある人（以下、引きこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・引きこもり本人が住んでいる都道府県
- ・家族回答者と引きこもり本人との続柄
- ・家族回答者の年齢
- ・家族回答者と引きこもり本人の同・別居
- ・引きこもり本人の性別
- ・引きこもり本人の年齢
- ・引きこもりの期間
- ・現在の引きこもりの程度
- ・引きこもり本人の相談機関利用状況
- ・家族回答者の相談機関利用状況

②生活機能

引きこもり本人の生活機能について「心身機能・身体構造」，「活動と参加」，「環境因子」について回答を求めました。項目は，「心身機能・身体構造」8項目，「活動と参加」30項目，「環境因子」5項目で構成されています。項目作成においては，ICFイラストライブラリー（高橋，http://www.icfillustration.com/icfil_jpn/top.html）を参考にしました。

③家族態度尺度

藤田ら（2010）が作成した日本語版を使用しました。家族の感情や態度を測定する尺度。30項目7件法にて回答を求めました。

④ひきこもり家族機能尺度（Hikikomori Family function Scale；HFS：野中ら，2012）

この尺度は，調査参加者と引きこもり本人の関係が適切に機能しているかを，正の強化，負の強化，正の罰，負の罰といった行動論的観点から測定するために作成された。すなわち，調査参加者の働きかけの後のひきこもり本人の行動の増減を尋ねるも

のであり、12項目をそれぞれ5件法（1：減る～5：増える）で測定するものです。結果の分析については逆転項目についての得点の補正を行っているため、得点が高いほど行動論的観点から家族関係が正常に機能していることを意味しています。

（3）調査手続き

ほとんどの回答者には、月例会において調査用紙を配布し、その場で回収しました。しかし、各支部会の運営上の事情から、翌月の月例会に記入の上で持参したものを回収した回答者もいました。

3. 結果

(1) 本調査の対象となった引きこもり本人が住んでいる場所

表1-1 本調査の対象となった引きこもり本人が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	北海道	6	近畿地方	兵庫県	1
	青森県	4		三重県	2
	山形県	4		大阪府	9
	福島県	1	中国地方	広島県	16
北陸・甲信越地方	新潟県	39	山口県	12	
	石川県	6	四国地方	香川県	19
	福井県	1	高知県	9	
	徳島県	3	愛媛県	1	
関東地方	栃木県	22	九州地方	宮崎県	4
	東京都	51	鹿児島県	2	
	千葉県	30	不明	37	
	神奈川県	11	合計	371	
	埼玉県	36			
	群馬県	2			
東海地方	茨城県	6			
	愛知県	33			
	静岡県	2			
	岐阜県	2			

表1-1に示したとおり、本調査は28都道府県の家族回答者から回答が得られました。各地方の割合としては、北海道・東北地方が4.0%、甲信越地方が12.4%、関東地方が42.6%、東海地方が10.0%、近畿地方が3.2%、中国地方が7.5%、四国地方が8.6%、九州地方が1.6%となっています。

(2) 家族回答者と引きこもり本人との続柄

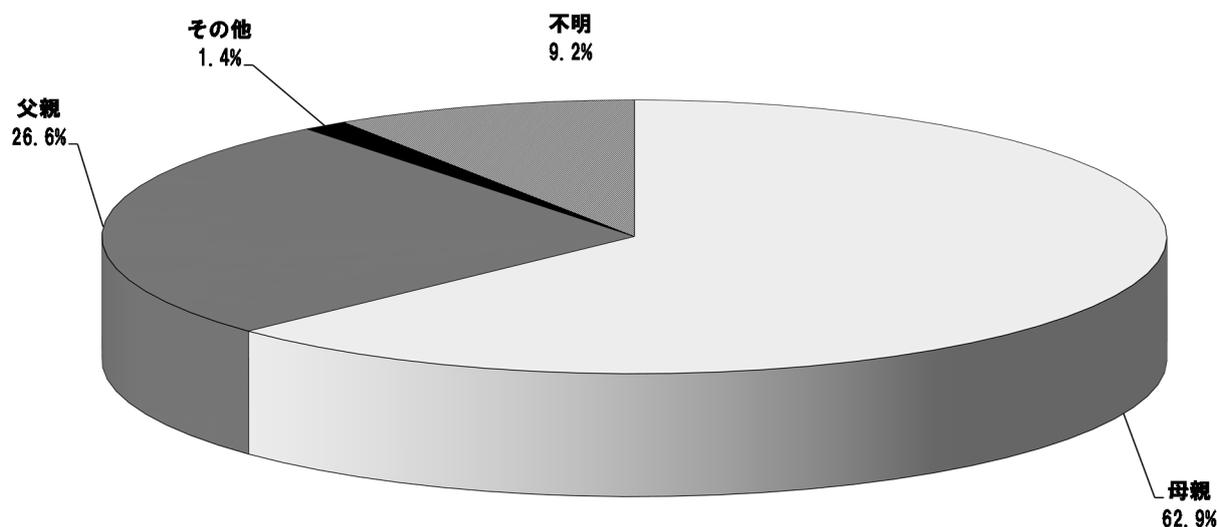


図1-1 引きこもり本人と家族回答者の続柄

調査回答者と引きこもり本人の続柄は、母親が62.9%、父親が26.6%、その他が1.4%、不明が9.2%でした。その他としては、兄弟、叔父叔母、義理の兄弟などが見られました。

(3) 引きこもり本人の両親の年齢

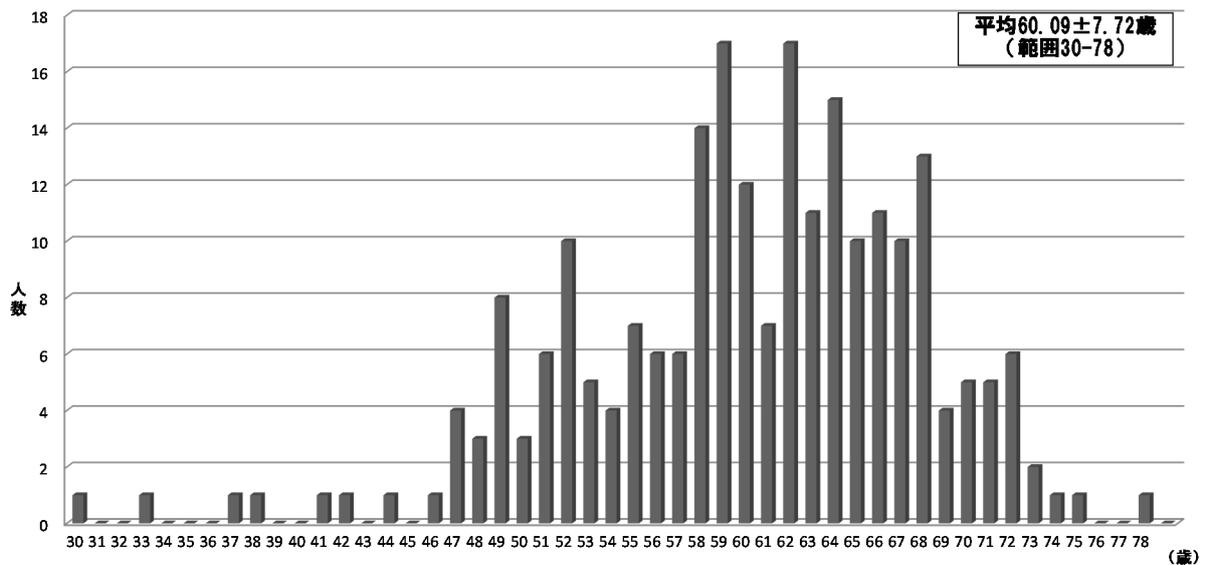


図1-2 家族回答者（母親）の年齢

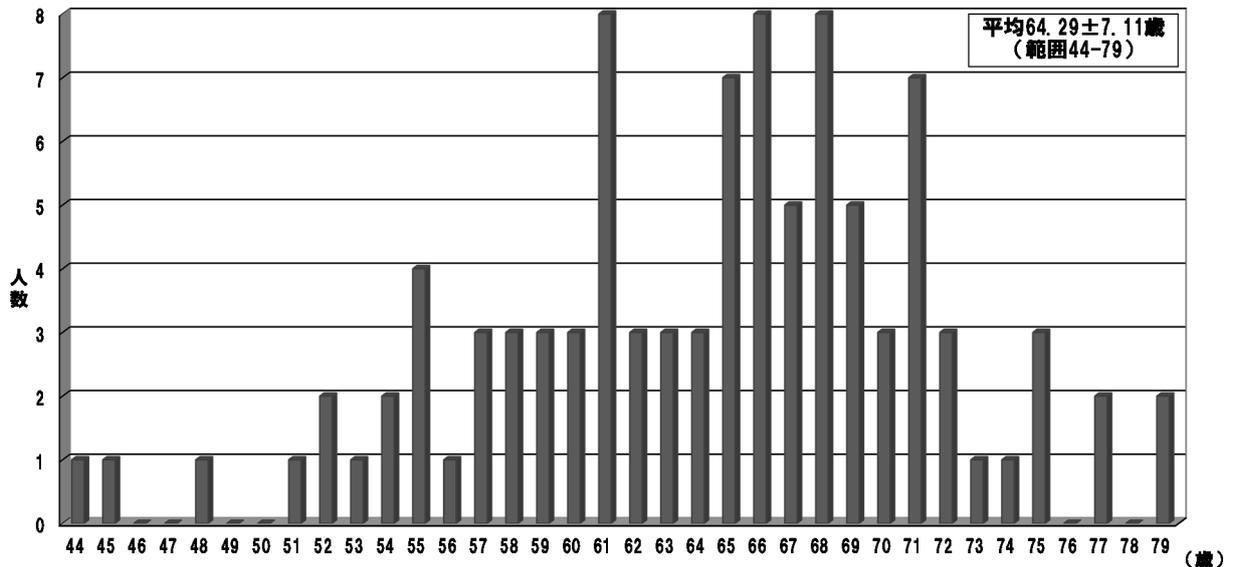


図1-3 家族回答者（父親）の年齢

両親の年齢に関して、母親と父親に分けて算出したのが図1-2, 1-3です。

母親の年齢に関しては、平均60.09であり、最年少が30歳、最年長が78歳でした。父親に関しては、平均64.29歳、最年少44歳、最年長79歳でした。昨年同様、母親の平均年齢が60歳を超えていますが、昨年度は母親の平均年齢が60.18歳、父親が64.41歳であり、若干平均年齢が下がりました。

(4) 家族回答者と引きこもり本人との同別居

図1-4に示すように、調査回答者と引きこもり本人の同別居に関しては、同居している人が77.4%です。昨年度の調査では同居している割合が85.8%でしたが、大幅に減少しました。

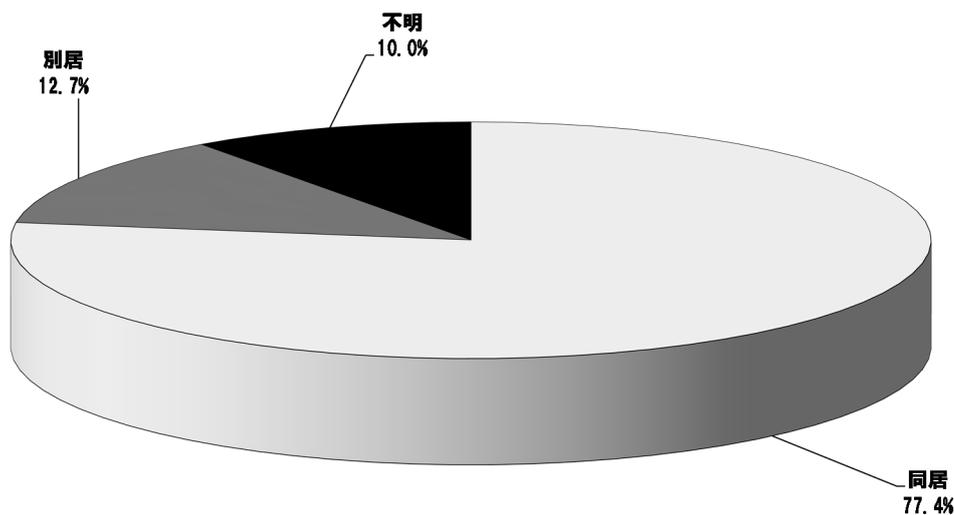


図1-4 引きこもり本人と家族回答者の同・別居

(5) 引きこもり本人の性別

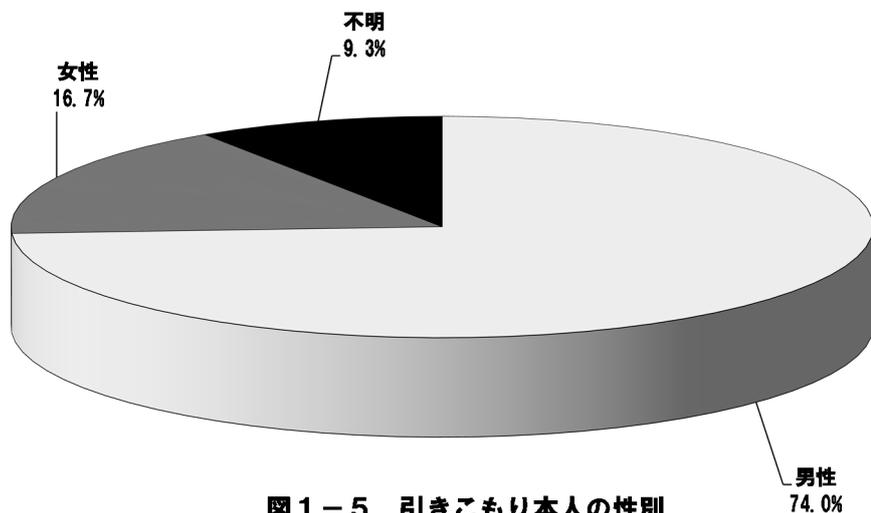


図1-5 引きこもり本人の性別

引きこもり本人の性別については、男性が74.0%、女性が16.7%でした。

(6) 引きこもり本人の年齢

全体では平均31.47歳であり、最年少が12歳、最年長が52歳でした。男性に関しては、平均年齢31.92歳であり、最年少が12歳、最年長が51歳でした。女性に関しては、平均年齢30.33歳、最年少が13歳、最年長が44歳でした。昨年度は全体で31.61歳、男性で32.04歳、女性で29.84歳でした。このことから、女性の平均年齢が30歳を超えましたが、全体や男性の平均年齢は若干ですが下がっています。

(7) 引きこもり開始年齢

引きこもりが始まった時期については、図1-8に示すとおりで、平均は19.85歳、最年少が8歳、最年長が39歳でした。この値は、昨年と同様です。

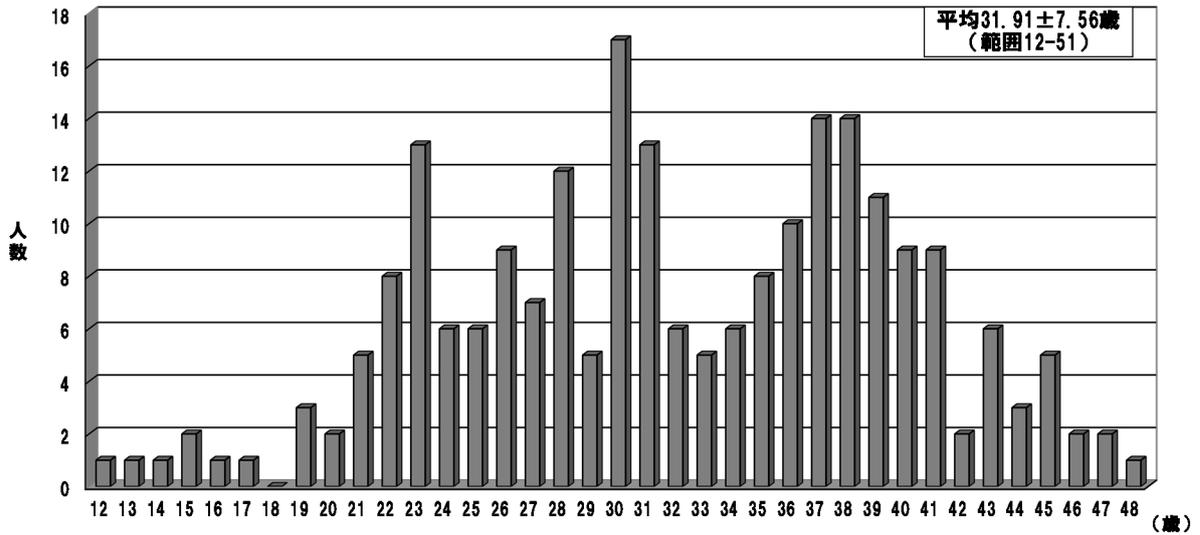


図1-6 引きこもり本人（男性）の年齢

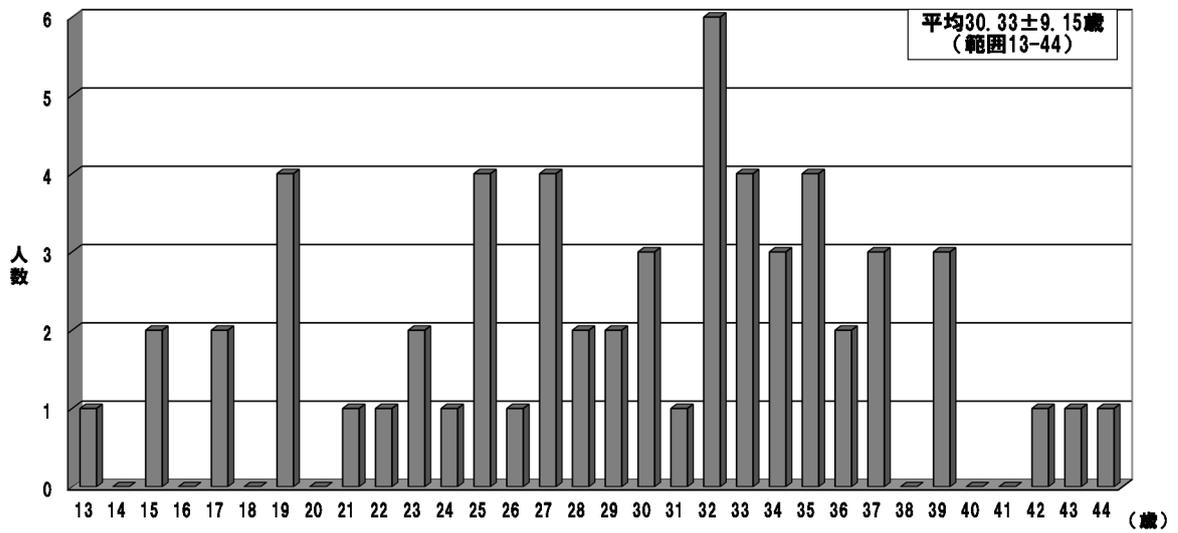


図1-7 引きこもり本人（女性）の年齢

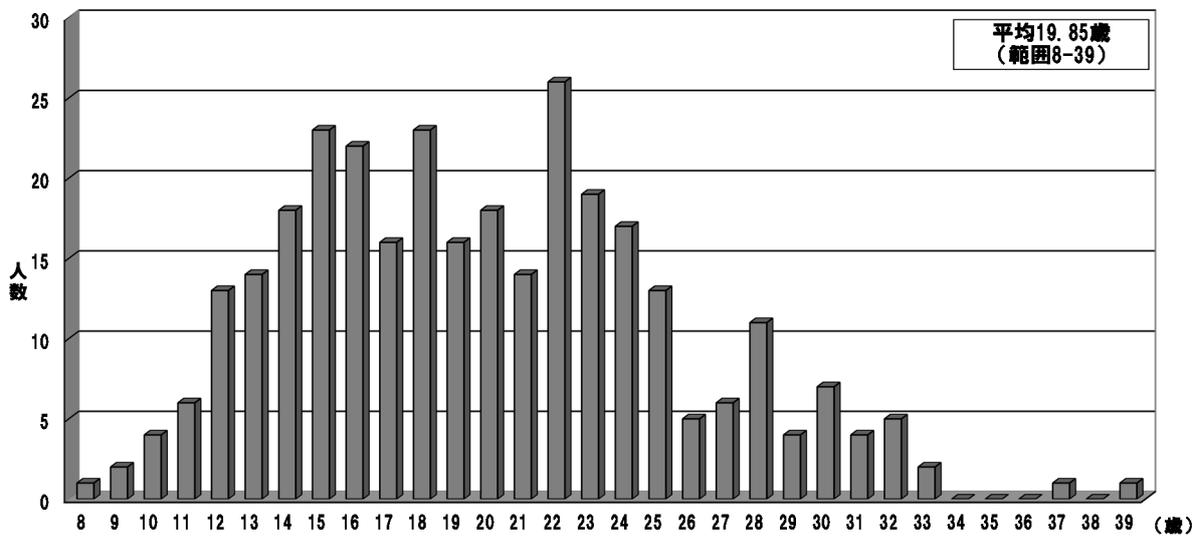


図1-8 引きこもりの開始年齢

(8) 引きこもり期間

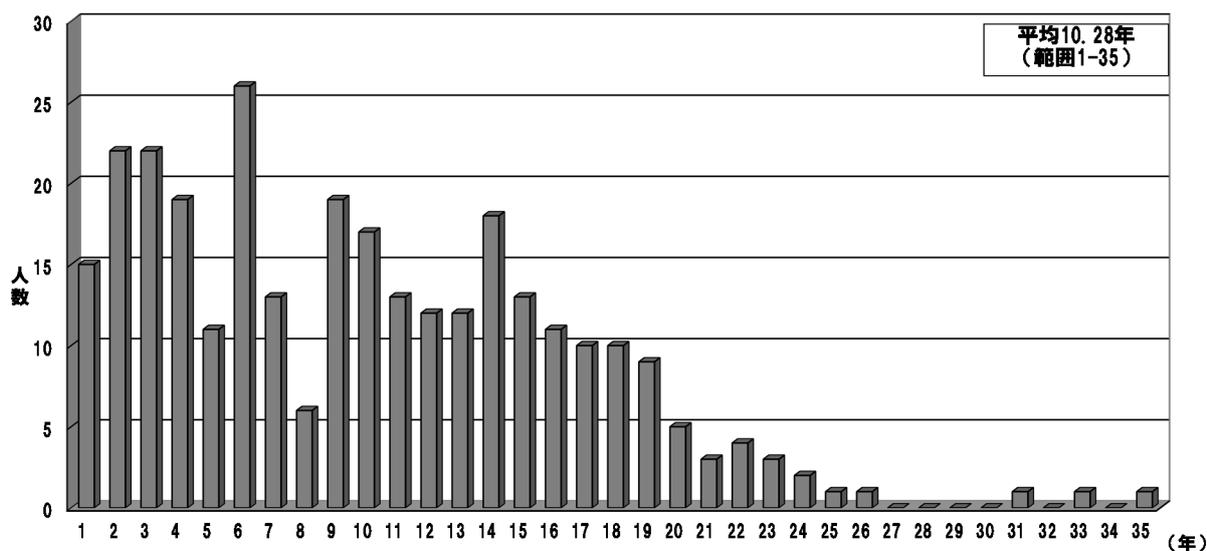


図1-9 引きこもり期間

平均10.28年であり、最長が35年でした。引きこもり期間についての数値は、調査実施時期までの引きこもり期間といえます。この値は昨年とほぼ同等です。

(9) 引きこもりの程度

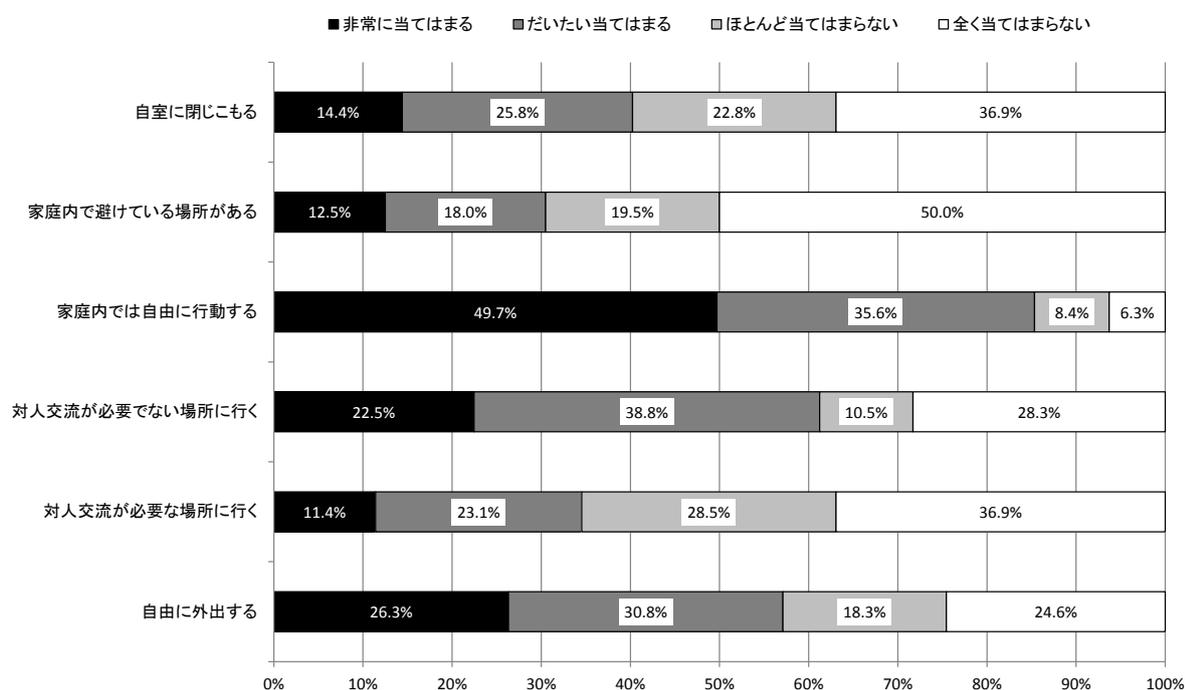


図1-10 引きこもりの程度

引きこもりの程度については、図1-10から家庭内では自由に行動できる人が多いことがわかります。このことから、多くの場合、家族関係がある程度良好に保たれていると推測されます。一方で、対人交流が必要な場所にいける人は最も少なく、引きこもり本人が人との交流を避けていることがわかります。

(10) 引きこもり本人の相談機関の利用

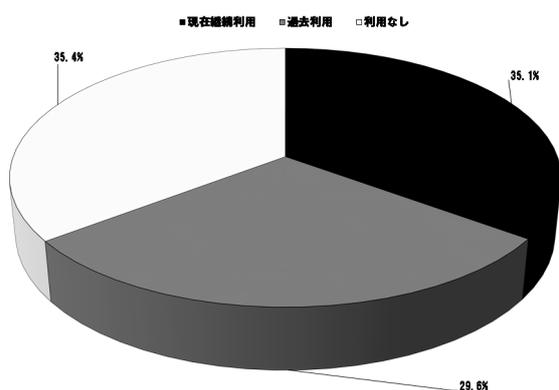


図1-11 引きこもり本人の相談機関利用状況

引きこもり本人の相談機関の利用は、現在利用している人が35%、過去に利用したことのある人が30%となっています。利用したことのない人が35%と3分の1にも上り、引きこもり本人の多くが相談機関を利用していないことが分かります。

(11) 家族回答者の相談機関の利用

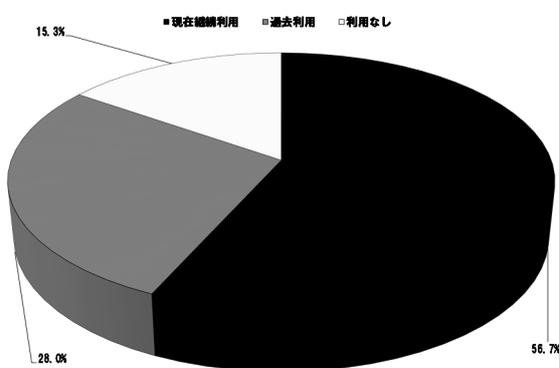


図1-12 家族回答者の相談機関利用状況

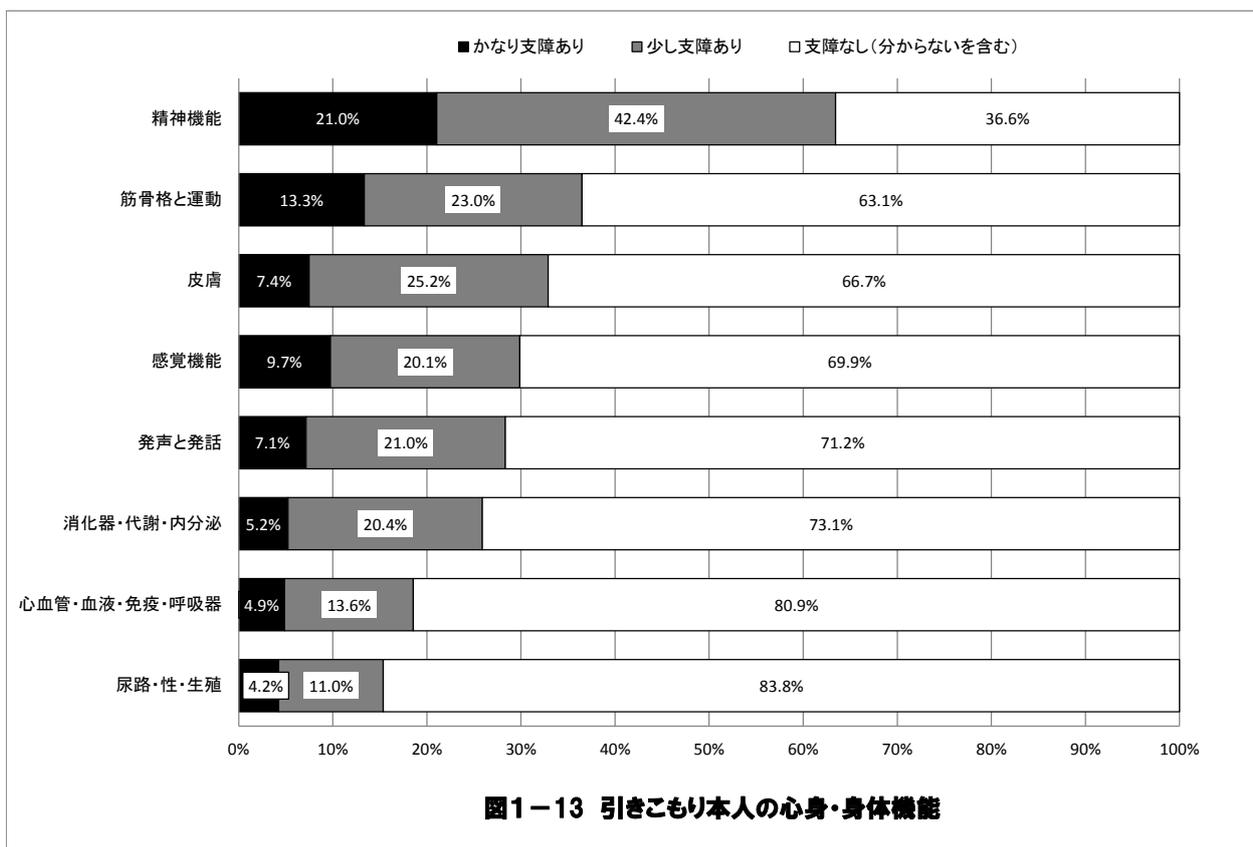
家族回答者の半数以上は、現在相談機関を利用していることがわかります。これまでに相談機関を利用したことのない人は、15%にとどまっています。引きこもり本人と比較して、家族が相談機関の利用に積極的な実態が分かります。

(12) 生活機能

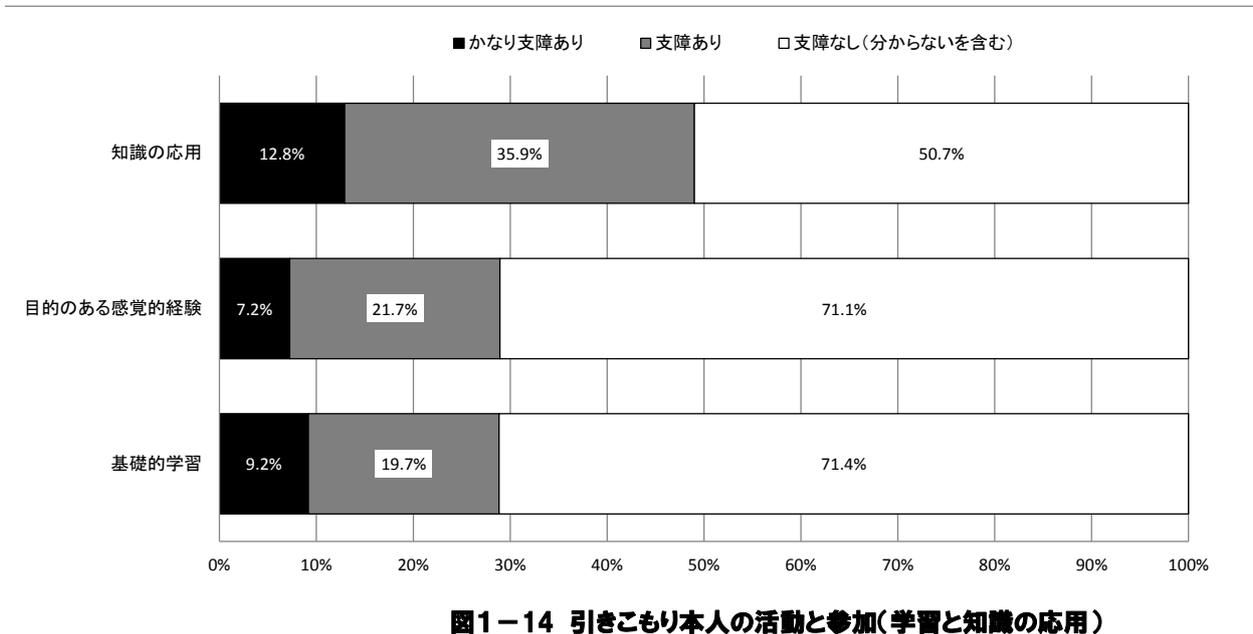
①心身・身体機能

心身・身体機能に含まれる項目の中で最も多くの人に支障が出ているのは精神機能でした。精神機能には、意識、睡眠、注意力、記憶力が具体的な例として挙げられています。家族から見ると、引きこもり本人の60%以上で精神機能に支障が生じていることがわかります。このことは、引きこもりと精神疾患の関連からも十分予測しえた結果であるといえます。

その他に30%以上の家族が、引きこもり本人の生活に支障が生じている項目として、骨格筋と運動、皮膚、感覚機能をあげています。骨格筋と運動には、関節と筋、運動機能が含まれています。皮膚には、皮膚、毛、爪が含まれています。感覚機能には、視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚が含まれています。その他の領域においても、10～30%の人が何らかの支障を感じている実態が示されました。こうしたことから、引きこもり状態は広範囲の心身・身体機能と関連があると推測されます。

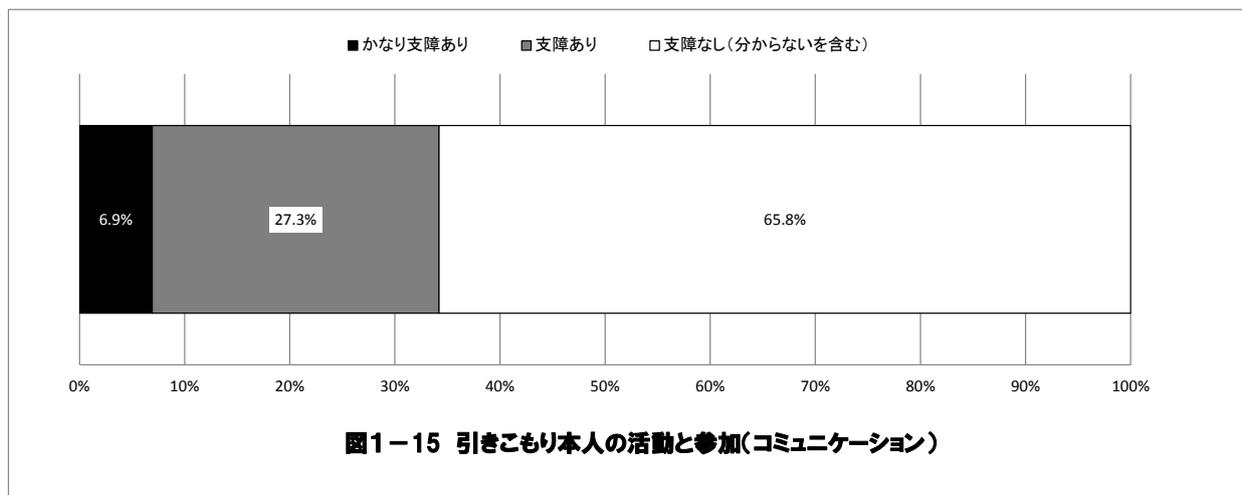


②活動と参加
・学習と知識の応用



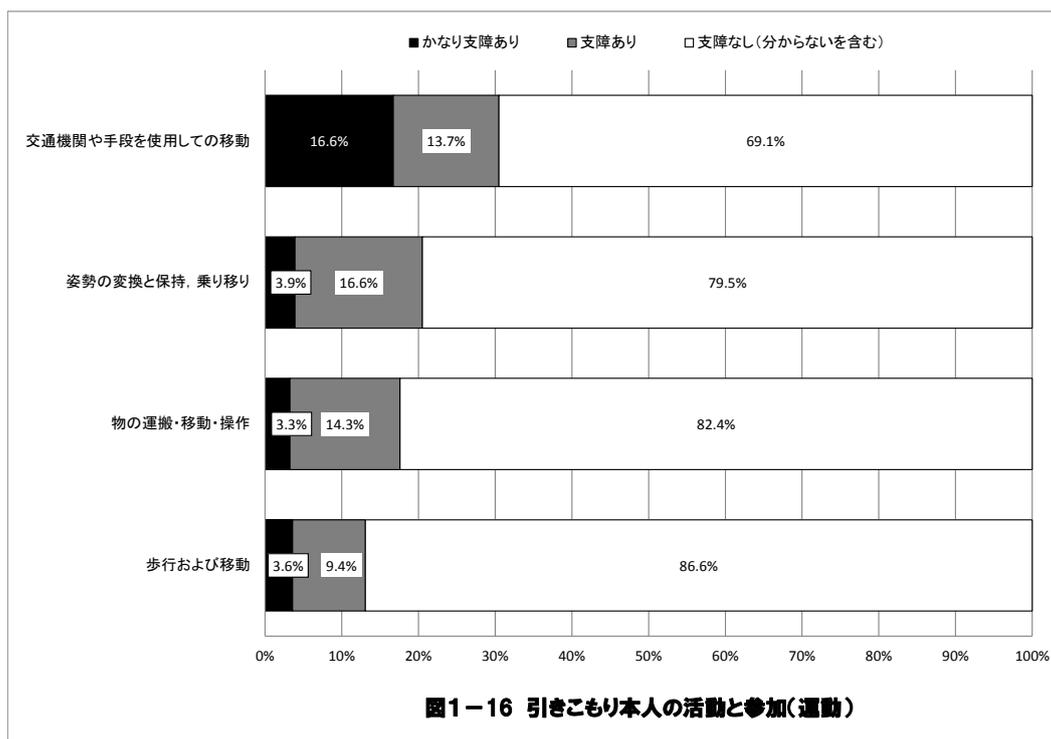
注意の集中，問題解決，意思決定を含む知識の応用において，引きこもり本人の49%に支障が生じていることが示されました。基礎的学力や目的のある感覚的経験（注意して見る・聞く）といった基礎的学習ではなく，応用に支障が生じているといえます。このことは，社会経験の不足によって引きこもり本人の生活に支障が生じていることを意味していると考えられます。

・コミュニケーション



話し言葉の理解，非言語的・書き言葉によるメッセージの理解といったコミュニケーションに支障が生じているのは，引きこもり本人の34%でした。

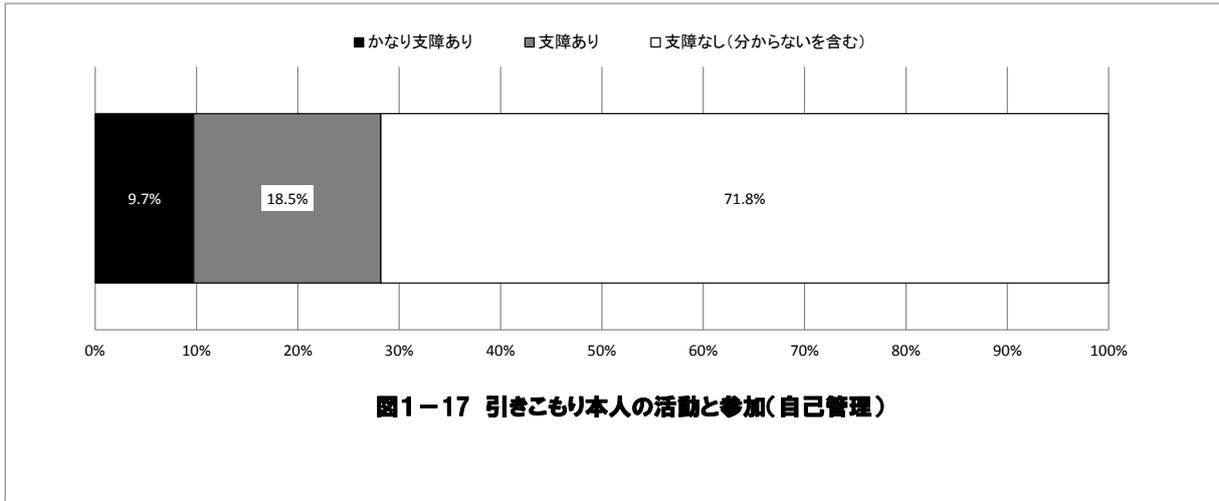
・運動



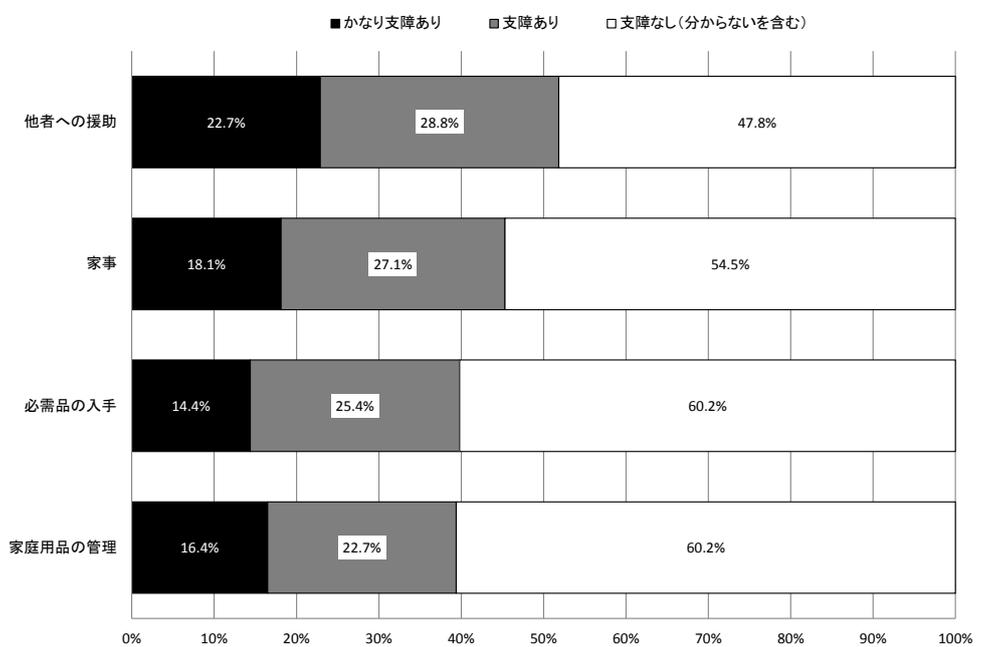
交通機関や手段を使用しての移動に支障を生じている引きこもり本人が31%いることがわかりました。

・自己管理

体を洗う，身体各部の手入れ，排泄，更衣，食べる，飲む，健康に注意するといった自己管理に支障が生じている引きこもり本人は28%でした。



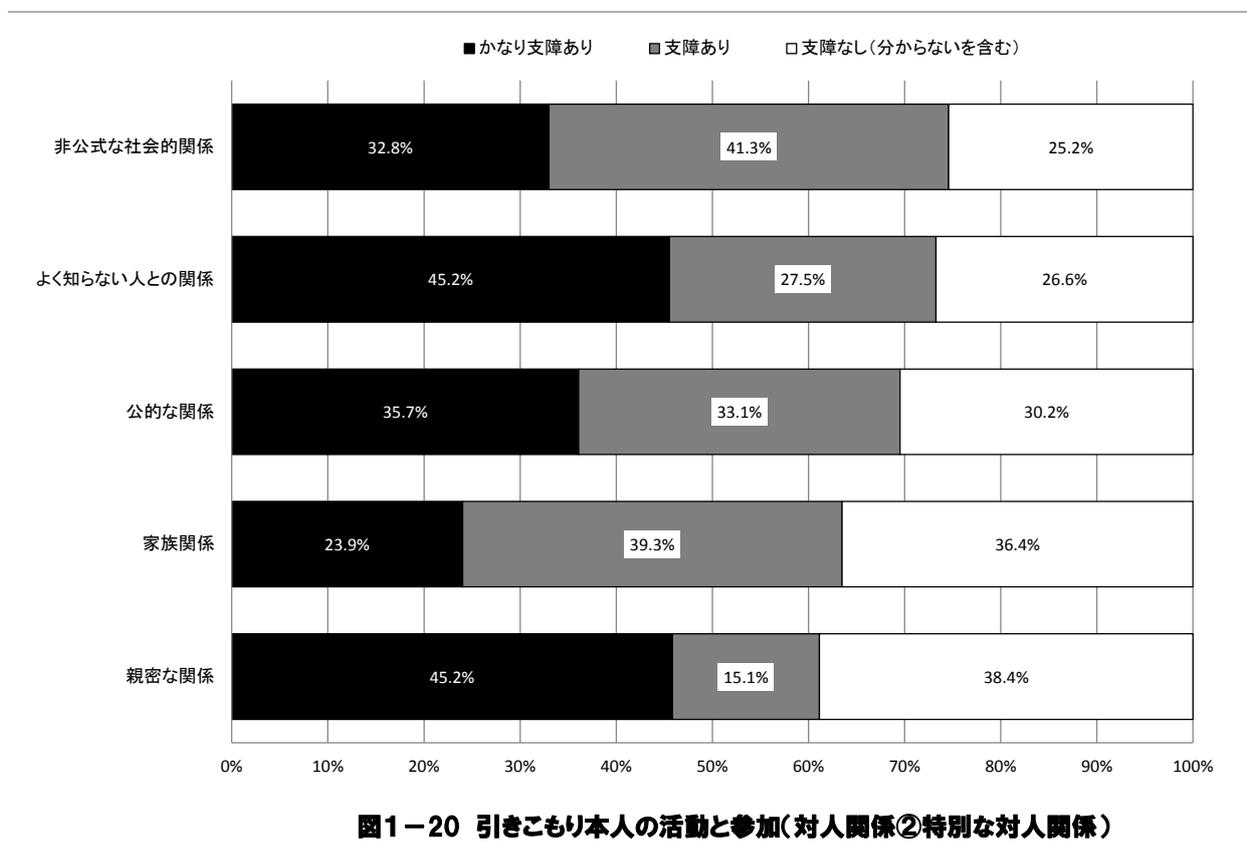
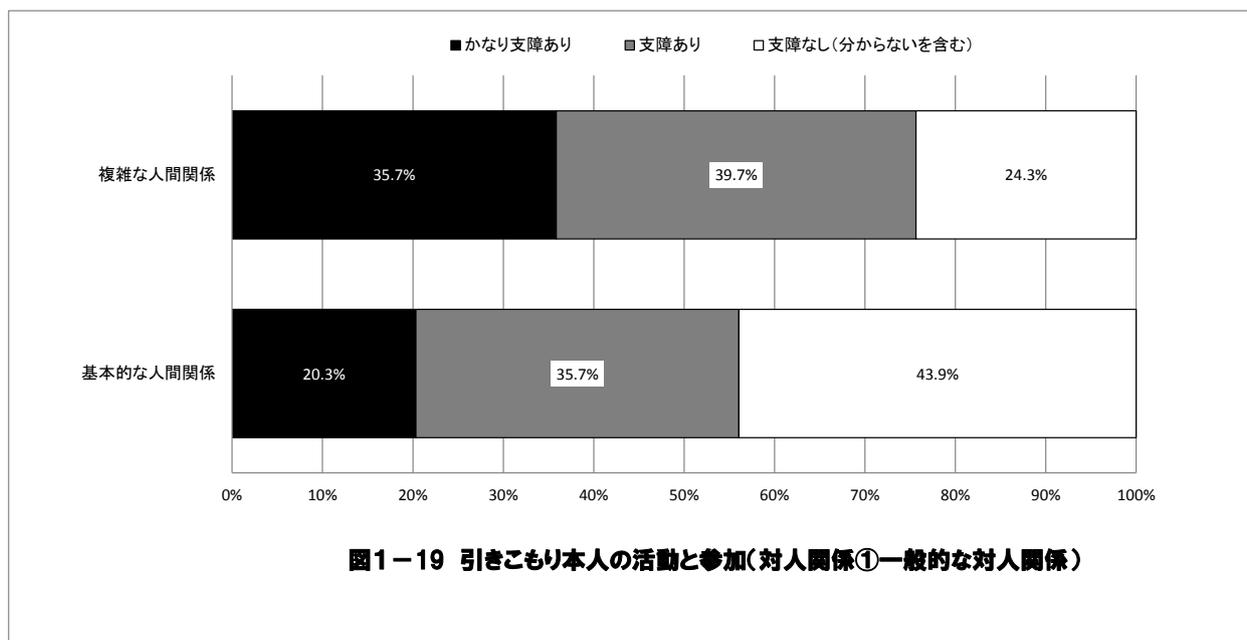
・家庭生活



家庭生活において、他者への援助や家事（調理，調理以外の家事）において支障の生じている引きこもり本人が50%近くいることが分かりました。その他にも、必需品の入手（住居・物品・サービスの入手），家庭用品の管理に支障の生じている引きこもり本人も40%に上りました。引きこもり本人が家庭生活において、多くの支障を抱えている実態が浮き彫りにされました。

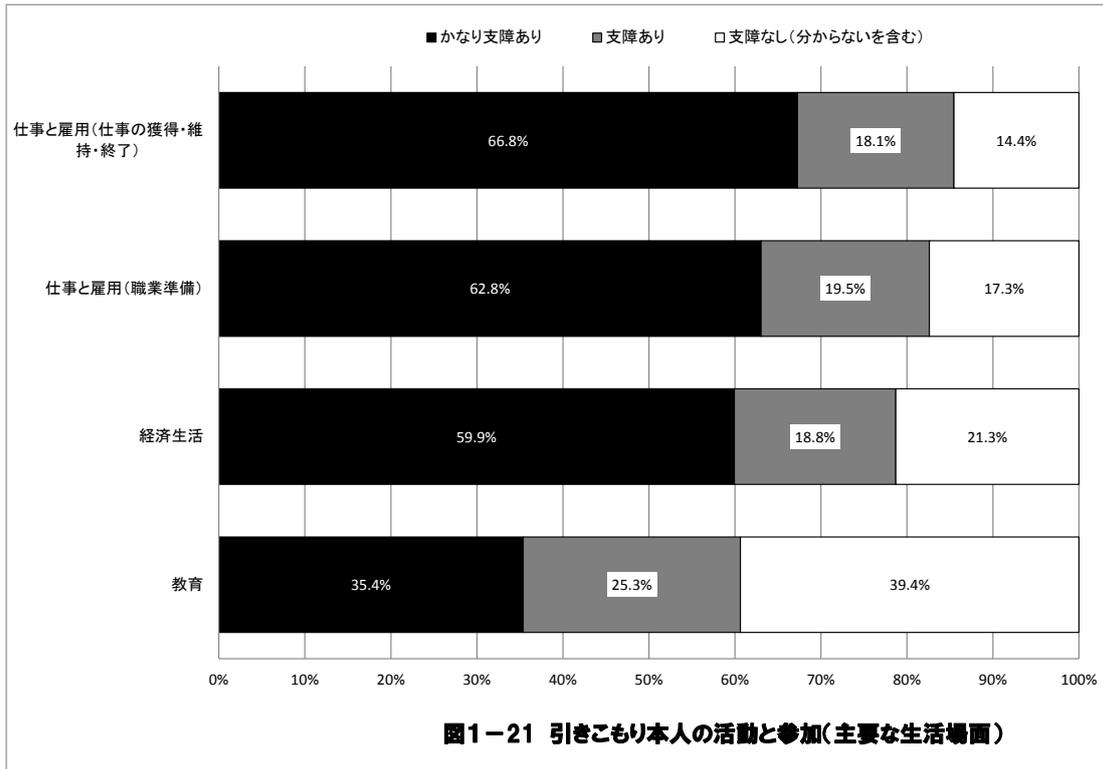
・対人関係

一般的な対人関係において、形成・終結，対人関係における行動の制御，社会的ルールに従った対人関係を含む複雑な人間関係に支障を生じている引きこもり本人は76%に上りました。また、敬意と思いやり，感謝，寛容さ，批判，合図，身体的接触を含む基本的な人間関係において支障を生じている引きこもり本人は56%でした。対人関係の中でも複雑な人間関係において、多くの引きこもり本人が支障を抱えている実態が示されました。



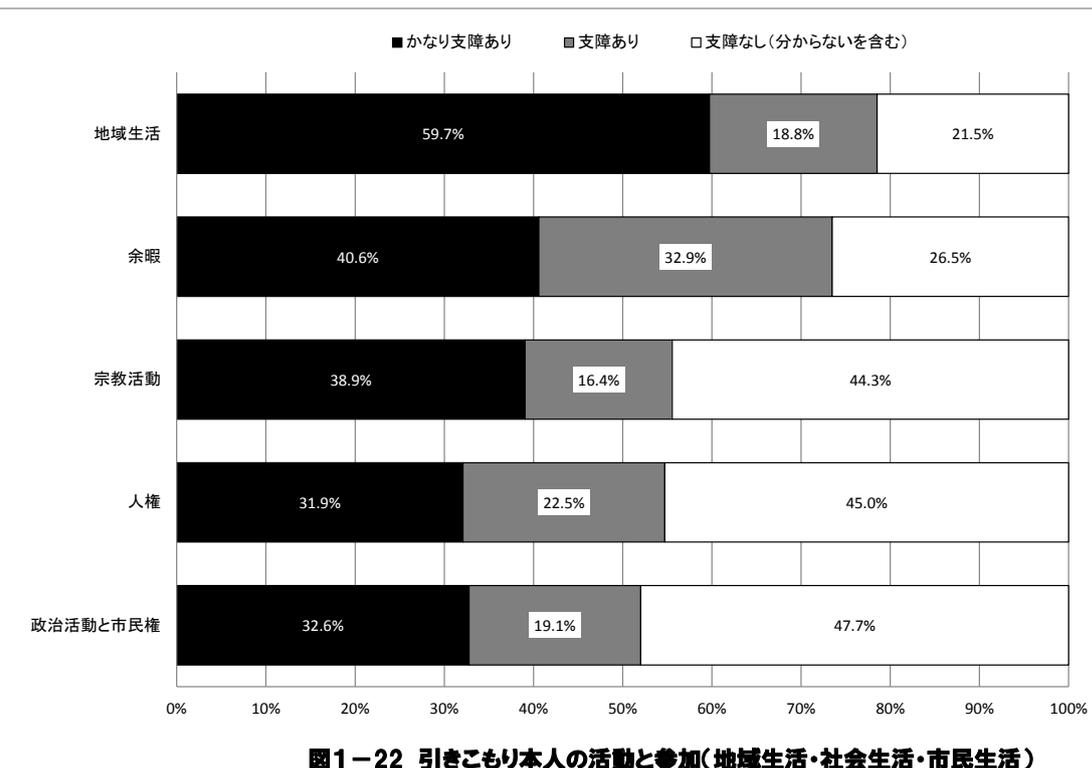
また、特別な対人関係において、非公式な社会的関係（友人，隣人，知人，同居者，仲間），よく知らない人との関係，公的な関係（権限のある人，下位の立場にある人，同等の立場にある人）において，70%近くの引きこもり本人が支障を抱えているといえます。また，家族関係（子ども，親，兄弟姉妹，親族）や親密な関係（恋愛関係，婚姻関係，親密な関係）においても60%を超える引きこもり本人が支障を抱えています。特に，親密な関係においては，かなり支障がある引きこもり本人が45%に上っています。

・ 主要な生活場面



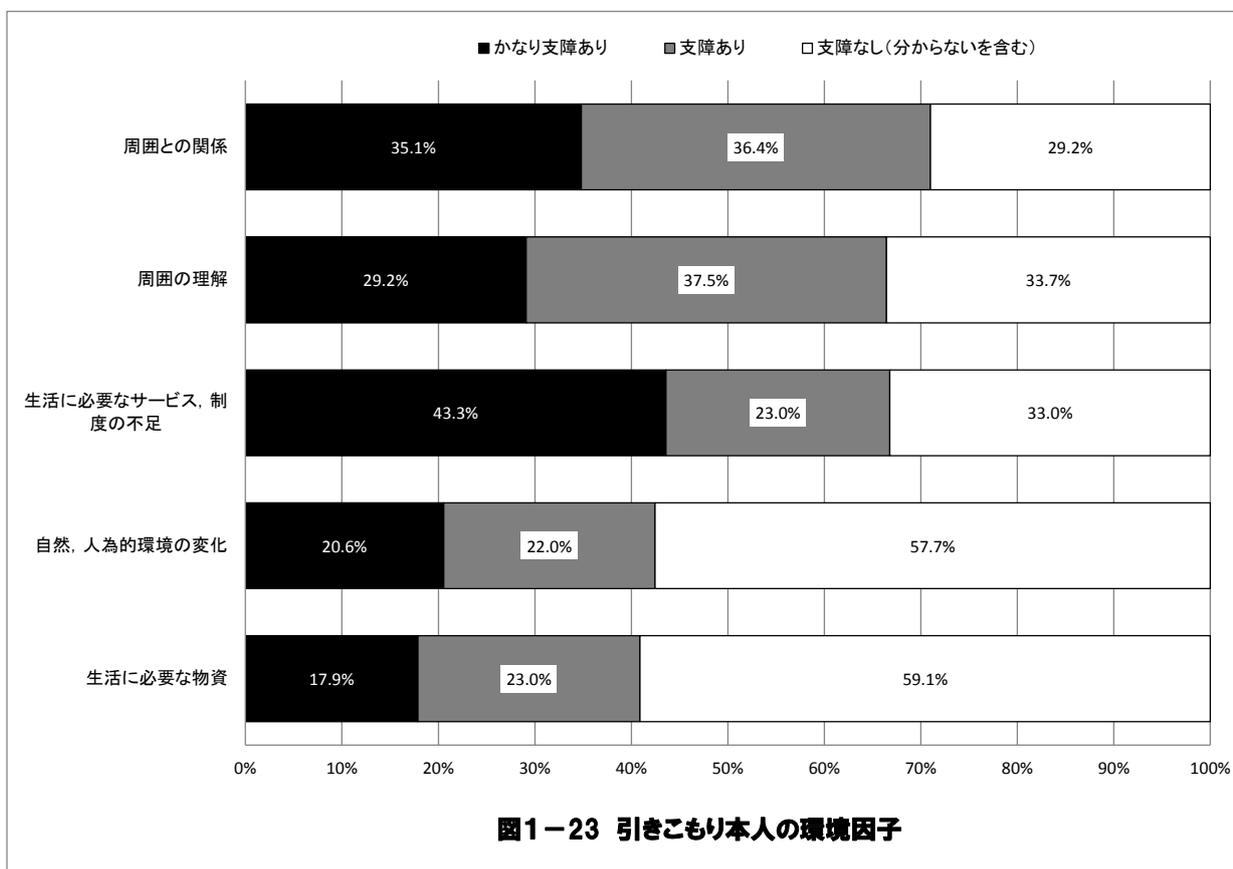
仕事の獲得・維持・終了，職業準備，経済生活において，80%の引きこもり本人が支障を抱えていることが分かります。教育（非公式な教育，就学前教育，学校教育，職業訓練，高等教育）においても，60%の引きこもり本人に支障が生じています。主要な生活場面において，多くの引きこもり本人に支障が生じているといえます。

・ 地域生活・社会生活・市民生活



地域生活（非公式団体，公式の団体，式典）や余暇（遊び，スポーツ，芸術と文化，工芸，趣味，社交）において支障が生じている引きこもり本人が多く認められました。宗教活動（宗教行事への出席，祈り，など），人権（機会均等，自己決定，など），政治活動と市民権（選挙権，黙秘権，言論の自由，など）においても，半数を超える引きこもり本人に支障が生じてます。

③環境因子



周囲との関係，周囲の理解，生活に必要なサービス，制度の不足（公共交通機関，社会保障，労働・雇用）において70%近くの引きこもり本人が支障を抱えています。多くの引きこもり本人が環境因子に示された領域において支障を抱いていると言えます。

(13) 引きこもりと家族関係

①家族回答者と引きこもり本人，配偶者の関係

図1-24は家族回答者と厚生労働省による調査における統合失調症及び統合失調症性感情障害患者の家族の当事者及び家族（配偶者）に対する態度（宇佐美ら，2009）を示しています。家族回答者の本人への態度と家族（配偶者）への態度は，統合失調症及び統合失調症性感情障害患者の家族よりも高いことから，家族回答者の引きこもり本人への態度は親の会に参加することによって改善されている可能性が考えられます。

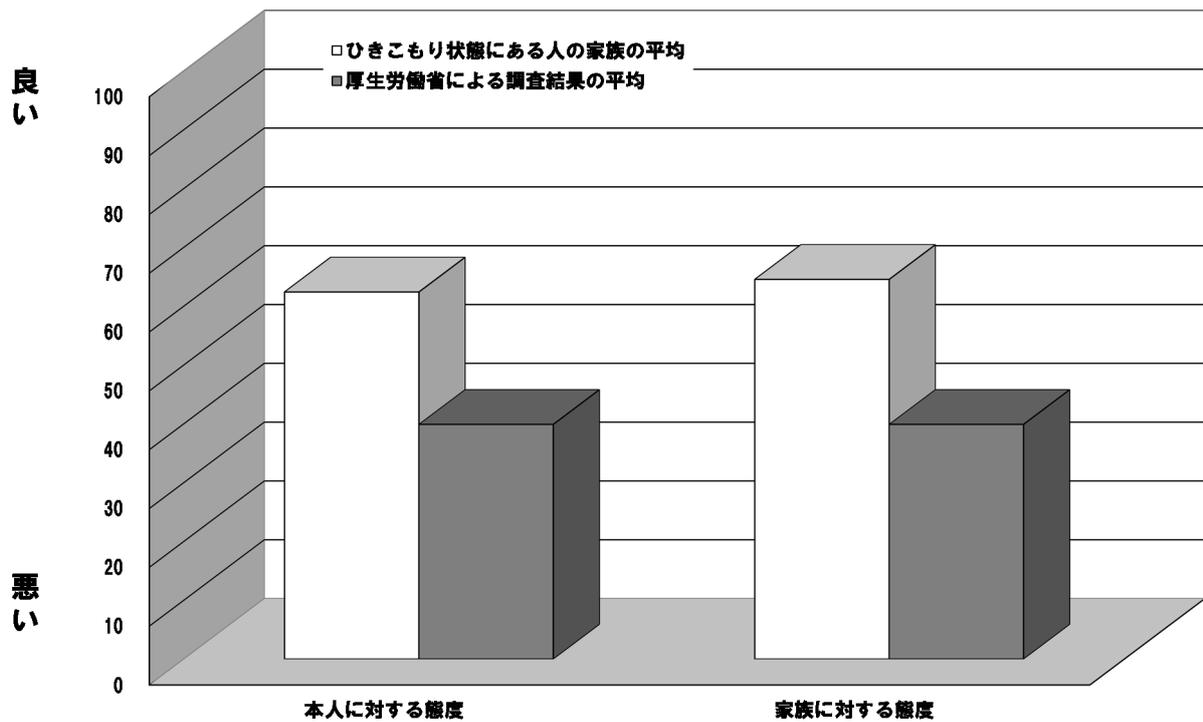


図1-24 家族回答者と引きこもり本人、配偶者の関係

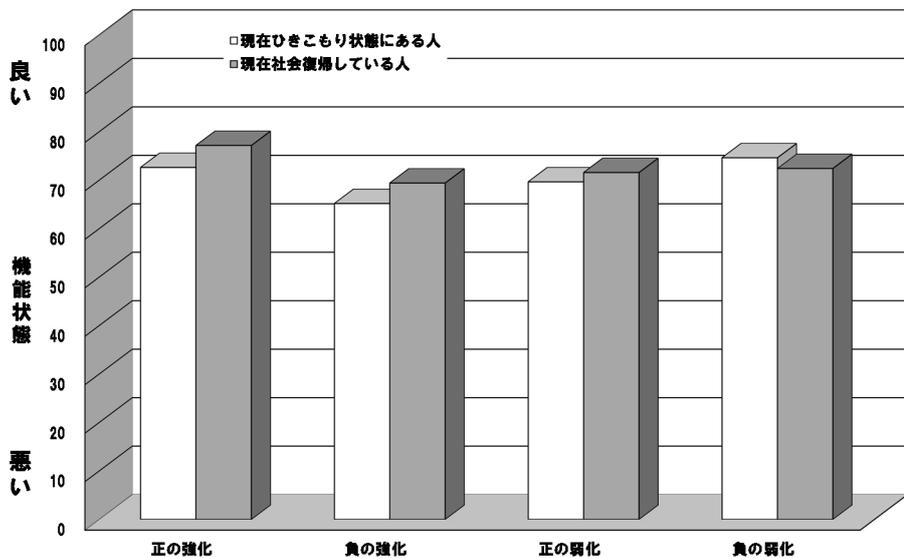


図1-25 家族回答者と引きこもり本人の関係の機能状態

②家族回答者と引きこもり状態にある人の家族機能

図1-25は現在引きこもり状態にある人について回答した家族回答者と、現在は社会復帰している人について回答した家族回答者の家族機能を示しています。現在引きこもり状態にある人について回答した家族回答者の家族機能は、現在は社会参加している人について回答した家族回答者の家族機能よりも正の強化、負の強化、正の弱化ではやや低く、負の弱化ではやや高くなりましたが、ほぼ同程度であることが分かります。これまでの研究から、ひきこもり状態にある人の家族の家族機能が損なわれて

いることが指摘されていますが，本研究の調査からは，現在引きこもり状態にある人がいる家族は，現在社会参加している人がいる家族と同程度に家族関係が機能していることが分かります。

第二部 本人調査

1. 目的

本調査においては、本人回答者の生活機能と就職活動水準について調査を実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会の支部会、準地区会が平成23年11月～平成24年1月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会の当事者の会に参加している方のうち、調査協力の得られた106名の回答が解析に用いられました。

(2) 調査内容

①基礎情報 本人回答者に関する以下の情報について回答を求めました。

- ・現在住んでいる都道府県
- ・性別
- ・年齢
- ・引きこもりの期間
- ・現在の引きこもりの程度
- ・相談機関利用状況

②生活機能

生活機能について「心身機能・身体構造」，「活動と参加」，「環境因子」について回答を求めました。項目は，「心身機能・身体構造」8項目，「活動と参加」30項目，「環境因子」5項目で構成されています。項目作成においては，ICFイラストライブラリー（高橋，http://www.icfillustration.com/icfil_jpn/top.html）を参考にしました。

③成人用ソーシャルスキル尺度

相川ら（2005）が作成したコミュニケーションスキルと対人スキルの2つの側面から同時に測定できる尺度であり35項目で構成されています。本人回答者のソーシャルスキル得点を調査することにより，本人回答者の対人関係を円滑にする能力を明らかにすることを目的に用いました。

④日本語版Mindful Attention Awareness Scale (MAAS)

若松ら（2011）が作成し，注意と気づきを測定する10項目で構成されています。

⑤日本語版Acceptance and Action Questionnaire-II (AAQ-II)

木下ら（2008）が作成し，体験の回避の程度を測定する10項目で構成されています。

⑥就職活動水準

松田・永田・新井（2010）や太田・岡村（2006）を参考に，現在の就職に向けた活動水準を測定しました。対象者が行なっていると予測される活動（エントリー，訪問・説明会への参加，履歴書の提出，就職試験・面接，その他の5つ）について，具体的な回数を数値で尋ねたものです。また主観的な活動水準として，就職活動への努力度と満足度を0～100の数値で尋ねました。

(3) 調査手続き

月例会において調査用紙を配布し、その場で回収しました。しかし、各支部会の運営の事情から、配布したものを持ち帰ってもらい翌月の月例会に記入の上で持参したものを回収したり、郵送による配布、回収を行った回答者もいました。

3. 結果

(1) 本人回答者が住んでいる場所

表1-1 本人回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	山形県	6	近畿地方	大阪府	6
	青森県	3		兵庫県	1
	北海道	1	中国地方	山口県	4
甲信越地方	新潟県	37		広島県	1
関東地方	千葉県	17	四国地方	香川県	2
	埼玉県	9		徳島県	2
	東京都	1	九州地方	鹿児島県	1
東海地方	静岡県	2	不明		11
	愛知県	2	合計		106

表1-1に示したとおり、本人回答者が住んでいる場所は16都道府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が9.4%、甲信越地方が1.1%、関東地方が25.5%、東海地方が3.8%、近畿地方が6.6%、中国地方が3.8%、九州地方が0.9%、不明が10.4%となっています。新潟県は回答者が特に多いことがわかります。これらの県では、親の会が運営している居場所に本人回答者が多く参加しているものと考えられます。

(2) 本人回答者の性別

性別は男性が77.4%、女性が16.0%、不明が6.6%でした。

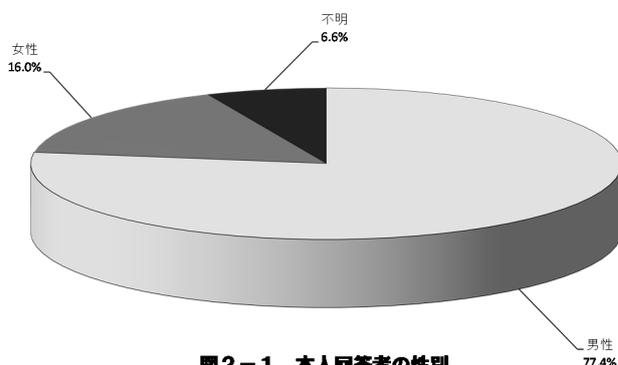


図2-1 本人回答者の性別

(3) 本人回答者の年齢

本人回答者の平均年齢は29.96歳±7.29歳であり、最年少が17歳、最年長が51歳でした。男性においては平均年齢が32.04歳、女性においては29.84歳でした。

(4) 引きこもりの開始年齢

引きこもりが始まった時期については、図2-4に示すとおりで、平均は19.0歳、最年少が5歳、最年長が31歳でした。

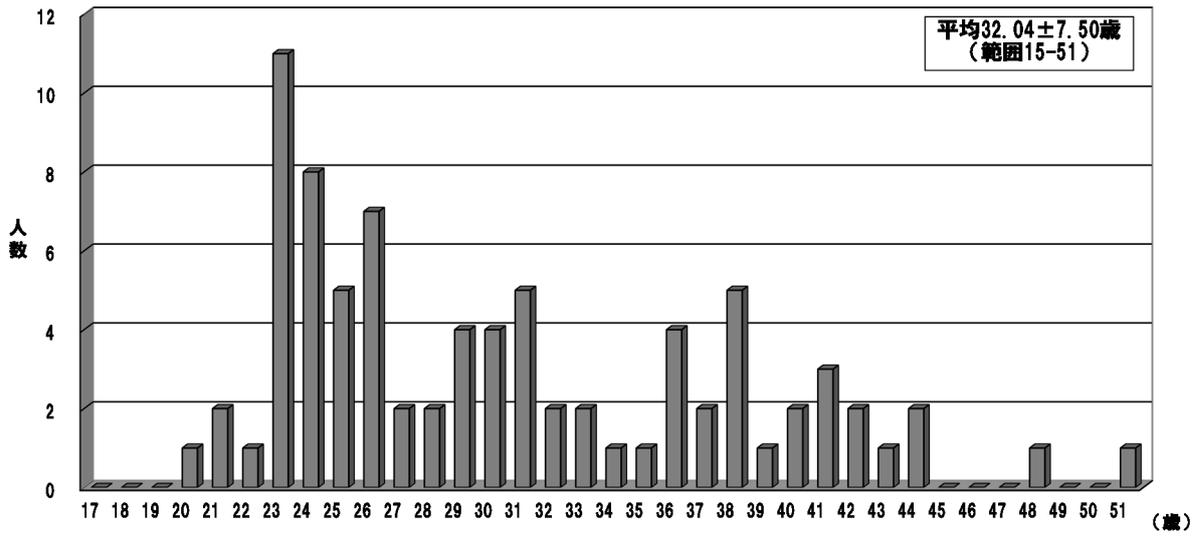


図2-2 本人回答者(男性)の年齢

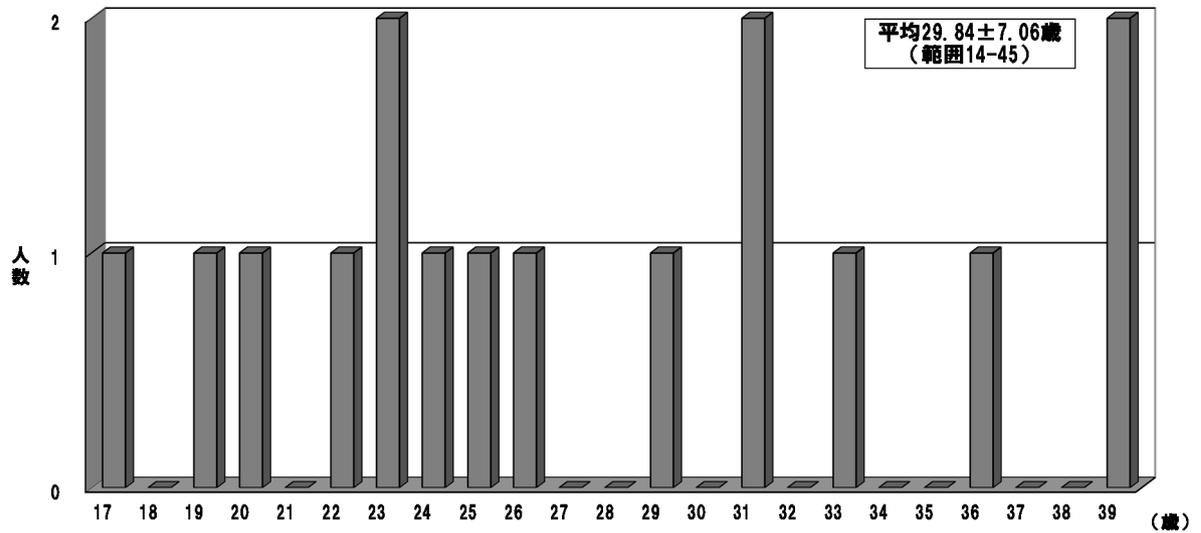


図2-3 本人回答者(女性)の年齢

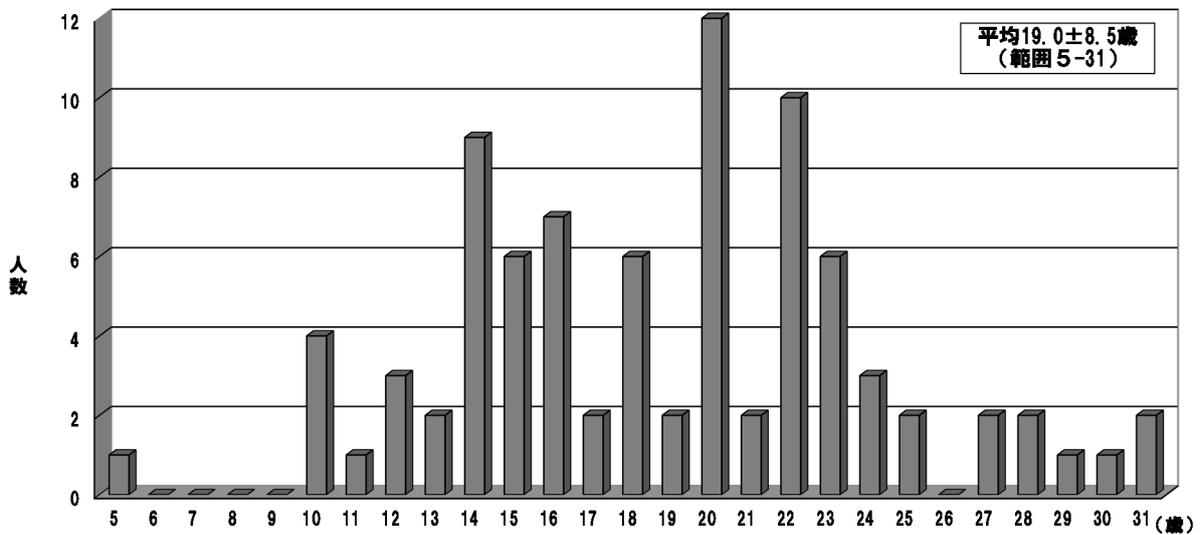


図2-4 引きこもりの開始年齢

(5) 引きこもり期間

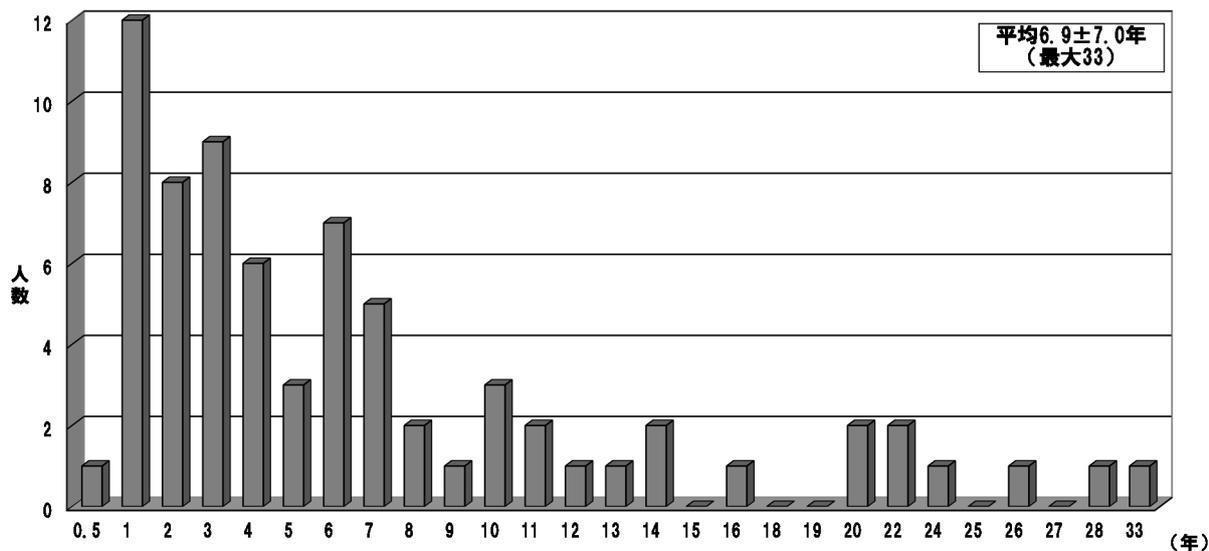


図2-5 引きこもり期間

平均の引きこもり期間は、6.9±7.0年，最大が33年でした。また，引きこもりの初発年齢の平均は19.0歳±8.5で，最大が31歳でした。

(6) 引きこもりの程度

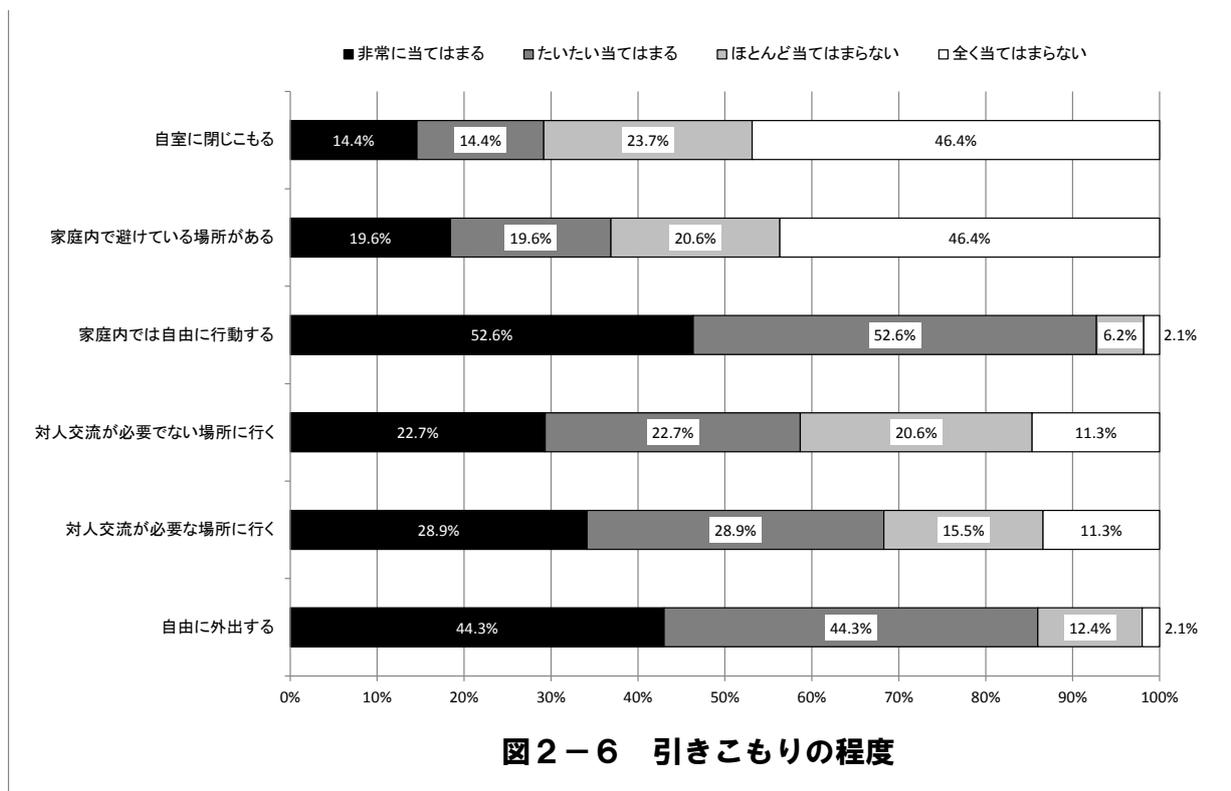
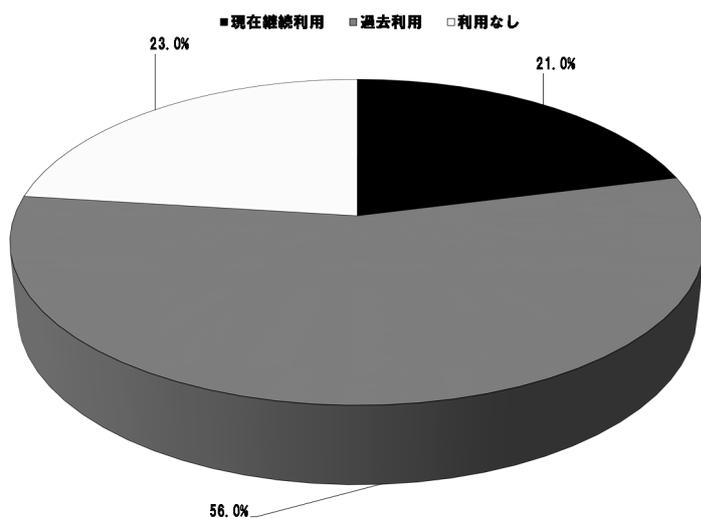


図2-6 引きこもりの程度

引きこもりの程度については、図2-6から家庭内では自由に行動でき、外出も自由にできている人がほとんどといえます。本人回答者の方は、引きこもりから回復している人がほとんどであることが分かります。

(7) 相談機関の利用



引きこもり本人の相談機関の利用は、現在利用している人が21%、過去に利用したことのある人が56%となっています。利用したことの無い人が23%となっており、本人回答者の多くが相談機関を利用していることが分かります。

図2-7 本人回答者の相談機関利用状況

(8) 生活機能

①心身・身体機能

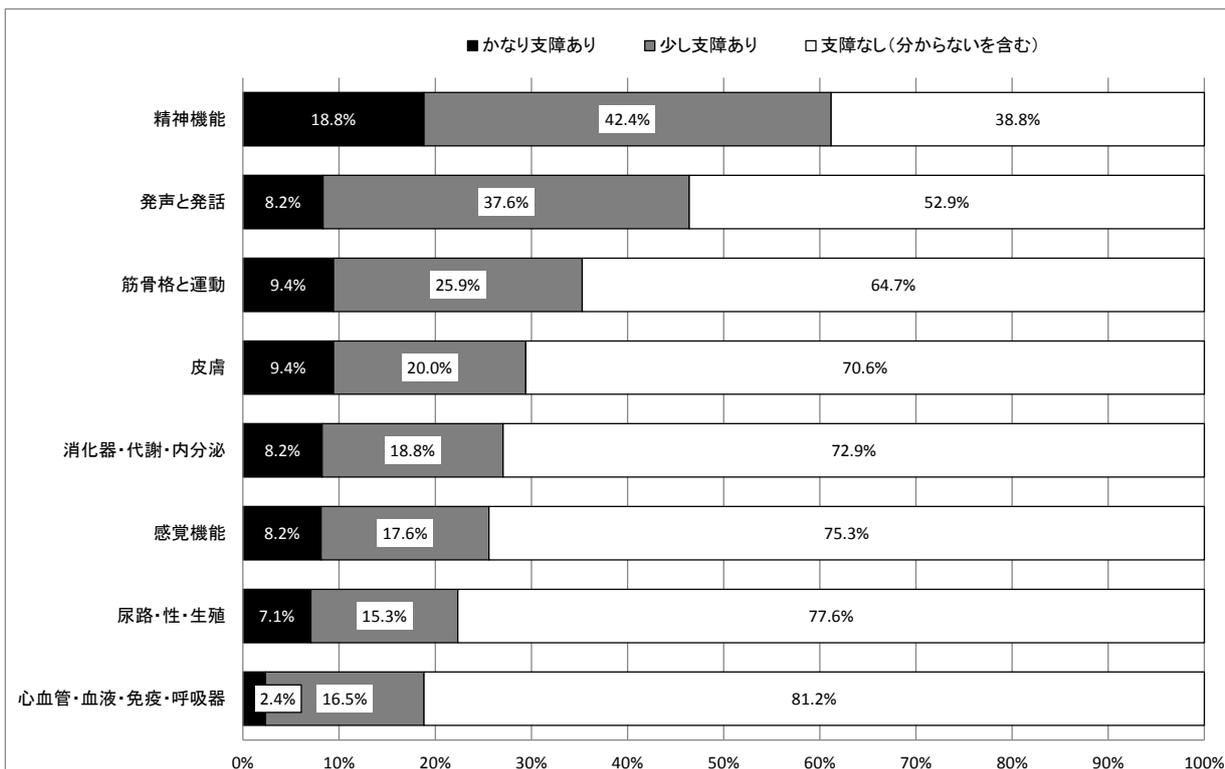
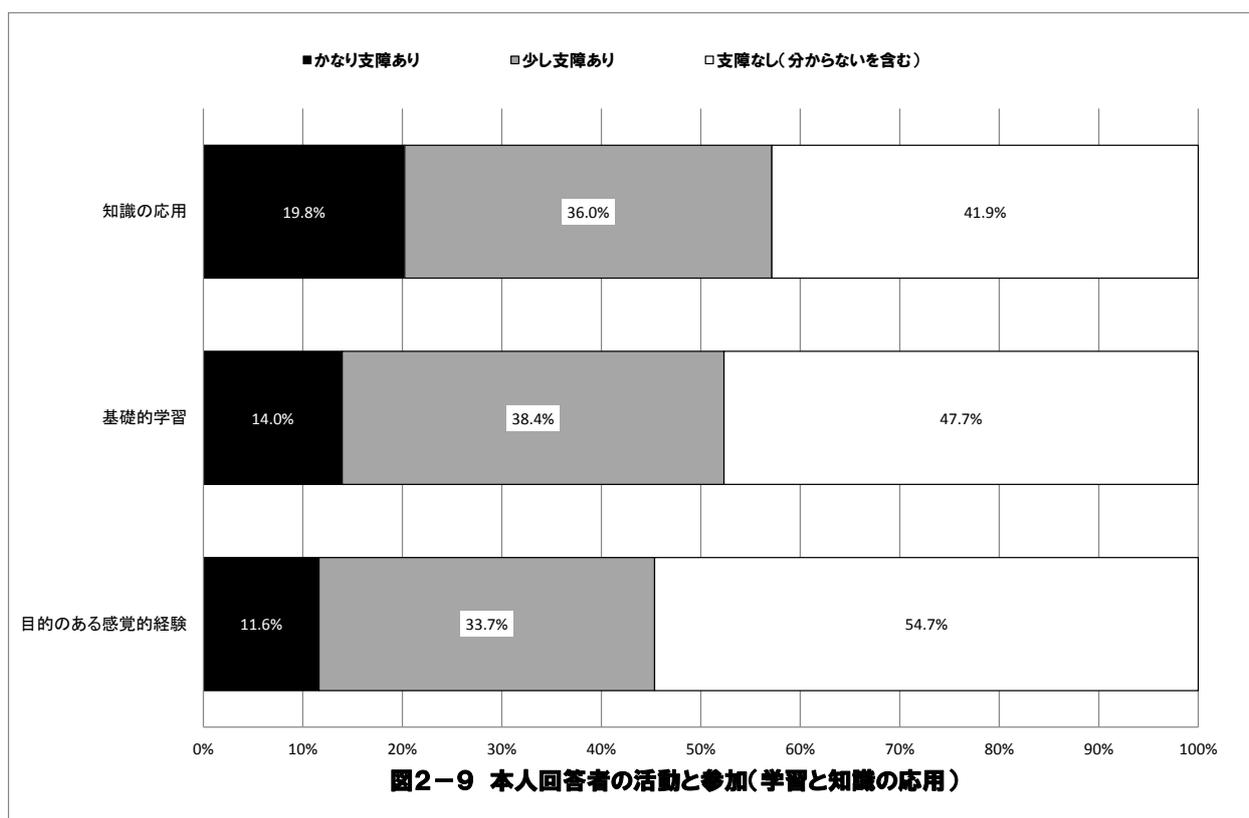


図2-8 本人回答者の心身・身体機能

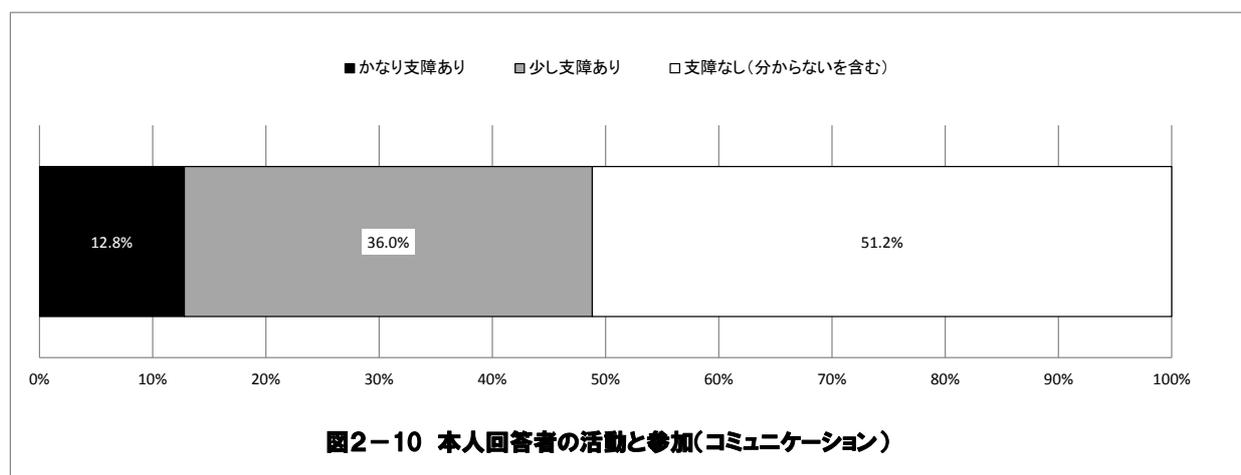
本人回答者の60%以上が、精神機能に支障を感じていることが分かります。家族調査では、次に多いのが筋骨格と運動でしたが、本人回答者においては、発声と発話でした。発声と発話には、音声、発話の流暢性とリズムが含まれています。本人回答者は、発声と発話に支障を感じている人が多いのは、家族の認識と異なる点です。

②活動と参加
 ・学習と知識の応用



家族回答者と同様に、知識の応用において支障を感じている本人回答者が多いことが分かります。基礎的学習や目的のある感覚的経験においても、家族回答者よりも本人回答者の方が、支障を感じている割合が多いことが分かります。学習と知識の応用に関しては、本人回答者の約半数が支障を感じていると言えます。

・コミュニケーション



コミュニケーションにおいても、本人回答者の方が家族回答者よりも支障を感じている人が多く、約半数の人が支障を感じています。

・運動

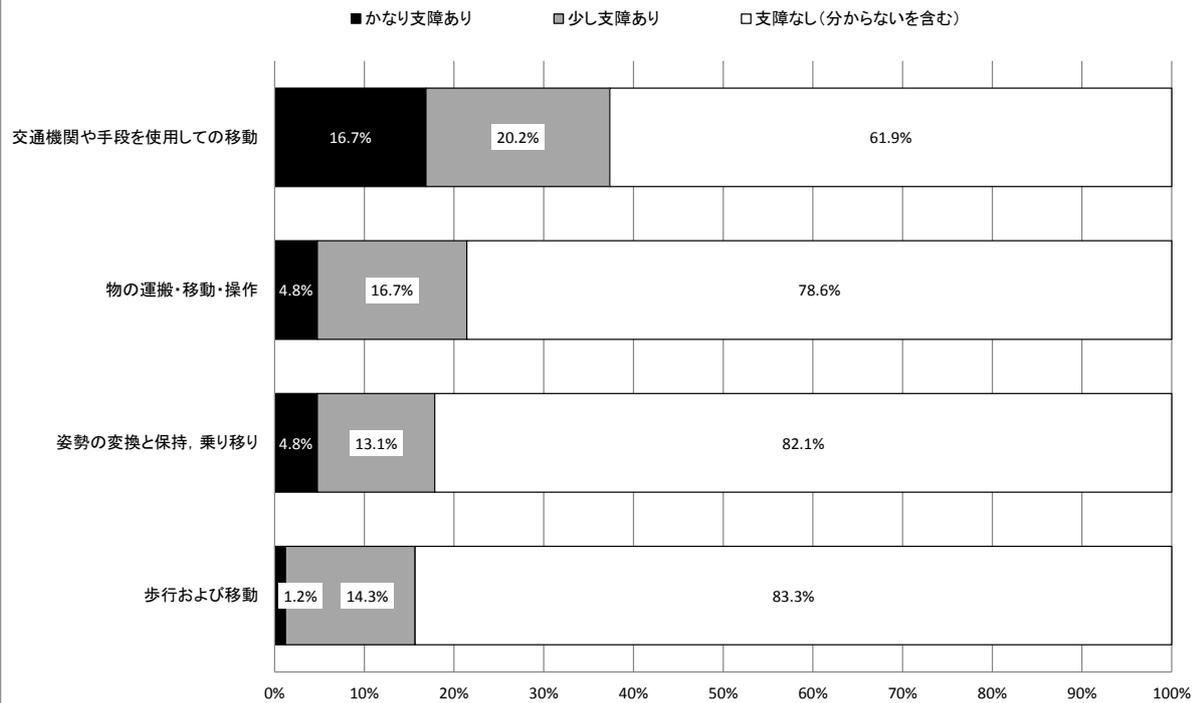


図2-11 本人回答者の活動と参加(運動)

運動に関しては、家族回答者と本人回答者の回答はほぼ同じ結果となりました。本人回答者の約4割が交通機関や手段を使用しての移動に支障を感じています。

・自己管理

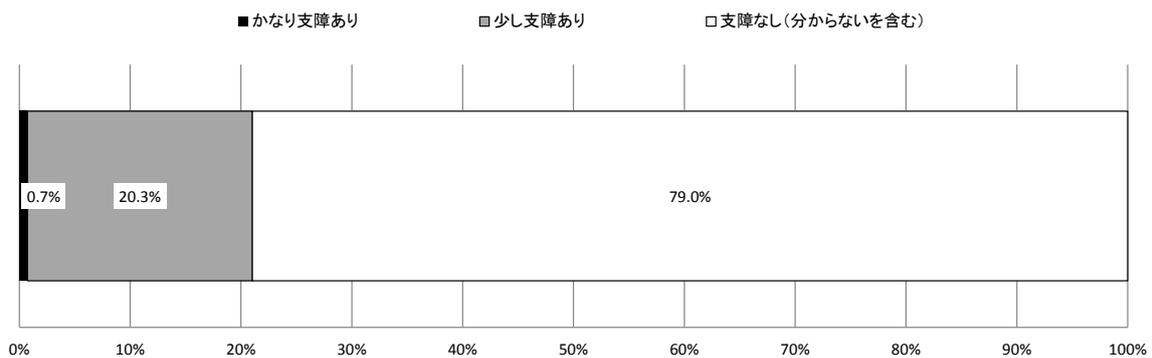


図2-12 本人回答者の活動と参加(自己管理)

自己管理に関しては、家族回答者よりも本人回答者の方が、支障を感じていないといえます。かなり支障ありに限っては、0.7%と低い値でした。本人回答者の多くは、体を洗う、身体各部の手入れ、排泄、更衣、食べる、飲む、健康に注意するといった自己管理ができていると感じているといえます。

・家庭生活

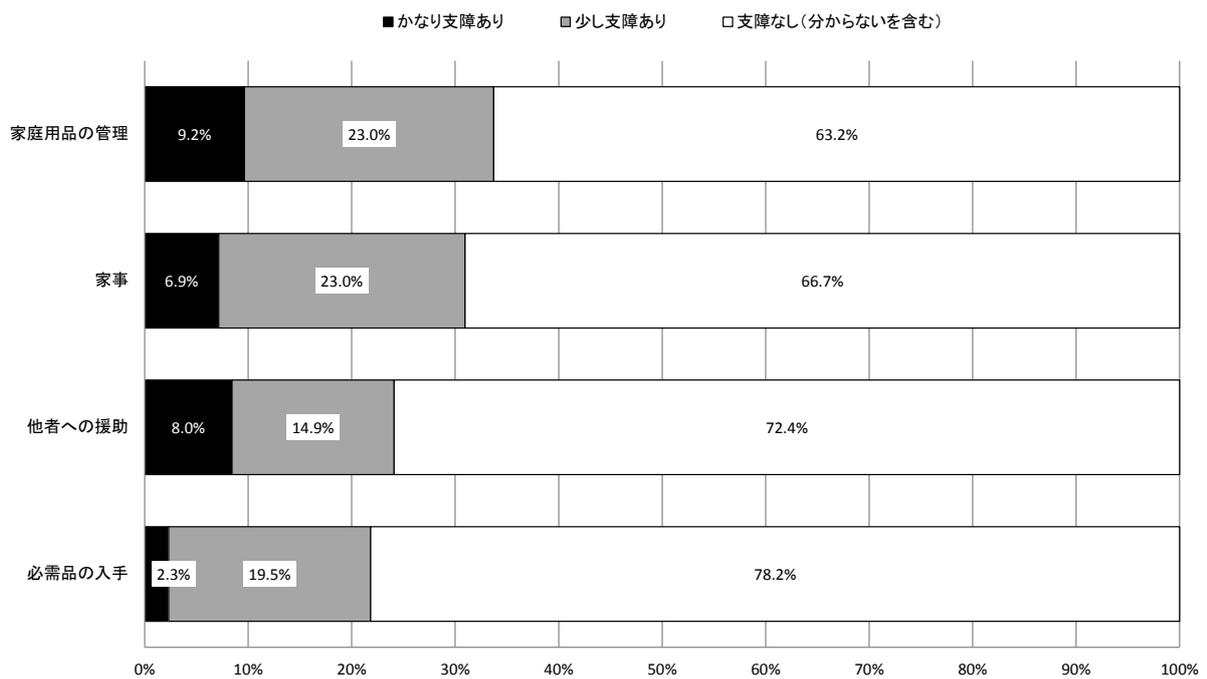


図2-13 本人回答者の活動と参加(家庭生活)

本人回答者は家族回答者よりも家庭生活において支障を感じていない人が多いといえます。家族回答者の半数以上は、引きこもり本人が他者への援助において支障を抱いていると回答していましたが、本人回答者においてはその数値は22.9%にすぎませんでした。

・対人関係

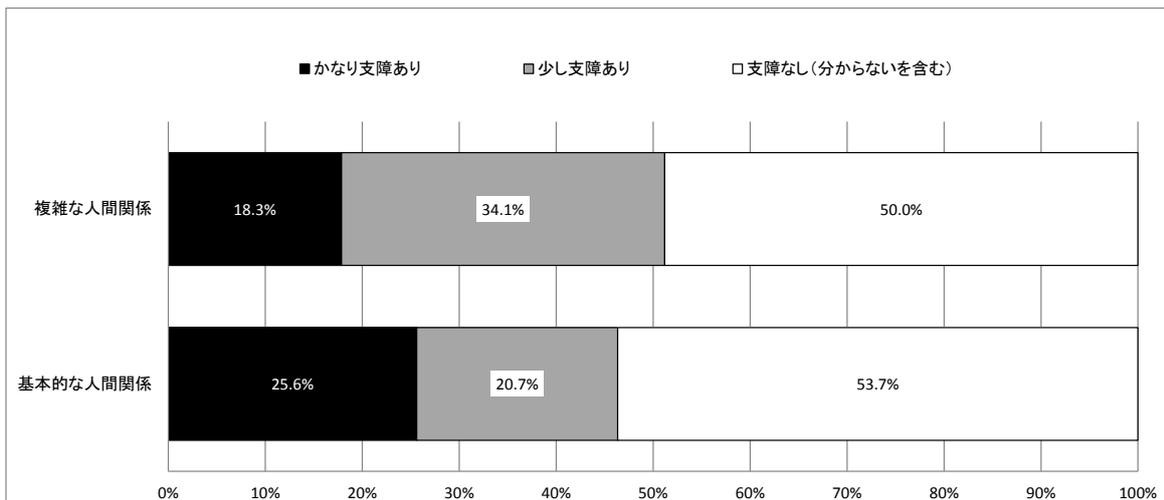
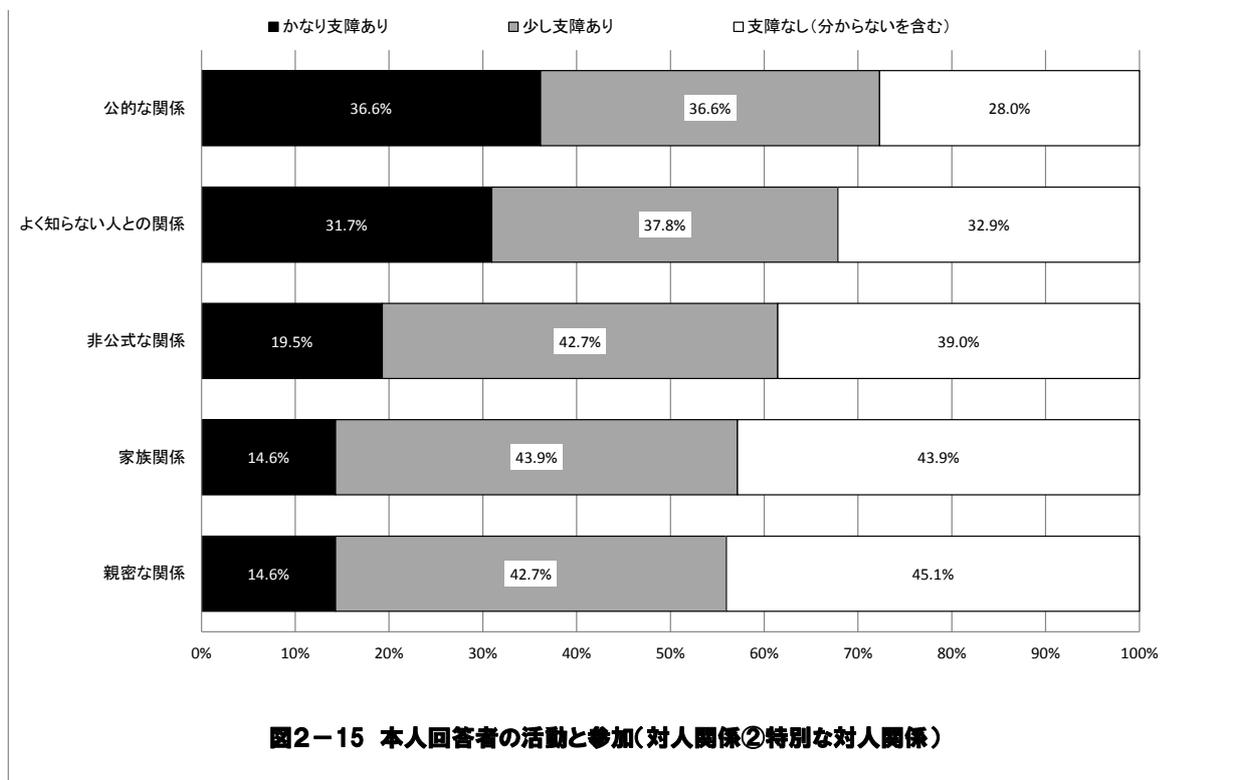


図2-14 本人回答者の活動と参加(対人関係①一般的な対人関係)

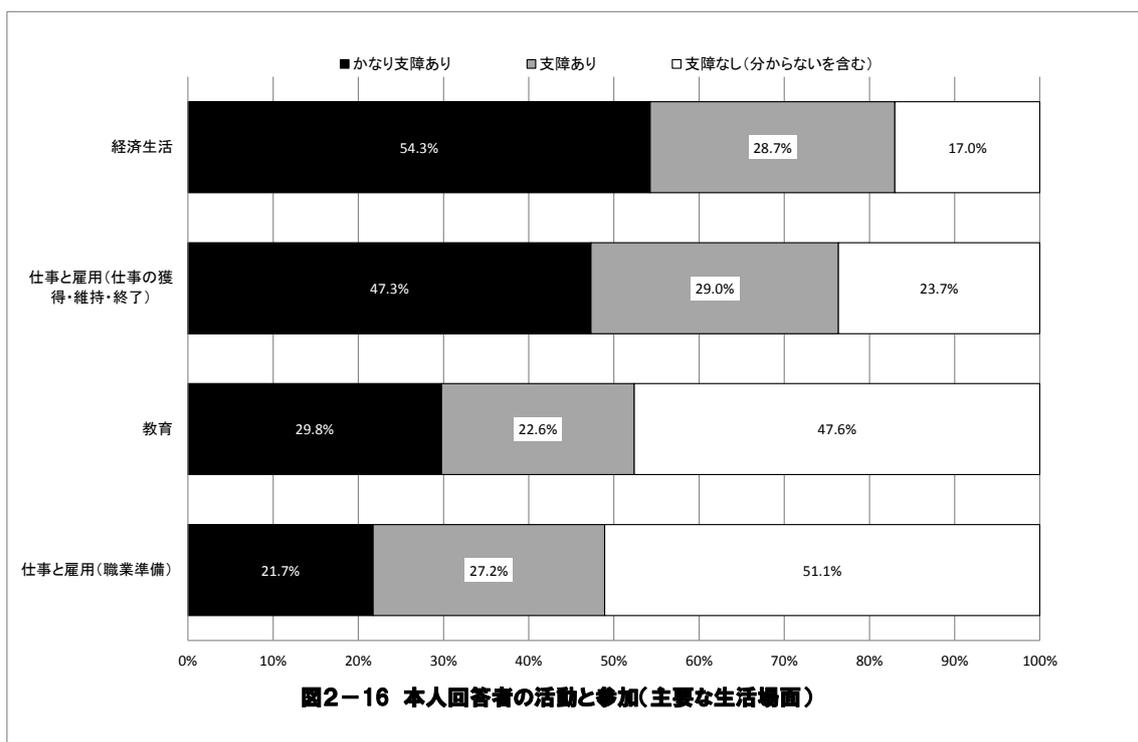
一般的な対人関係においても、本人回答者は家族回答者よりも支障を感じている人が少ない傾向にありました。敬意と思いやり、感謝、寛容さ、批判、合図、身体的接触といった基本的な人間関係においては、本人回答者と家族回答者でそれほど大きな

差はありませんでした。しかし、関係の形成・終結，対人関係における行動の制御，社会的ルールに従った対人関係といった複雑な人間関係に関しては，本人回答者の回答よりも家族回答者の回答の方がかなり高い数値となっています。



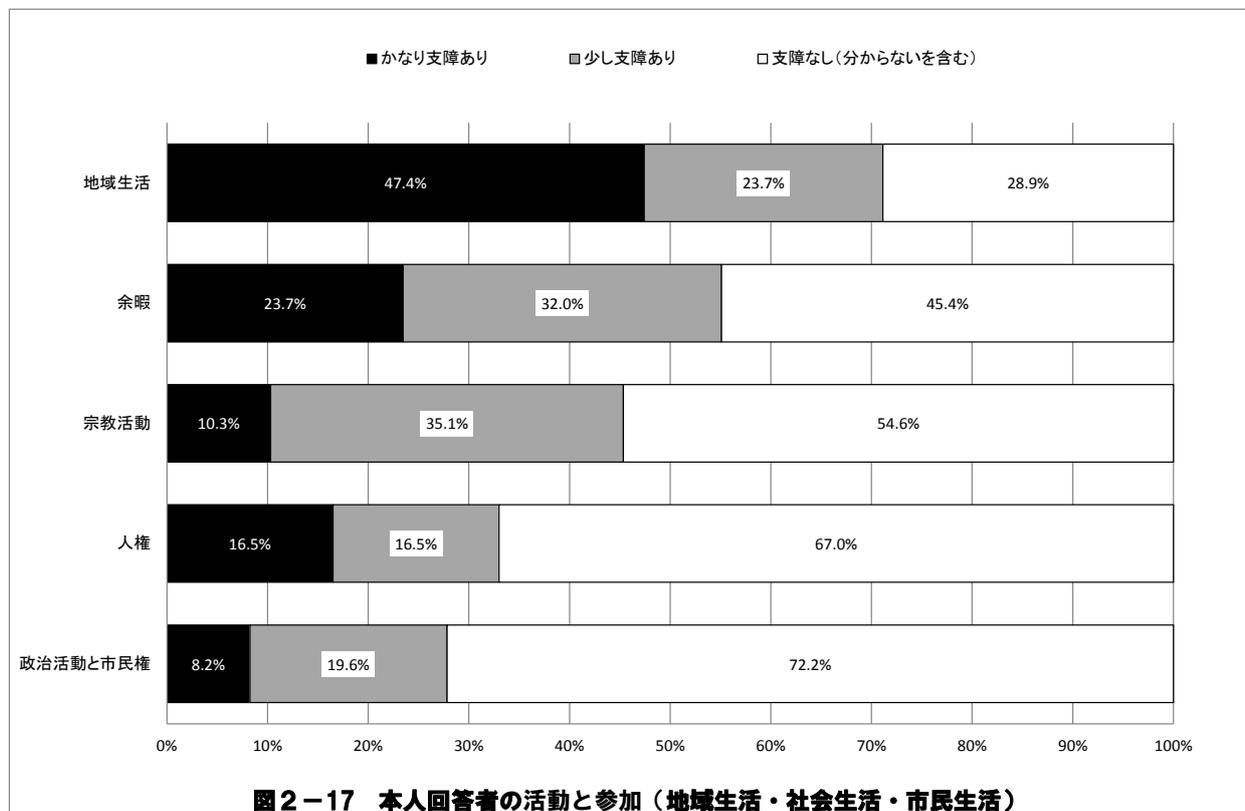
特別な関係においては，公的な関係において支障を感じている本人回答者が多いことが示されました。特別な関係においては，家族回答者と本人回答者の回答は類似した傾向にあるといえます。

・ 主要な生活場面



家族回答者の8割以上は、引きこもり本人が職業準備に支障を感じていると回答していましたが、本人回答者においては半数程度でした。経済活動や仕事の獲得・維持・終了、教育においては、家族回答者と本人回答者の回答は同様の傾向でした。

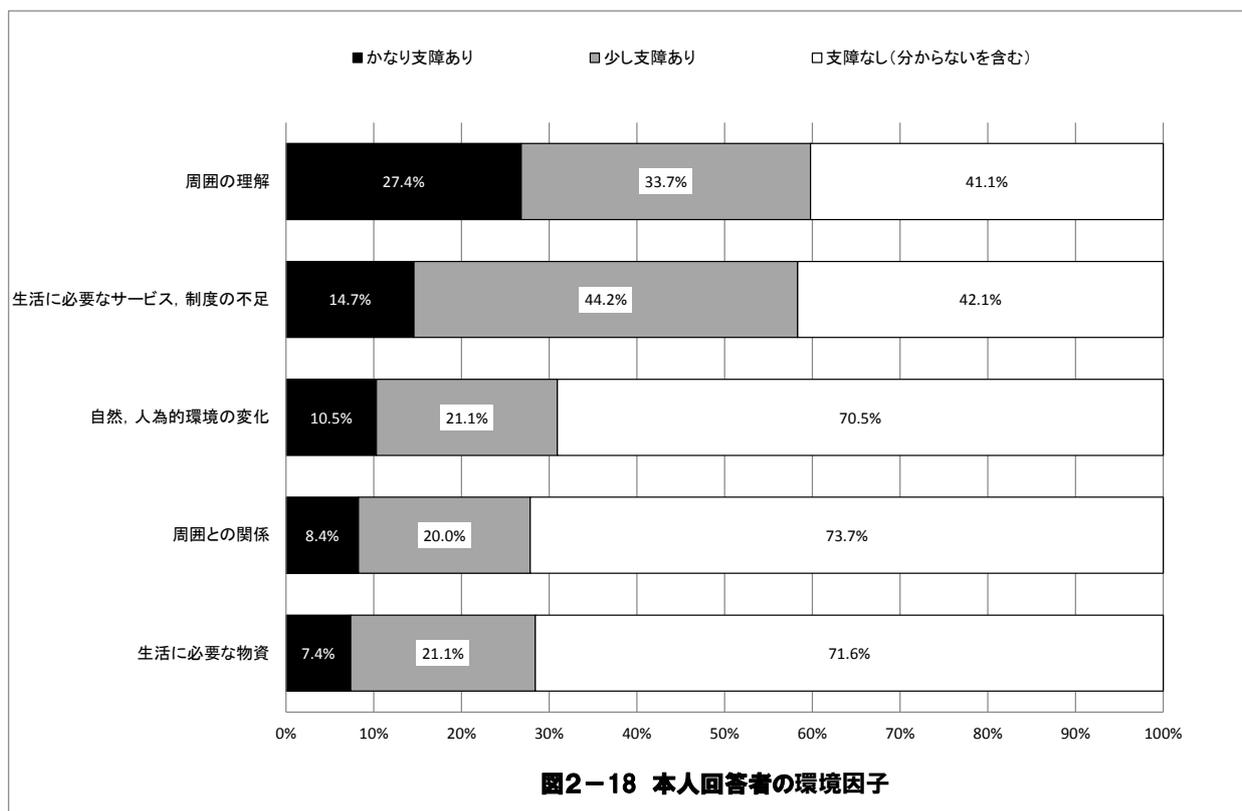
・地域生活・社会生活・市民生活



人権や政治活動と市民権においては、支障が生じているとの回答が家族回答者よりも本人回答者の方が多い傾向が示されました。これらの点においては、本人回答者はあまり支障を感じていないものと考えられます。

③環境

周囲の理解と生活に必要なサービス、制度の不足において半数以上の本人回答者が支障を感じていることが分かりました。この傾向は、家族回答者と同じ傾向です。しかし、周囲との関係においては本人回答者はあまり支障を感じていない実態が示されました。



(9) 就職活動

①就職活動量

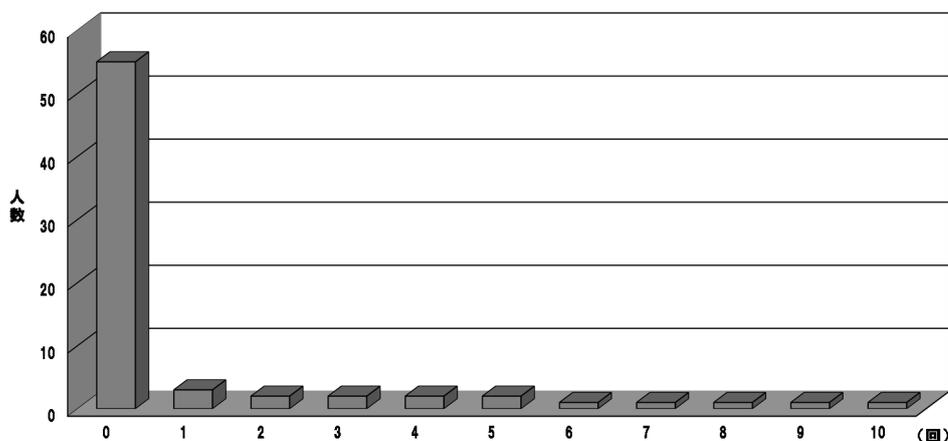


図2-19では、対象者の最近3カ月の就職活動量として、エントリー数、訪問・説明会への参加、履歴書の提出、就職試験・面接、その他の活動の回数を尋ね、それらの回数を合計して活動量としました。その結果、平均活動量は 1.00 ± 2.30 でした。ほとんどの人が現在のところ就職活動をできないでいる実態が分かります。

②就職活動の努力度

図2-20では、対象者の就職活動の努力度を調査しました。努力度の平均は 25.39 ± 31.62 となりました。0%と答えた人が最も多く、就職活動において全く努力していないと考える人が多いことが示されています。

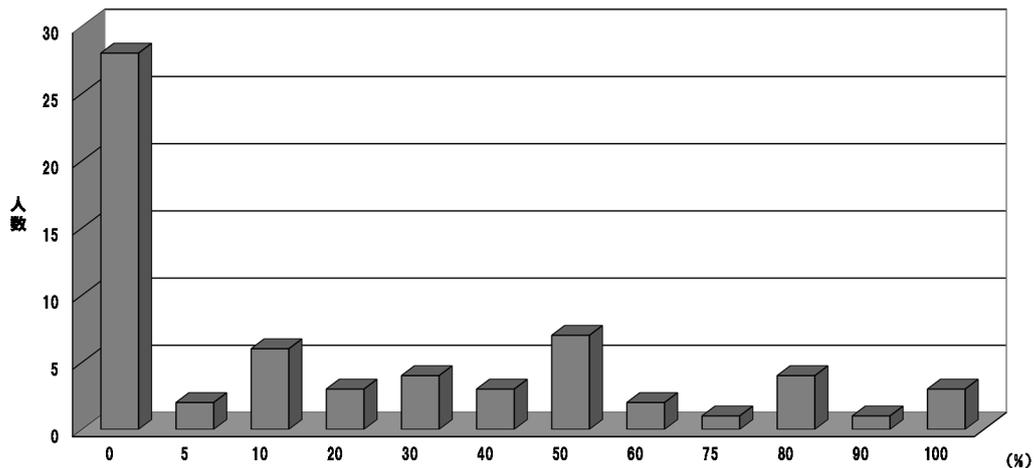


図2-20 本人回答者の就職努力度

③就職活動の満足度

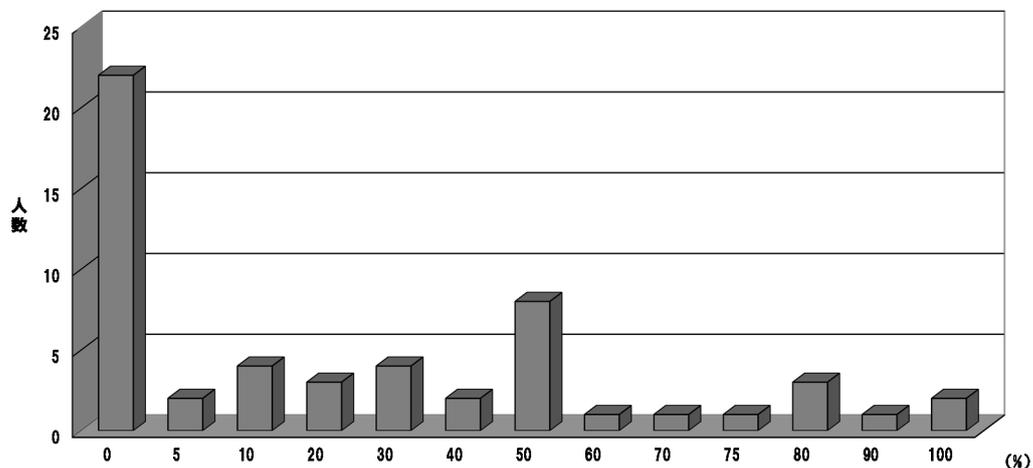


図2-21 本人回答者の就職満足度

図2-21では、対象者の就職活動の満足度を調査しました。満足度の平均はとなりました。0～50%の間に人数が多いことから、就職活動に対する満足度は低い傾向にあると考えられます。

④社会的スキル

社会で円滑に生活するための能力（ソーシャルスキル）について調査しました。図2-22は、社会的スキルの強さを本人回答者と相川ら（2005）で示されている大学生の平均得点とを比較したものです。平均点が高いほど、社会で円滑に生活するための能力が高いことを示しています。

図2-22の結果から、本人回答者の方が大学生よりも全体得点としてはソーシャルスキルは低いことが示されました。しかし、ひきこもり群の方が大学生よりも、社会で円滑に生活する能力のひとつである「感情統制」の能力が高いことが示されました。この能力は、「感情をあまり面にあらわさないでいられる」といった能力を指します。このことから、本人回答者は、感情を顔に出さないようにする能力が高いため、自身の辛さや思いが他者に理解されづらい可能性があると考えられます。

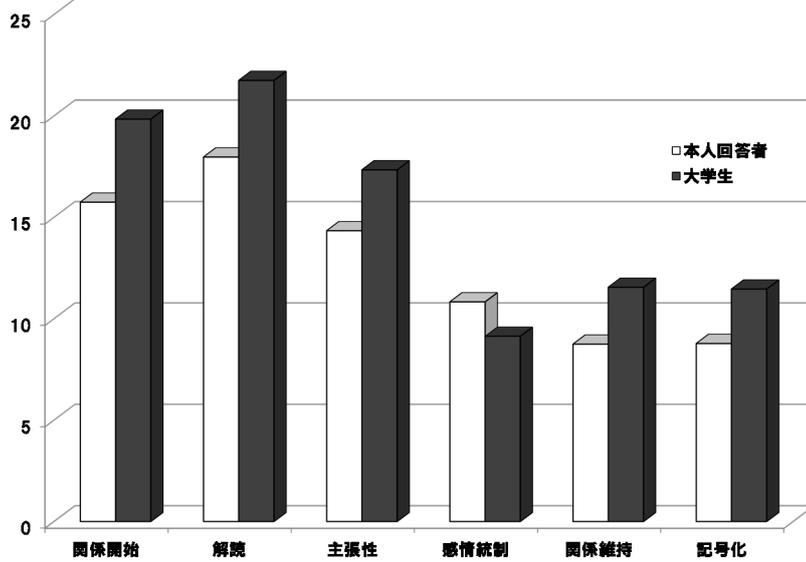


図 2-22 本人回答者と大学生の社会的スキル

⑥体験の回避

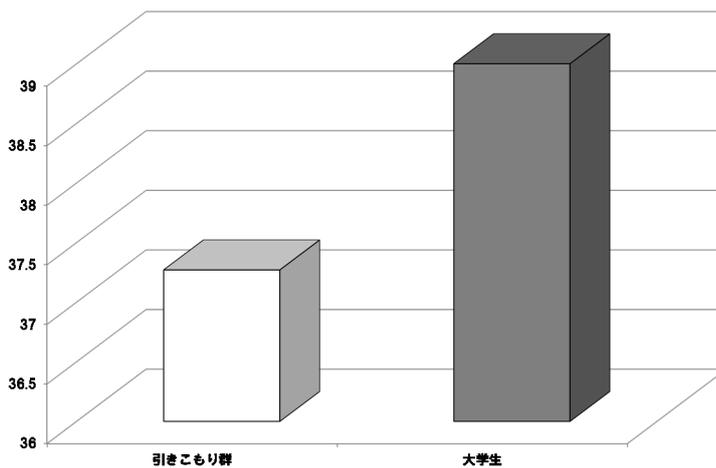


図 2-23 本人回答者と大学生の体験の回避

自分にとって好ましくない思考や感情，感覚，記憶などを回避する傾向（＝体験の回避）について調査しました。図 2-23は，体験の回避の程度の強さを本人回答者と木下ら(2008)で示されている大学生の平均点とを比較したものです。平均点が低いほど体験の回避の傾向が強いことを示しています。図 2-23の結果から，本人回答者の方が大学生よりも体験の回避の傾向が強いことが分かりました。本人回答者は，自分にとって好ましくない刺激を回避する傾向が強いといえます。

第三部 自由記述

4. 自由記述

自由記述で以下のことについて回答を求めました。

1. ひきこもりによる「生活上の困難」について自由にお書き下さい。
2. ご本人ができる「仕事」についてできるだけ多く、具体的にお書きください。
3. ご本人が「楽しめること」についてできるだけ多く、具体的にお書きください。

以下には、それぞれの質問について回答を引きこもり経験者と家族回答者に分けて記載しています。自由記述の内容は、実態を示すため記載された内容を忠実に再現していますが、個人が特定できないように記述の趣旨が損なわれない範囲で編集しています。また、丸数字(例：①)で示された自由記述の分類は、該当する自由記述が多い順に記載しています。なお、大半の自由記述は掲載しておりますが、記述の量や重複を考慮し、掲載されていない自由記述があります。

1. ひきこもりによる「生活上の困難」について自由にお書きください。

生活上の困難においては、生活面から身体面，家族関係，経済面に至るまで多岐にわたる意見が認められました。主に、本人回答者においては「対人コミュニケーションにおける困難」が挙げられ、家族回答者においては、ひきこもり本人が外出できないために生ずる「生活面での困難」において多くの回答がみられました。

<本人調査回答者の自由記述>

①対人コミュニケーションにおける困難

- コミュニケーションをとれず、仕事，人づき合いが出来ない。
- 人から話を聞いてもすぐに忘れてしまう。
- 気持ちが小さくなることより生じる対人不安。対話，挨拶等。昼夜逆転。諸々の点における社会的能力の低下。
- 他者との関わり
- コミュニケーション能力の低下
- 本音が言えない。
- ひきこもりから復帰したあと対人でかなり億手，かつ話すことが難しくなる。けっきょくはまたひきこもりへと戻ってしまう。
- 他人との交流
- 対人関係会話能力の低下
- 人と係わることが少なくなる。
- 人とのコミュニケーション
- 人と接するのが苦手，苦痛になる。
- 堂々巡りの考えで立ち行かなくなる。
- 知らないこと。未経験なのに「知っている」「経験している」と前提にされる。

②就労における困難

- 就職が難しくなる
- 正規，非正規問わず，高齢ニート，それも男性だと職探しが困難になる。男性であることによって風当たりが強くなる風潮はつらい
- 就労に至るまでの難しさ。
- ひきこもり期間の空白がうまらない。
- ひきこもっていた時の自分の生活を説明の難しさを感じています。
- お金もうけは，自分には出来ないと思ってしまいます。まず初めに，僕は採用されないと思ってしまい，すごい壁になります。どこかに採用されるだろうと思う転職する人とは大きく違います。ひきこもると自己アピールもなくなり，よけい採用されなくなります。誰でも一応つける仕事の，業務請負の単純作業にしか行けなくなるが，そういう仕事は筋肉が強くないことや，人との会話できないという理由で，あまり長続きしません。

●普段、一人でいることが多いため、人と会ったときにうまく話せない。考えていることが言葉にできない。声が思うように出せないことがある。人と話をするときに緊張してしまう。ブランクが長いことが気になり就労に踏み出せない。他人に自分の経歴を知られたくない。

●仕事を得る過程における年齢的な不安

●社会復帰が難しくなってくる。

●仕事につけない。

●社会活動への復帰

③経済面での困難

●経済的問題(生計が立たない)による生活苦

●経済生活

●現実的には家計の問題。

●金銭的に少し困る

●金銭的にも精神的にも厳しくなり、何に対しても楽しさを感じなくなる。趣味や打ち込めるものも無くなり興味対象がなくなる。またそれに対する自信もなくなる

●お金がない。

●お金がゆたかではない

●収入がなくなる

●無職でいる為、収入が無く家族に負担をかけていること。

●生活費がない

④身体面における困難

●太る

●筋力がおとろえる。

●手のふるえ

●運動不足になる

●体力が落ちる

●体力がおちて疲れやすい

●太って行動がおっくになる。

●不健全になる。それに付随して病気がちになる恐れあり。また、体を動かさないと気がめいる。

⑤家族関係における困難

●父親と食事ができない

●家族までもがやんでくる。

●いちばんつらいのは、家族の送りなしでは通院できないことです。

●コミュニケーションがとれない(家族等)

●何かをするのに時間がかかる

●家族との間に、気まずいかんじになりそう。

●家族の間の不和がひどくなる。

⑥生活面における困難

●色々な事が面倒くさくなり、お風呂に何週間も入らなくなったり、歯をみがかなくなったり、顔を洗わなくなったりして不潔になる。

●昼夜が逆転している。

●生活リズムが整えない。

●生活が不規則になる。

●社会生活ができない。

●外に出にくくなります。負のれんさにおちいりやすいです。(外に出ない。→人から離れる→ますます出なくなる。

●外がよけいにこわくなる。

⑦精神面での困難

- 何もかもがおっくうになる。(片付け、炊事、清掃) 自尊心のありかた？
- 自身の悩みだけでいっぱい、他の事柄に対しての意識が向かない。
- 心のへいそく感
- 無気力
- たいくつ、やる気が出ない。
- 不安を感じるようになった。

⑧地域社会の無理解における困難

- 近所が気になる。
- 地域社会の無理解による本人への攻撃
- 近所に住んでいた中学、高校の友人に会えない。
- 無理解な人達の偏見に対する自分(私)の恐怖感。
- 近所の住人の偏見

⑨友人関係の希薄化からくる困難

- いつもひとりぼっちでさびしい。
- 友人関係の断絶
- しゃべる相手が少ないので孤独感に悩む
- 家族以外の人ほどの人間関係がない不安
- 新しい人間関係をつくるうえでの負い目の不安。

⑩社会的孤立感からくる困難

- 社会的孤立
- 完全に社会生活から剥離している感じがしており、携帯やネットの世界が情報源になり、妄想的になっている。何かアートや文の世界を創造するのとは違い、何か危険な思想が育っているように思う。
- 社会とつながっていない不安

⑪出会いの不足からくる困難

- 異性としゃべるのが年の近い人と話したい。
- 出会いがなくなる

⑫緊急時における困難

- 自分が具合悪くと言えなくて引きこもってしまう
- 体の体調が悪くなったときに助けが呼べない。

⑬災害時における困難

- 地震他災害時において非難がし辛い。
- ライフラインが切れた時にどうしようもなくなる。

⑭情報収集における困難

- ひきこもる人の中には自分の現状を認めたくないと思う人もいるので、そういう葛藤をなくしていくために、意見交換や、勉強会を開くなどをしてほしいと思う。
- 情報の不足。どこに相談したらいいかのとっかかりが決断できない。

<家族調査回答者の自由記述>

①生活面における困難

- 台所を居場所の生活が続いていたが、台所を使う時間になると本人は自分の部屋に入ったり台所にいても静かにしているので支障がなくなった。いつまでこの状態が続くか？
- 自室ではなく、リビングに自身の興味のある物や品を持ち込み、生活しているので、機嫌が悪いと台所を使えない。
- 買い物等も一人で徒歩や自転車では出かけない。車での送迎のみ。
- 家族との会話や食事が出来ない
- 必需品をパソコンでの通信販売に頼っているが、着荷は、親が受け取る（本人は他人である届け人に会えない）。
- 必需品を直接、店舗の買いに行くことができない。
- 市役所などの公的機関に行き、各種手続きができない
- 近隣の人に対して、自分が嫌われているという様な妄想を抱いてしまっている。
- 外部の人との接解が少ないせいだと思われる。一人で外出するのは仲々難しく、親や、ごく親しい人としか行動を共に出来なくなっている。
- 6年間の内、外出（親の車で同行は数回）全く無し。
- 自分で買い物に行けないのでこまる。
- 外出することができない
- 食事のバランス。運動不足による将来の病気になる危険性。行政手続きが生じた時どうすればよいのか理解が不安。
- 自分ひとりで自由に外出できない事。車の免許がない。田舎の為自転車での行動は大変。外出できる場所がないと出かけていかない。家にいると昼夜逆転の生活になりやすい。
- ゴミの後始末ができない。洗濯物を出すことができない。
- 家族が留守で、外部との対応が困難と思われる。家への訪問客を嫌う。
- 1日2回ごはんをたべる事、お酒をのむこと、くらいしかしてません。ほとんどベッドの上ですごしてます。
- 一日の時間が長くすることがない。ボーっとしているのが苦手。何かしていないと落ち着かない。親の職場に時間に関係なく電話してくる。
- 強迫的なことで日常生活に時間がかかる
- 基本的ペース起床して夜寝るまでが、メリハリがなく自然とだらしなくなる。運動が出来ず体力が衰えて、仕事の面で対応がむずかしくなる。
- 予め自己で設定した行動に従って行動する臨機応変の行動は不得手。家庭内では普通に会話してますが一切他人とかかわる事が出来ず、宅急便を受け取ることすらしません。買い物もスーパーの様な場所以外は出来ず、服や靴を買うのも一人では行けず、とても困ります。
- 全く言葉を発せず、一人では外に出られない（最近親と一緒にでも出ない）為、買物等、外に出る用はなににもできないので、一人では全く生きていけない状態。
- 家庭内ですら意思疎通が測りづらく、日常生活すら困難を抱えています。
- 強迫神経症を18歳より発症・自分でご飯を炊いたり、おかずを調理する事ができない・アルバイト、就労経験なし・自立、見込みがたたない。

②家族関係における困難

- 母親への依存が続く（母子のみでの生活）父・兄とは交流をさけている。兄は行動を理解せず、いなくなっていしまえばいいと発言する。
- 他人を極端にさける為わが家に第三者（身内も入る）を招くことが出来ないため、我々も非社会的になっている。又、日常生活のストレスも大で有る。
- 自活、自立、独立が出来ない事が何より心配で私たちの心労になっている。
- 母（私）が困っていること。本人（長男）が性格的にあまのじゃくでやりにくい。
- 少々短期で衝動性がある、ちょっとした事でキレてしまうことがある。いっしょにすごすと、こちらがイライラする。

- 食事を2階に持って食べる。家族とは食べない。
- 兄弟がいますが、兄弟は少なからず、影響を受けています。
- 母親と二人暮らしです。顔を合わせる事をさけます。今後のことを考えると、会話がないので不安です。
- 本人中心の生活になっているので、家族に精神的負担がかかっている。
- 自分の思い通りに物事が進まないと怒る。話をして解らせたいがなかなか難しい。
- ふすま一つでとなりの部屋に姉がいるので夜中にゲーム等をうるさくしているため姉が不眠になっている。姉自身が精神的に悪くならないかと思っている
- 親と同居していることが困難
- 生活していく基盤がない・親と兄しか顔を合わすことが出来ない。(1ヶ月1~2回位しか外出しない。自分に必要な物購入)
- 家の人と口をきかない。身体がよわっていく。運動不足
- 親を避けていて親がいない時とか真夜中しか出てきて行動しない。けど洗濯も夜中自分のものはして、部屋もきれいに片づけている。
- 人と接することなくこもっている。
- 忘れることが多い。昼夜逆転した生活で、家族は睡眠不足になりづらい。2次的な精神面の障害がでている。
- 調子のよいとき、悪い時があるように思います。悪い時は家族と話すのも意識してしまいスムーズにいかない時もあります。
- 家庭内での会話が少なくなり生活自体が暗くなる
- 本人の思う通りに、家族をまき込む。
- それぞれの(その子に合う)対応を、と考えていますが、どれが正しいかは分かりません
- 食事が少なく、体力が弱っている。手洗い風呂が長い・家族とほとんど話さない(会話がな
い)

③身体面における困難

- 外に出ないので体力がつかない
- 体重が増えてしまい困っている
- 健康面で悪い所が多い(ひきこもる事で体をあまり動かさない)
- 昼夜逆転、TVを見る時間が長い、風呂に入る時間が長い
- 風呂に入っていないので外出、人と会うことが出来ない。昼夜逆転した生活が多い。強迫症状があるため、外出困難。部屋の掃除は何年もやっていない(やらせない)
- 1人暮らしとなり、改善はされたが、職業につく体力はないと思われる。
- 健康状態、現在、歯痛、時々腰痛が出ます。病院にも行けないので、自宅で応急処置をすることしか出来ません。
- 外に出られず、買い物、通学等ができない。
- 電車等の交通機関を使えない。(人への恐怖)・食事の用意等もできない。(無気力)
- 食事が不規則で体調を崩しやすい。
- 視力低下
- 生理不順
- 運動不足に寄る体力の低下
- 家の中では殆どの事は出来るのだが、一人で外出出来ない事が一番悩んで居る所である。
- 寝たり起きたりの時間が長かったので、体力がない。虫歯が多い。
- ひきこもり始めたばかりの頃は、スーパーや、映画館、レストランなど人目のつくところには行きたがりませんでした。そのため、家の中にいることが多く、体力が落ちていくのがわかりました。活動範囲がせまく、どうしても体を動かすことがないので、筋力の低下、体力の低下、運動面では自信をなくしてしまいました。
- 生活リズムが乱れている。病院(歯の治療など)に行きたがらない。
- 心の不安があり過食で肥満。体重を半分に落とす必要がある。

●本人はどう理解しているのか、皆目つかないのですが、学習障害、ADHD等があると親(母親)は理解している。長期間のひきこもりで、日常生活機能が失われてきている。はい泄、洗面、入浴、着替えをしない(だらしなさ)、片づけができない、身体では歯医者へ行けず、歯が悪くなってきている。腎機能、内分泌系が悪いのでは、考えています。

④対人コミュニケーションにおける困難

- 身内以外の方と、接するチャンスが少なくコミュニケーションを取りにくい
- 人の目を見て話せない
- 人とのかかわりが少ないため、家族の中でも自分の意見を押し通し、がまんができない。相手の気持ちを考えた言動が出来ない。
- 社会生活における基本的なルールは頭でわかっているが、実際となると慣れるまでなかなかスムーズにいかず融通の利かない部分が多い。
- 健康状態がわかりにくい。対話ができない。
- 精神科医によるとひきこもりではないといわれますが、人とのコミュニケーションがへた。自己肯定感が低い(注意されると必要以上に落ち込む)
- 対人関係を形成できない。対人関係(普通の会話)が出来れば。
- 親以外とのコミュニケーションが取れない状況につき、社会生活に不安がある。
- 問題意識が強くそこまで考えるかと思うこととYesかNoかと決めつける様な事多分に有り。普通の人にはうっとうしいと感じる話題も多いかも。
- 知的障害があり、現在ヘルパーさんに家事を手伝ってもらっているが自分の意見等を他人に伝える事によってなかなか言い出せない。
- ①対人関係ができないので買い物ができない②対人関係ができないので生活上のスキル取得ができない
- コミュニケーションが取れず、気持ちが伝わらない。考えていることを言葉にしてほしい。
- 対人関係が難しい。近所の物、事について一切口に出すことをしない。
- 中一から不登校なので、学力不足だが、テレビをみていると、色んなことを知っているのが不思議。交友関係がないので、自分の尺度にあわないことは許せず、父や妹とももめることがある。相手が折れても、本人は一度イヤと思うと許せない。これでは他人の中では上手にやっつけていけるわけがない。玄関先での対応、電話での対話も苦手。ばったりハチ合わせになった時は、上手にしのいでいるが。
- 人とのコミュニケーションをとることがもともと苦手なのにそれを避けていることで人格がゆがんでくる様に思います。明るく皆と笑いあうことなど本当に基本的なことすら遠ざけて、一人自分の世界におちこんで未来の感じられない状態です。
- 自分に自信がもてないことが一番ネックになっている。それができるようになれば、不便を感じる事は減ってくる気がする。
- 1. 社会生活に対し理解がない。2. 自己の進退について理解がない
- 目的・目標のない生活が続く→将来の自分が見えない→不安感ばかり→意欲がわいてこないの悪循環。

⑤経済面での困難

- 経済的保障が無いこと
- 完全引きこもりの為自分で食料調達ができない。
- 歯が痛くても医者へ行かれない。・自分で自立が出来ない。
- パソコン利用での何かが出来ればと思う(ネット遊人であるので)。自宅での内職。
- 経済が無いことが一番大きい
- 経済的に自立できない
- 社会生活に参加しないことによる無収入で親の扶養により維持している
- 社会的地位がない
- 家以外、居場所がない。成人しているが仕事に行けず、収入を得られない。
- 収入が無い。

●経済的に負担

●家計の維持（現在は両親共パート収入があるが、将来は？）

●こだわりあり。今年はケイタイ5台買い換えてお金がかかる

●自立して生活できない。経済的にまず自立できないので、一人で生きていけない。よって生活のキバンができないので生活したいができない。

●本人が無収入である為、親の経済的負担が大きい。

●金銭管理が困難。統合失調症の診断を受けている。

⑥親亡き後の困難

●親は年令を重ねていき子どもは自立できない状態では将来の経済面が心配になる

●親が活着ているうちはよいが1人になった時どうやって活着ていくのか？

●将来、私達両親をなくしたら、誰に相談するのか、本人がどういうふうに活着ているのかわからない。

●お金を払いすぎて年金を担保にして銀行から、クレジットなど買い物などが重なり借金が200万以上になっている。司法書士にも相談している。成人後見制度をりようすることをすすめられている。

●6才からのひきこもりなので社会性が非常に不足している。知識は本かテレビ等で多少は吸収しているが、それが実際に社会生活で活用できるか不安である。

●自活が出来ない

●金がかかる（年金。保険料等、生活費）

●経済的な事

●医療費（毎週）年金の支払い毎月の小遣いは年金受給者にとって厳しい

⑦精神面での困難

●時間を持てあましてるのでひま 昼・夜逆転の生活をしている

●親に依存している。ひきこもっている事によるストレス

●今まで所属する場所がなかったが現在とりあえず居場所、又はそれに近い墓所を得た。

●睡眠不安定（夜遅くまで眠れず、起床は昼くらい）

●文字が飛んできて読書にも集中できない

●外に出られない、意欲がわからない、対人恐怖、強迫観念（不潔恐怖）

●毎日が単調でつまらなそうですが、何をしたら良いか考えられないと言っています。

⑧就労における困難

●困っていることは長いブランクがあるので就活はいつも不採用であることです

●自分で必要な生活上の全般は問題ないが、自主的な人との関係を持つことはなく、就労についてはほとんど話してくれない（仕事はやりたくないわけではないと言うが、今は自分で行動はしろとしない。本音を話し合いたい）

●学校（高校に行っていない）

●一度契約社員として就職しましたが、引きこもりによる空白期間の体験を正直語れるだけの人間関係には至らず、不自由な自己開示に苦痛を感じ、退職しました。

⑨友人関係の希薄化からくる困難

●外に出て人と接するのが怖い（特に同級生）

●帰宅後、21歳すぎてもずっと自ら外出は全くなし。母の車で一緒に外出すら出来ない。

⑩世間の無理解における困難

●世間から理解してもらえない。経済的にゆきづまる。体力が落ちる。一般人とのズレが生じる。

●自分が住んでいることを他人に知られることを畏れる。

⑪社会的孤立感からくる困難

- 社会生活から離れている為、本人の自覚が実際との社会状況と異なっている事に気がつかない。
- 仕事をしていないので、何かにつけて制約を受けるし、社会からはじかれている

⑫困難を感じていない

- 社会で働くようになって5年経過し特に問題なし
- 完全なひきこもりではありませんので特に困難を感じたことはなく、家では自由気がままな生活です。
- 現在親が活着ているので、生活上困ってはいません。
- 年令も親が高く世間で云われる死ぬ準備の年令です。
- 一人っ子の為、又、生きる力は十分ではなく、どうしたら良いか常に（違う）心配して居ります。
- 対外接触が全くなり親が亡くなれば本人も自然死となると思われる
- 最後一人になった時、生活全般をやっているか、こまった時に相談できる人がいるか？

2. ご本人ができる「仕事」についてできるだけ多く、具体的にお書きください。

主に、職業としては、「パソコン（IT関係）」、「家事手伝い」の仕事について回答が多く認められました。本人においては自分が望む職場環境を訴える回答、ご家族においては未だ就職準備段階という回答が多く、就職支援として、本人が就労できるような環境づくりと、スキルアップトレーニングの必要性が考えられました。

<本人調査回答者の自由記述>

①本人が望む職場環境

- 1人で黙々とできる仕事
- 自分の病気の症状との相性の悪くない仕事、残業が少ない仕事
- 精神的、身体的苦痛を伴わない仕事・最低限の生活が営める程の賃金でよいから、長く続けられる仕事
- 何か（家事、手伝い、等）が全てうまくいっているとき。・意志が強く、何事も継続できること。
- 好きにならなくとも、自分の気持ちに嘘をつかないで取り組む、つまり毎日通っても大丈夫な仕事
- 意味のあること
- やりがいのある
- 肉体労働
- お金が重要その上で決める自分にあつた仕事なんてなかなか見つからない
- 正社員
- できるだけ人と接しないで、体を動かす仕事がしてみたい。
- 誰かに直接命令されない。自立してできる仕事。ただし、それは結果であつて、家庭において、他の方の師事をあおぐことは例外とします。
- 時間におわれたり、流れ作業ではないようなもの
- あまり人と接しなくていい仕事・比較的簡単な仕事・体力のあまりいらぬ仕事
- 現在就労中なので、それを前提としてなら、知的障害者の世話をしたくありません。（後始末が大変）1人で進めたいのです。取引先との報告（製品。部材）の準備に時間をかけ過ぎてしまい、本来やるべき仕事の妨げとなってしまいます。

②パソコン（IT関係）

- データ入力、タッチタイピング程度のスキルでできる仕事。
- コンピュータ関連 はげしい肉体労働以外くらいしか考えていない。

- I T事務（C言語を利用し、プログラミングする。ホームページ作成。LAN設定）
- コンピュータ
- プログラマーです。
- パソコンや物の修理をしたい。
- 証券にかかわる仕事

③ 趣味を活かした仕事

- 趣味を活かし、物を書いたり出来ればとも思います。
- 自分の粹なことに取り組めるところ
- 山奥にこもって陶芸家
- 音楽関係
- 音楽
- ミュージシャン
- 翻訳業
- 翻訳（英→日）の翻訳をやりたいと考えている。
- ボランティアの延長
- スポーツ選手（高年俸）
- 数学者
- ヘリコプターパイロット
- 鉄道運転士
- 清掃業、雑用好きだし、掃除けっこうするので。

④ 人と接することを活かした仕事

- 接客業
- 接客
- 居酒屋
- 飲食業
- 古本屋の店員。日用品店の品だし店員。CDショップの店員。
- 人のために役立つ仕事
- 人の役に立てて笑顔が見れる仕事。
- 人のために役立つ仕事自分の能力をいかせる仕事
- 難しい質問です…かつて体験したアルバイト（本屋、CD屋）や出版、歴史関係？精神保健福祉士にも興味あり。あと、カウンセラー等、資格で社労士を考えたりもします。
- 現在、ひきこもり支援を行っているNPO法人の活動に関わらせてもらっているので、この活動が自分の将来や社会参加につながっていけばよいのではないかと考えている。

⑤ 就職準備段階

- 具体的に思いつかない
- やりたくない
- 食えればなんでも
- 思い浮かばない
- 特にない

⑥ ラインの決まった仕事（精密機械製作含む）

- 軽作業、工場系
- 物づくり関係
- ものづくりの仕事（工場、工芸）
- 生活リズムをまずととのえないといけませんが、私は手先がきょうなので、製品の箱詰めや、かんたんな部品の組み立て等をやってみたい。

⑦指導者

- 合気道の先生
- 太極拳の指導者
- 人に分かりやすく、より密接に教えるパソコン教室の講師的なもの。
- ウェイトトレーニングのトレーナー。

⑧公務員

- 地方での公務員
- 公務員関係。
- 精神保健分野
- 競争のない公務員もいいですね。

⑨農業・漁業

- 一人でできる農業など
- 農業
- 庭仕事(畑仕事)
- 漁師

⑩事務

- 事ム関係。デスクワーク。
- 一般事務
- ハローワークの適性検査をした結果、事務的。週刊的な仕事に向いているという結果が出たので、職業訓練において簿記の勉強を始めるよう資格を取った。会計、経理、コンピュータ関連に興味をもつようになってきているが、具体的なイメージ体験があるわけではない。

⑪アパート管理

- 家賃収入で暮らしたい
- アパートメントの管理、運搬等、不動産にかかわる仕事、

⑫配達業

- 郵便局の配達員
- 運転の仕事

⑬介護職

- 介護職

<家族調査回答者の自由記述>

①ご家族が望まれる職場環境

- 対人関係の少ないもの。本人にサポートしてくれる人がいてある程度慣れて、少しずつステップアップできるようにいけるかんきょうがある。
- あまり人と話をしなくても良い職種。レジ、郵便の仕分け。
- 対人スキルがなく、自分は周りからきらわれていると思っているので、コミュニケーションが必要のない仕事なら可能かもしれない。(一生、仕事はできないと思っている。)
- 人との関わりが苦にならない環境。
- 本人の特性を引き出し、怒る、しかるでなく、暖かく見守り、のばしてくれる環境で自信をつけられるような仕事。
- 自分の居場所として出かけたせい？で現在それ(サポート等)を仕事にしている
- 対人関係のない仕事。一人でコツコツやっていく仕事。今仕事に行っているが、家族が、本人に、生活上まき込まれている。

- 自分が上に立ち優位な立場に立ってられる仕事
- 今のところ思いつかないが、対人関係の少ない仕事にむいているかと思う。

②家事手伝い

- 朝のゴミ出し，洗濯及びとり込み，買い物，台所の掃除
- 家事（炊事，洗濯，皿洗い，犬の散歩，清掃等）
- おもに家事手伝い，犬の散歩，ゴミ出し，皿洗い，戸締り
- 部屋の掃除はたまに自らす。雨戸の開閉は，ほぼ毎日。
- 外に出ず家でできる仕事。
- 家事。食器を洗う，洗濯物を取りこむ，ゴミを1Fに持ってくる。
- 家事-お風呂そうじ，洗たく物の取り入れ，（たまに）カレー等作る
- 家に帰ってきた時は皿の片づけや，生ゴミをいける穴掘りくらいはたのめばやってくれる。
- 複雑な調理以外の家事全般はできます。普通車，中型車の免許を持っていますので，配達等慣れればできると思います。
- 親が頼み込んで本人がその気になれば，パソコンの修理，掃除機を使う掃除等をやってくれる。コーヒーを入れる（豆をひいて本格的に）
- 現在中学二年生ですが，家の中でしてくれた仕事はおやつ作りや食事作りの手伝い。洗たく物たたみ，部屋のそうじ，農作業の手伝い。また自分が飼っているうさぎの世話など。
- 家事全般はある程度出来る。車の運転，植物の世話
- 家庭での大工仕事などのたまの手伝い。あまりなし。
- 重い物の買い物，カレーライス作り（母親不在の時のみ）
- 超多忙な時家事をしてくれる。
- 花の世話。ガーデン。掃除
- 自身の事，洗たく，布団干し
- 親の送迎（勤務等），買物，風呂掃除，洗たく，庭の剪定，野菜作り，洗たく。買い物。ゴミの管理。掃除
- 家の仕事（トイレ掃除。食事の手伝い。洗たく物をたたんでくれること。など）母親が外出の時，食事の支度をしてくれる
- 機会があれば（本人がその気になれば）ふつうのことはできる。今現在は，洗たく，食事の片づけ，ゴミ出し
- 予め予想できる自身の行動の範囲内の仕事
- 猫の世話・簡単な食事の準備・布団の上げ下げ
- 食事のしたくカードに今日は材料を買って何々を作ってくださいとカード書いとくとちゃんと作ってくれた。
- 庭のおち葉集め・せんたく（自分の服だけ）・ルスバン
- 食事作り，留守番，買い物（ネット），風呂掃除，部屋（自分の）掃除，自分の軽い食事，焼きそば等を作る
- 草取（丁寧すぎて×？）
- 家事（皿洗い，簡単な買い物，車の運転，風呂洗い，犬の散歩，のいずれかを1～2コ）
- 家の中の風呂掃除，庭掃除，洗濯ものの取り込み
- 小さい子の世話などの家事手伝い
- 部屋で出来ることぐらい（ゆっくりと）去年まで家の前の花の水くれをやっていましたが今年是完全拒否。頼みごとを時々お願いしても完全拒否される。

③就職準備段階

- 収入を得るための仕事ということであれば，今は準備段階で”できる<仕事>”はまだありません。
- アルバイトや就労をする気力がない状態である。
- プライドが高いので，アルバイトもできない。バイトを捜す気もなく，ただ留年をくりかえすのみ。

- 今は何も出来ない気力が全くないため。(アパシーであるから)
- アルバイト等2。3経験あるが、自分でも何ができるかわからない状態のよう
- 自分ができる／できそうな仕事を何が親に言うように言っているが特に言ってこない。ハローワークに行く事を言っているが行く事は行くが特に進展はない。
- 以前はコンビニやコールセンターなどのバイトをしていたこともあるが、最近は付き合いが苦手なためかホステス、工場現場(発想?)などを行っているらしい(本人との会話が無いので不明)
- 不登校のため不明。
- 今の所考えられません。
- 働く意欲が欲しい
- わかりません(発達障害あり)
- 年齢と共に困難を感じる
- 本人が「何をしたい」「何が出来る」かが分かっていない
- 本人との会話が不能であり、わかりません。
- 対面的(他人との)関係がもてないので、仕事は出来ない
- 本人がやると決めれば何でも。自分に自信がないため。
- 一度も仕事をしたことがないのでわからない。
- 家に閉じこもる事しかできない本人なので、「仕事」というものをどう考えているのかもわかりません。ひきこもって1年4ヶ月なので…それまではバイトはしてました。

③コンピュータ関連 (IT)

- パソコンの入力(短期のアルバイト)
 - 現在、KHJ埼玉のさくら草クラブでの作業(会報の封入等)
 - 時折、パソコンで広告のデザイン作成は依頼すれば手伝う。
 - ワープロで文書を清書する作業は年に1回くらい手伝ってくれることもある。※文字打つ事はゲームで得意に…。
 - パソコン。科学的知識が豊富。
 - 内職、パソコンを使用してできる事。
 - 人と付き合うのが困難なので、家でパソコンを使う仕事があればよいと思う。誰でもできそうな仕事を勧めると妙なプライドが邪魔する。妥協できないので、「まあいいか」とは思えないらしい。高校中退で学歴なし、資格なし…この不景気な世の中でそんな甘い仕事があるとは思えない。
 - コンピュータの入力の仕事などは派遣でします。
 - 当面は無理と思われる。パソコン操作が可能につき、その方面の仕事なら、将来可能なのではないかと思われる。
 - パソコン入力などの仕事(今までやっていた夜勤から日勤になり、正社員になったらやめた)
 - PCのちょっとしたワードで文章表を作ってくれる
 - 電気関係の修理・配線など(強すぎる・こだわりも有り)
 - パソコンが好きで、10年位前に知人の御世話で一時家でできる仕事をさせて頂きました。残念なことに不況で仕事なくなりました。親にはどの程度の能力があるか分かりませんが、家でできる仕事があればいいと願っています。
 - ひきこもる8~9年前人並み以上に仕事を続けていたし会社の評価も得ていた。コンピュータ関係
 - PC関係・対人関係のできるだけ少ない業務なら可能とも思われます。
 - システムエンジニアをしていたので、パソコンは使いこなせる
 - わからないが、理解力がありそうなので、パソコン操作を伴う仕事など
 - パソコン利用での何かが出来ると思う(ネット遊んでいるので・自宅での内職)
- パソコン等にはたいへん興味があり、能力もあるので、本人さえその気になれば、何でも出来るような気がするが、それ以前の問題が山積みで、まず、言葉で思いを人に伝え、他者との関わ

りを持てるようになることが前提。

- （パソコンはできるけどインターネットはさけている）
- パソコンなどによる一定の情報処理
- 本人の希望はIT関係プログラマーか、パソコンが好きなのでパソコンネットワーク等がしたい。
- パソコンを使った仕事を探しているようです。対人をしない仕事の様です

④ラインの決まった作業（精密機械作製含む）

- 自分を理解してくれている近所の人とは交流できるが、そのほかの人との交流ができないので、一歩、社会へ出て活動できない。能力的にはITなどできるが人間関係に自信が持てない、ゆえに単純作業などを考えている。
- 几帳面なところがあるので新品組み立てや、流れ作業・動植物の世話（花・木の手入れ等）
- 細やかな支持のある単純作業たぶん部品の組み立てのようなこと。
- 単純作業同じことを繰り返す等。
- 仕分け、フォークリフト。サービス業は無理だと言っています。肉体労働をいやがります。
- 細かい作業、例えば精密機械の組み立てなどが得意。対人は苦手
- 単純な作業。
- なるべく人ととかかわりが少ないような仕事があれば簡単なモノづくりの仕事（手先が器用なので）
- アルバイトはしていたので、ラインにのった事なら出来ると思う。パソコンは自分で組み立てから出来ると思う。

⑤配達業

- 対人、対面の場が少ない新聞配達をやっている。以外と体力、忍耐力を持っているがクレーム処理が単独でできない。
- 運送
- 車の運転が主で人間関係も薄く勤務時間も5時間くらいでなんとか三年続けることができています。
- 車の運転が得意なので、アルバイトでレンタカーの仕事をやったことがある。
- 配達、荷物運び等単純な仕事なら。
- 引越業、夜勤のような、対人関係があまりなく、一人でやれる様な事であればできると思う。

⑥事務

- 事務関係（パソコンetc）
- 職業訓練センターに出掛け始めて事務の仕事が向いているのではないかと。
- 数字が得意であり、可能であれば会計機関の仕事

⑦人と接することを活かした仕事

- 人に対してとてもやさしいのでやさしい仲間と接する仕事が良い
- 女性服の販売がしたいと言っていますが一度も働くことがなかったので何が出来るかは良く解りませんが、パンケーキを作ったりするのが楽しそう。料理も良く出来る方だと思います
- カウンセラー

⑧動物を相手にする仕事

- 動物を相手(対象)とする仕事
- 猫の餌やり
- まだできていないが小動物、昆虫の増殖できる仕事を希望している。

⑨アパート管理

- ビル管理

⑩介護職

- 介護(ヘルパー2級取得済み)

●やさしい面があり，介護職はどうかと思いますが，対人関係コミュニケーションがとりにくいのでむずかしい。

⑪農業

- 果樹園栽培
- 農作業の手伝い。収穫等，稲刈り

⑫その他

- コンビニなどの小売店員（数か月経験あり）
- 内職をしています。納期とか一応責任感を持ってできています。
- 教育業関係，大学を卒業しておりますので，家庭教師や塾で教える事は出来ると思う
- 本に関する仕事
- 三年前より知的障害者施設で働くようになりました。
- 絵を書く，デザインを作る
- 結婚して，子どもがおり，子育て中である。

3. ご本人が「楽しめること」についてできるだけ多く，具体的にお書きください。

主に、「パソコン」「ゲーム」「映画・テレビ鑑賞」が回答の過半数を占め，ご本人が楽しめることについては，1人で時間を楽しめる物事，社会的に評価されない事柄が多い傾向がみられました。その一方で，「会話」や「ひきこもり当事者の集まりに参加することなど」といった他者との交流についても多く回答が認められました。このことから，ご本人の1人の時間を尊重しながらも暖かい周囲の環境が，「ご本人が楽しめること」を増やすことに繋がると考えられます。

<本人調査回答者の自由記述>

①本人が楽しめる環境

- 一人でゆったりとした時間を過ごすこと。
- 一人で出来ること。条件によるが施行(施工?)。総じて，自分の能力を社会的に評価される事柄は嫌いです。

②パソコン（電子機器を使ったゲーム含む），

- テレビゲーム
- パソコンで動画を見たり，いろいろ調べたりする。
- パソコンを購入し，インターネットを楽しんでいる，
- インターネット，ネット，家でパソコン，ゲーム
- mixi，ブログ

③スポーツ（観戦含む）

- ゴルフ
- ジョギング，運動
- 運動する
- ウェイトトレーニング
- 武術研究

- 軽く体を動かすこと(散歩など)
- ひきこもり支援のNPOにさんかしてからはスポーツが楽しい。
- 走ること，マラソン，走った後さっぱりする。
- 空手・太極拳
- 外でのスポーツ・草サッカー，フットサル，バスケ，フットサル
- 趣味(車のドライブ，バイク)(possibleの範囲でのショッピング)
- ドライブ
- サイクリング
- 自転車
- 野球観戦・野球の試合を見ること。
- サッカー観戦
- プロレスリング観戦

④映画，テレビ映像

- 映画鑑賞(フェデリコ・フェリーニ，小津安次郎監督の作品)
- DVD鑑賞。アクション，SF，恋愛etc。
- レンタルビデオで借りてきたDVDを鑑賞する。
- TV視聴(紀行ものなど)
- テレビバラエティ番組を見る。
- TVドラマ
- TV(クイズ番組)，
- テレビ・ニュース視聴
- 深夜ラジオ番組を聞くこと

⑤音楽

- 音楽鑑賞(ロック，ブルース等)，FMラジオを聞く。ギターを練習する。
- ギター
- ラジオ
- 音楽・音楽を聴くこと・音楽鑑賞・楽器演奏。音楽，音楽を聞く
- 音楽を聴いたり，ドライブなどをすることで，リラックスでき，ストレス発散にもなる。
- 音楽や散歩など，対人関係は苦手だが自然の中に身を置く事で開放された気持ちになる。

⑥他者との交流

- 会話(気分がいつも通り，またそれ以上の場合に限る)
- 親しい人と話すこと。
- 友人とのおしゃべり
- 最近，老人施設や障害者施設でボランティアをするようになり，老人や障害者の人と，交流し，自分のことを聞いてもらったり，友人の話をきいたりして，色々な情報が自分の中に入ってくるので，会話する楽しみも少しずつ分かってきている。
- 気の合う友達との会話，食事，カラオケ，誕生日会，バーベキュー，キャッチボールなど
- ひきこもり当事者の集まりに参加する事
- 打ち解けた人と話したり，一緒に過ごすこと。
- 友人とのゲーム(TVゲームをのぞく，ウノなどのゲーム)
- 外出できる事
- 旅行
- 小旅行・仲間とのメール・人と関わる・友達と遊ぶ，出掛ける
- ボランティア
- 自分の場合，気持ちを共有できるフリースペースに何の気兼ねもなく参加して家とは別の空間へ出る事。外へ外出すること。家族と食事に行くこと。(たまに)
- 家族との旅行

⑦読書

●読書

●読書などの1人でたのしめること。

●読書、本などの買い物

●古本を安く手に入れた本あるいは、図書館で借りて吉良本を読む、場合によってはその内容をノートにとる。

⑧ゲーム

●ジグソーパズル

●将棋

⑨野外活動

●釣りを楽しむ。

●小さい頃から魚釣りが好きで、釣りをしているときはあまり余計なことを考えないし、つれたらたのしいので、なにかんがえずふつうに楽しめることである。

⑩スキル取得

●英会話サークル

●料理をする

●楽しく仕事でき、スキルアップできること

●ヤフーオークションで手に入れたセミナーCDをきく。資格の本を眺める。

●英語の勉強・頭が大丈夫な範囲で勉強すること。(高校教育レベルまでの)

⑪動物(人間以外)との触れ合い

●ペット(ネコ)

●ネコをもふもふする。

⑫その他

●睡眠

●寝て何も考えない時

●飲酒

<家族調査回答者の自由記述>

①パソコン

●ネットサーフィン

●パソコンでよく買い物や、ネットを見る。

●パソコン検索

●ゲーム

●インターネット、ツイッターなど。

●パソコン(インターネット)インターネット(2チャンネルの書き込みを見る、ニュース)、ゲームで将棋などをしているので相手が居ればよいと思う。

●パソコン(メール)

●ゲーム(楽しんでいるかどうかはわからない)

●パソコンによるゲームその他。

●インターネットで動画サイトを見る。

●インターネットでの情報

●PCで音楽を聴いたりすること。

●パソコンによって社会の動静を知っていることにより満足していると思う

- パソコンで芸能人のブログなどをみるインターネット
- パソコンで得た知識を言うこと
- 今はつらいから、パソコンでネットゲームでまぎらしています。
- ネットでゲーム（対戦ゲーム）
- インターネット上のゲーム内では、キーボードで文字を打つことによって、顔の見えない他人とのゲーム上のやりとりは出来る。
- インターネットオンラインゲーム
- オフラインゲーム
- パソコン（インターネット利用）チャット・ゲーム等
- パソコンを使った情報集めやコミュニケーション・ゲームのオフ会への参加
- ネットオークションに参加するパソコン
- パソコンを利用したゲームから、携帯を利用したゲームに変化
- パソコンからの情報収集
- 昼夜逆転で起きてから寝るまでパソコンの電源がついている
- 一人プレイゲームorインターネット対戦ゲーム
- 朝からパソコンの前に座って、ゲームをして楽しんでいる様です。
- メールチャット

②他者との交流

- 旅行
- 母親との会話
- 妹の子どもたちとの交流
- 外出して自分の好きな物（食べ物・衣類）を買ってくる
- 家族との外出がなかったが、本人が耳鼻科に診察をうけてから、外に出る機会が出来たことで、車の運転を練習して、家族とドライブし、親が喜んでる姿をうかがうことが。
- 仲間との集い。
- 祖母の家に行き、話したり、ネコとふれ合ったり…。時々、友人に誘われて、夜、飲みに行ったり…。
- 家族と行くボーリング、カラオケ、外食。
- 祖父母宅に行くと、買い物と一緒に行く時は必ず荷物を持ってくれる優しい子です。
- 年に数回友人との交流。本人が元気の際は楽しめる事を考えています。友人とカラオケ、飲み会。友人と気の合う仲間と一緒に過ごす。居場所へ出かけて交流すること
- 同居しているおいと遊んでいる
- 入院中なので家族以外の人との交流
- 妹の子どもと遊ぶ家族と出かける事
- 常設の居場所には、パソコン教室へ行っている。
- 別居をしている長男夫婦をまじえた家族の交流（食事会、会話、旅行）
- 家族との旅行
- 妹が甥を連れてきた時、「自分の子どもがいたらどんなに可愛いだろうネ」と言ったのにはびっくりしたのを憶えています。
- 本人は歴史に興味があり、自由に神社・寺等に行って宗教に特に興味を持っております。1人であちこちに出かけますので、計画をたて、楽しそうです。
- パチンコに行き、買った時は自慢げに話す。（パソコンなど使い必ず勝てる日を調べて行くと言う…が。）
- 年一回夏約一週間の海外旅行（この時以外は自宅からほとんど外出しない）
- 高校時代の友人(1人)の家にか月か月に一回行く事
- 家族といっしょに外食、旅行買い物、等
- 入院で知り合った友達関係と、食事会、おしゃべり等、友達との交流
- 本当に分かり合える仲間と打ち解けて話す（中々めぐり会えませんが…）
- 家族と団らん

- 政治談議
- おいしい食事をする為の外出
- 外出…書店，電器店，ファッション衣料店等
- 自分の好きな洋服を買ったり着たりすること。
- 洋服の買い物
- モールでの買い物
- 買い物（食糧）に行く
- 衣服，購入

③スポーツ（観戦含む）

- スポーツ全般（ひきこもる前）
- 陸上競技
- マラソン
- ウォーキング
- バイク
- パラグライダー
- 夜間のドライブ
- サイクリング
- 友人とのスポーツ観戦
- スポーツ観戦
- プロレス観戦
- プロ野球を球場に見に行くこと。（以前は）競馬を見に行くこと。
- スポーツ観戦・フットサル（居場所や病院での仲間との）
- 他人とかかわりを持たない。自転車施行・ウォーキングスポーツ観戦（サッカー，テニス，バスケット）。スポーツなどを家族と一緒にテレビでたのしんでいる。
- サッカー観戦，フットサル，卓球，野球，
- 自然と触れ合う。（海・川・山歩きなど）散歩に行く。
- サッカー観戦

④読書

- 新聞読んだりチラシを見ている
- 新聞・雑誌を読む
- 読書
- 新聞
- 本，コミックなど読むこと。
- 漫画を読む。
- 本を読んだり，絵を画いたりするのが好きですが，出きない日もあります
- 知識を得る事・読書
- 本屋での立ち読み
- 青春ノベルを読むこと
- マンガ本集め
- 雑誌
- 本屋さんコンビニ等に行く
- 読書本（漫画を含む）を読む・心理系の

⑤文化的諸活動

- 写真
- 絵を描く
- おりがみ
- 囲碁

- 釣り,
- 電車に乗って（ローカル線），話題の駅や車窓をのんびり眺めるのが好きなようです。
- 手芸をする。刺しゅう
- 縫い物
- 美術館での絵画鑑賞
- 自然観照。古美術の見学
- 漫才，落語が好きで，楽しい時です。
- 歴史に関する事
- 数独
- ピアノをひくこと

⑥音楽

- 音楽鑑賞
- CDを聞く音楽を聞く，
- 歌うこと
- カラオケ
- ギター
- キーボードで曲を作るレコード
- レンタルCDを借りてきて，音楽を聞く
- ロックのコンサートに行くために音楽をきいている様子
- 音楽を聞く
- コンサートに行きロックを聞く
- コンサート（浜田省吾ファン，クラブ加入。）
- 音楽も好きで自分の好きな音楽は，何度も繰り返し一日中でも同じ曲を聞いている。
- 好きな音楽家の演奏をパソコンなどで録音し，それを見たり，聴いたりしているようです（デビット・フォスター，チュー・Gなど）
- CDを聞く

⑦映画，テレビ映像

- テレビTVを見る。新聞をよむ。
- テレビでのスポーツの視聴
- クイズ番組
- DVDを見て感想を言う
- 映画DVDを見る
- 好きなテレビ番組を録画して見る。
- テレビ視聴，お笑い
- 好きなDVDを見ている（レンタル）
- 携帯電話で動画サイトを見ている家でテレビを見る
- テレビ観戦（スポーツ等）
- TVを見て，時事，家電芸能人に豊富な知識を持っている。
- ラジオの人生相談を聴くことで，自分以外の人の人生，生活を知ろうとしているようです。
- テレビ鑑賞・政治家がしゃべることに対して，私と意見交換する時など本気でしゃべることができるし，共感するところもあり，話が弾むこともある。
- テレビのお笑い番組を見る・読書・去年妹と私の三人で北京旅行に行ったときは海外文化に触れて楽しめたようです。

⑧食事

- 好物の食事をとること
- 好きな物を食べる事。
- 散歩

- 好きな物を買って食べる
- 親の作った食事
- コーヒーを挽いて飲ませてくれる（自信がある）
- おいしいものを食べる
- 好きなTV、ビデオを見ること。自分で考えた即興の歌をうたうこと。
- お菓子など買うことなど
- ラーメンを食べに行くこと
- 自分の食べたい物を作る
- 食事をつくる
- おいしい物を食べる
- たばこやジュース以外に興味がないといっている
- 飲み会

⑨アニメ関連

- アニメをみる
- イラスト描き（デジタル、アナログ）。
- プラモデル ※苦手でも毎日がんばってるゲームは楽しめてはいない感じ。（暴言吐きまくりながらプレイ）
- 好きなマンガ
- アニメに関すること
- 妹と好きなアニメの話をする
- 絵(漫画のイラスト)
- プラモデルの製作
- マンガ、ゲームセンターで遊ぶ。コミックゲーム
- AKB48を見に行く
- 写真さつえい。

⑩ゲーム

- ゲーム（チャット）を1日6時間～12時間
- ゲーム。電気店へ行く
- トランプ
- マーじゃん
- 麻雀
- ゲームセンターへ行っているらしい
- ゲームソフトで対戦ゲーム
- ジグソーパズルゲーム
- ゲームセンターのUFOキャッチャー
- 手品(マジック)

⑪動物（人間以外）との触れ合い

- 金魚のせわ
- ペット（動物）とふれ合う事
- 猫と犬がいますので、いやされていると思います
- 犬とかかわる
- めだかの世話、犬二匹と猫と遊ぶこと
- 動物との交わり、本人が弱い面を認め、同等にふるまえる。・愛犬と一緒に遊ぶ
- 犬との関わり・犬の散歩に出かける・近所の猫にえさをやる・植物の世話、ペットの世話
- 猫をかわいがる・庭で、野菜や花を愛でる。

⑫スキル取得

- パソコンが大好きなので資格とかとれば良いと思う。
- 家電製品の取り扱い（TVのアンテナ接続，調整等）に興味を持ち，根気よくマニュアルを読み設置作業を行っている。又私より高度な知識を持っているようである。
- 組み立て，修理，
- 簡単な仕事
- 会計
- 家事
- 農業

⑬その他

- タバコ
- 長風呂，
- 毎日の生活の中で入浴だけが楽しみなようです。
- 自分の部屋を適宜掃除する
- 化粧・ファッション
- ゲーム(パソコン等)
- 部屋中を好きに飾ること。
- パチンコが好きで，お金さえあれば・・・心配の種です。
- チアリーダー応援

第四部 全体のまとめ

1. 引きこもり本人の平均年齢について

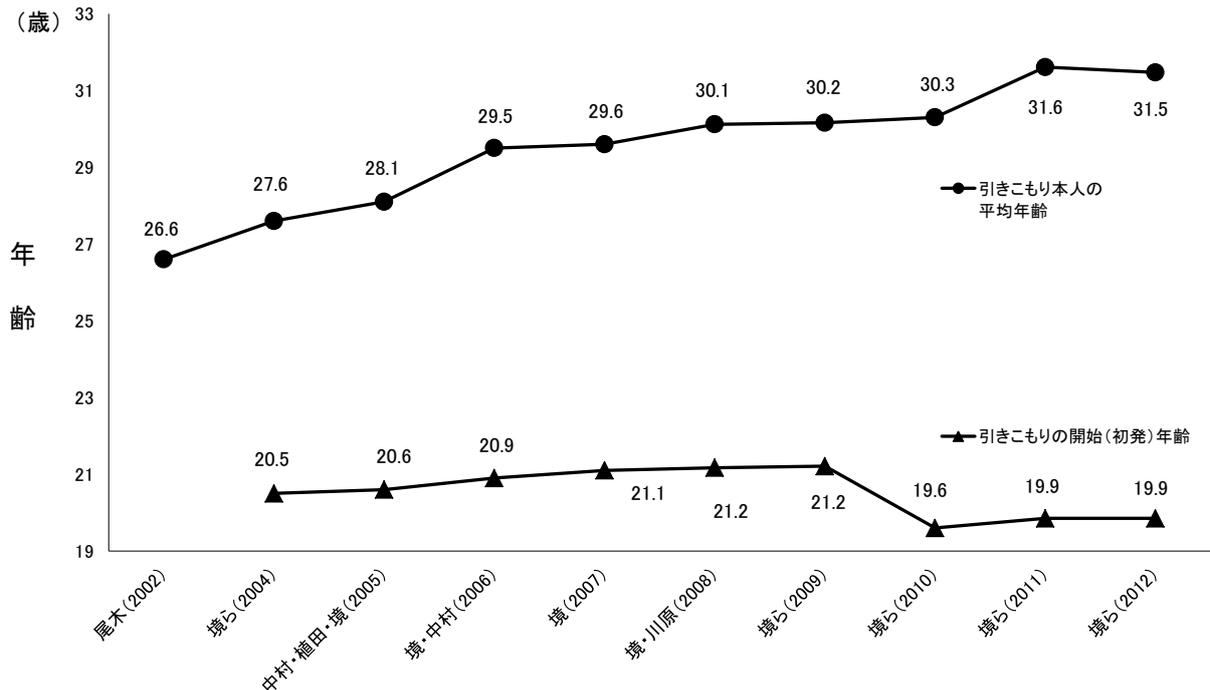


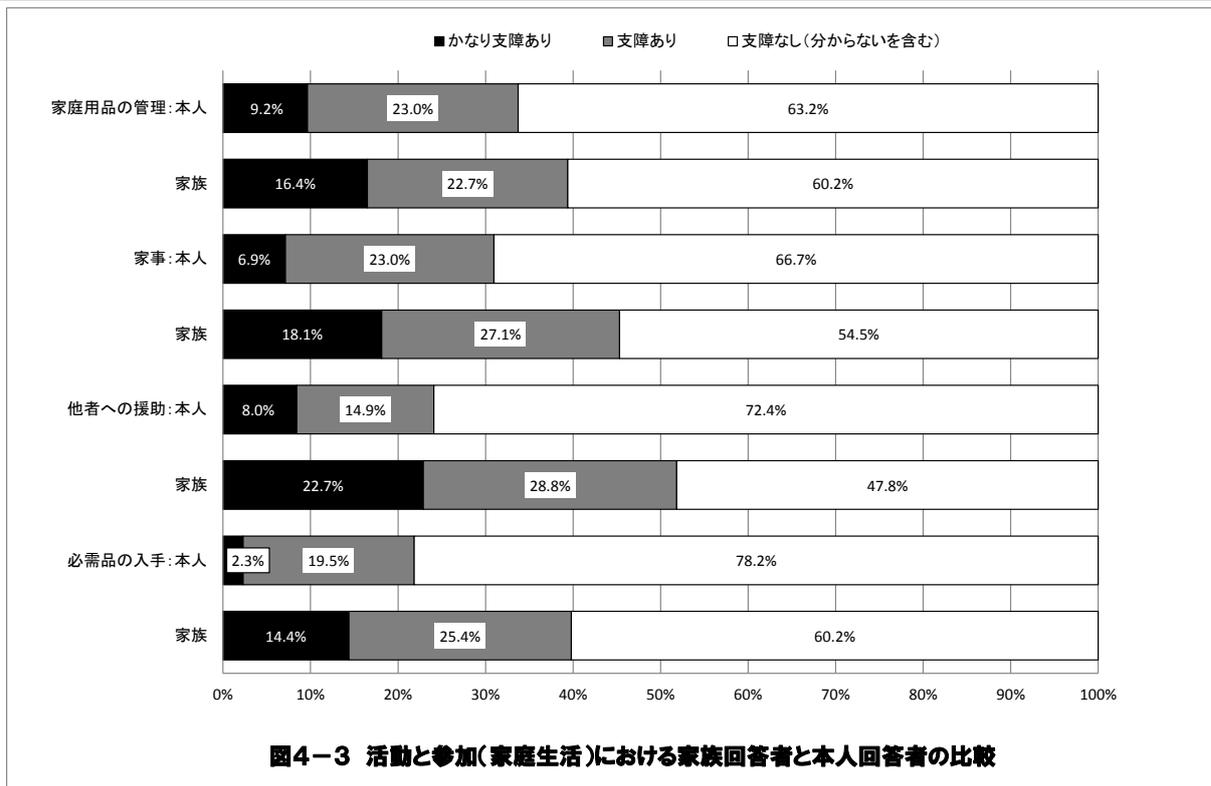
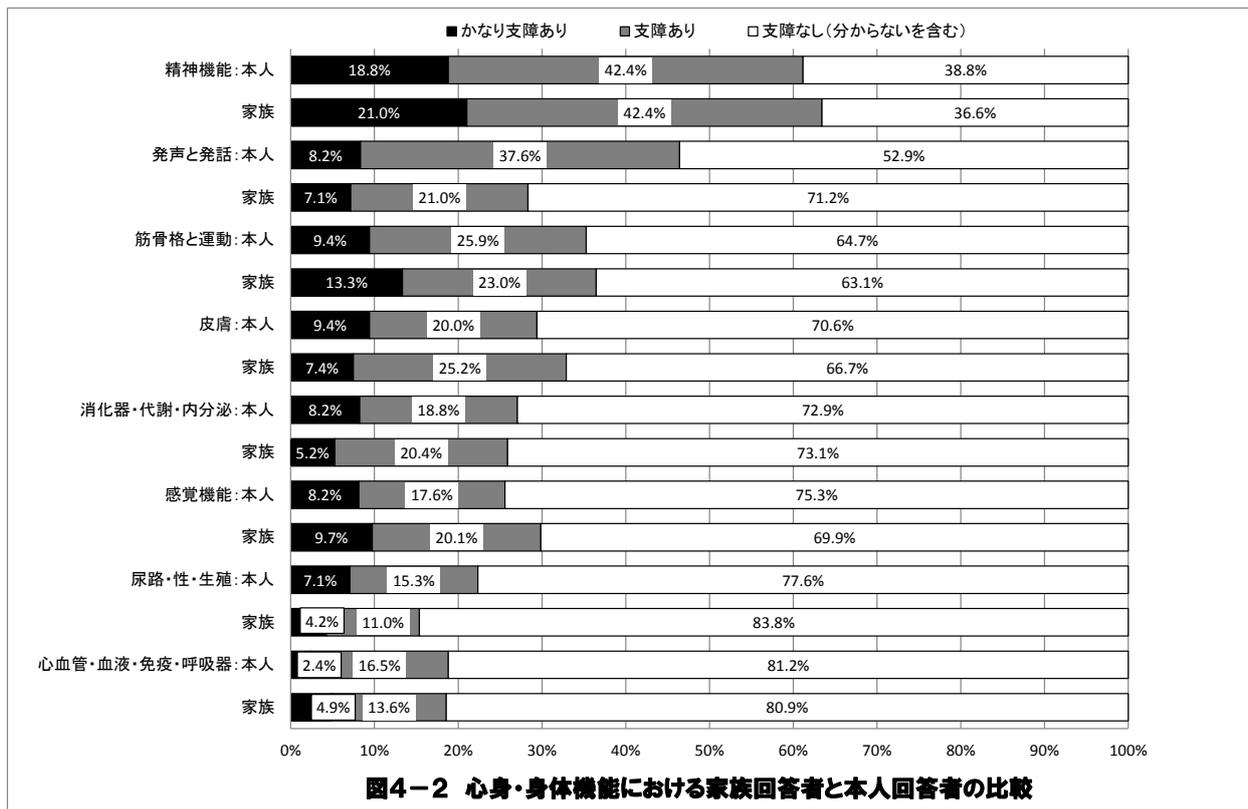
図4-1 家族調査における引きこもり本人の平均年齢と引きこもり開始(初発)年齢

当会で調査を開始した2002年以降の引きこもり本人の年齢の変化を図4-1に示します。引きこもり本人の平均年齢は、本年度31.5歳となり、調査開始以来初めて前年度を下回りました。このことは、引きこもり状態が30歳を超えると自然に回復する可能性を示唆するものかもしれません。一方で、当事者の年齢が30歳を超えると、当会のような親を対象とした会に親自身が参加できなくなる可能性も考えられます。昨今の、引きこもり状態の長期化、高年齢化を考えるうえで、当事者の年齢が30歳を超える意味について、更なる検討が必要と考えられます。

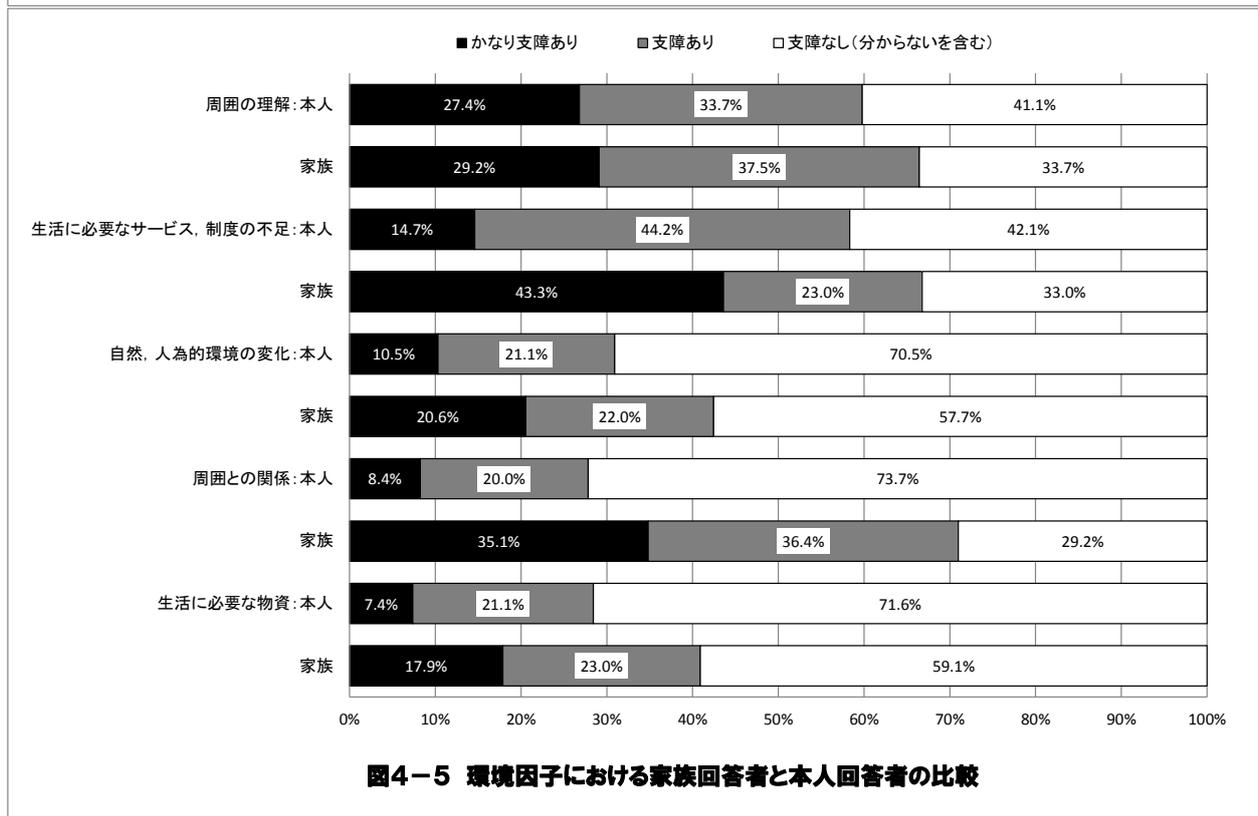
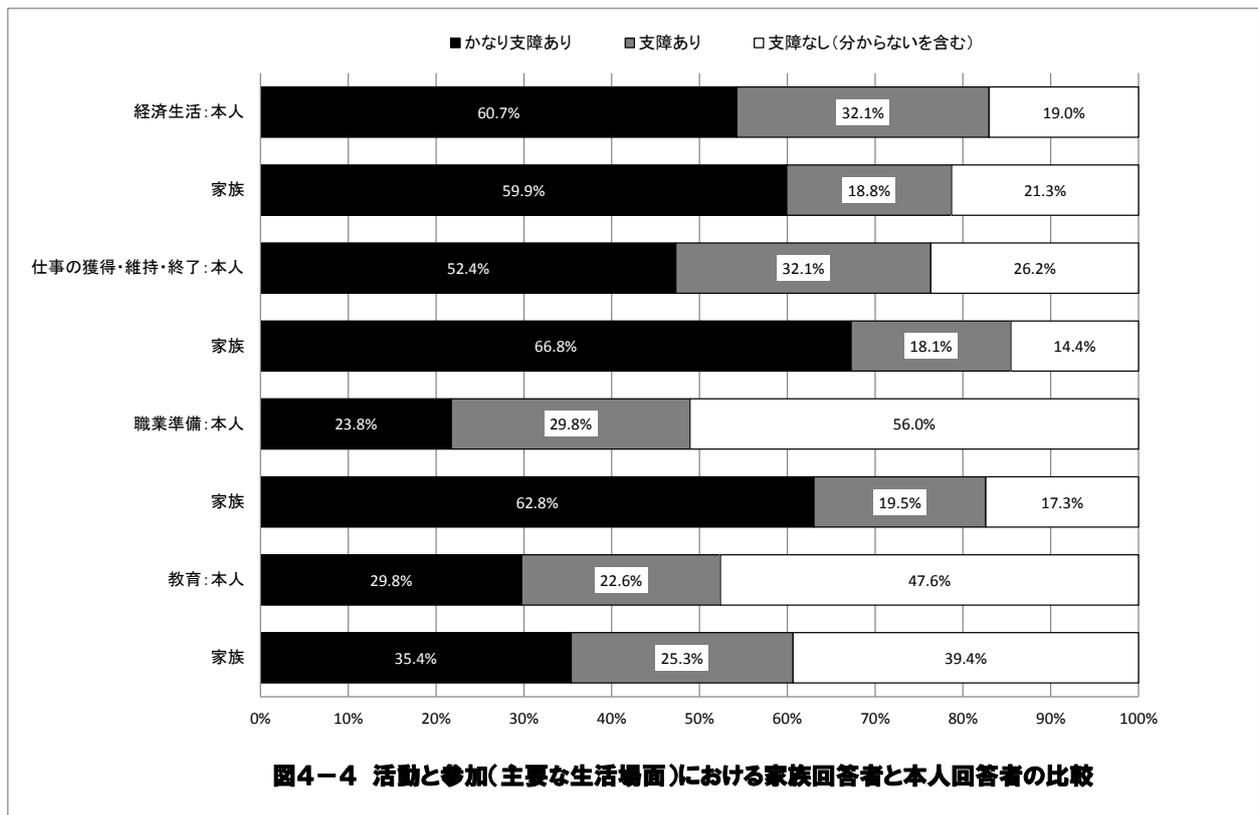
2. 引きこもり当事者の生活機能

引きこもり当事者の生活機能についてひきこもり経験者と家族の両方から回答が得られました。これらの結果から、まず指摘できることは、引きこもり状態にある人が生活機能の広範囲において様々な支障を抱いているという点です。これまでの研究から、ひきこもり状態と精神疾患の関連については明らかになってきていますが、生活機能という観点から見ると、ひきこもり状態を経験することが、様々な問題を引き起こしていることがわかります。

また、家族回答者と本人回答者における差異も興味深いものです。心身・身体機能における本人回答者と家族回答者の比較を図4-2に示します。この結果から、本人回答者と家族回答者ともに、精神機能に支障が生じていると感じている人が6割を超えることが示されました。興味深いのは、「発声と発話」における結果です。「発声と発話」は、家族回答者の結果においては28.1%が支障ありと答えていますが、本人回答者の回答においては47.1%の人が支障があると答えています。こうしたことから、ひきこもり経験者への支援においては「発声と発話」を標的とした支援が必要なのかもしれません。「発声と発話」においてひきこもり経験者が支障を感じているということはこれまでの研究では示されて来ませんでした。こうしたこれまで示されてこなかった知見を提供できたことが、生活機能という広範囲の視点から検証したひとつの意義だと言えます。



その他の領域では、概して家族回答者の方が、本人回答者よりも支障があると多くの人が回答していました。特に差が顕著であったのが図4-3～図4-5に示す領域です。家族回答者の方が多く支障があると回答する領域については、2つの可能性が考えられます。一つは、家族のほうがひきこもり本人よりも過度に支障があると評価している可能性です。もうひとつは、親の会に参加している家族回答者の家庭にいるひきこもり本人の特徴を表しているという可能性です。いずれにしても、支援を受ける人が支障があると感じている領域に対する支援が必要と考えられます。



本調査において、家族回答者と本人回答者の両方に調査を行うことで、引きこもり状態にある人の抱える支障の概要が明らかにされました。しかし、支障の詳細については更に検証する必要があります。従来、注目されてきた精神疾患の観点だけではなく、生活機能という広範な観点から引きこもり状態について検証することで、これまで明らかにされて来なかったあらたな実態が浮き彫りにされると考えられます。

3. ひきこもり本人のできること

ひきこもりへの支援を考えるときに、ひきこもり状態にある人が抱える困難を理解することも重要ですが、それ以上に、できることを明らかにすることが重要と考えられます。本調査の自由記述において、ご本人が「できる仕事」と「楽しめること」について回答を求めました。

「できる仕事」としては、「パソコン（IT関係）」、「家事手伝い」の仕事について回答が多く認められました。本人においては自分が望む職場環境を訴える回答、ご家族においては未だ就職準備段階という回答が多く、就職支援として、本人が就労できるような環境づくりと、スキルアップトレーニングの必要性が考えられました。

また、「楽しめること」については、「パソコン」「ゲーム」「映画・テレビ鑑賞」が回答の過半数を占め、ご本人が楽しめることについては、1人で時間を楽しめる物事、社会的に評価されない事柄が多い傾向がみられました。その一方で、「会話」や「ひきこもり当事者の集まりに参加することなど」といった他者との交流についても多く回答が認められました。このことから、ご本人の1人の時間を尊重しながらも暖かい周囲の環境が、「ご本人が楽しめること」を増やすことに繋がると考えられます。

これらのことを踏まえると、ひきこもり状態にある人ができる仕事や楽しめることは多くあることがわかります。こうした情報をもとに、ひきこもり状態にある人ができることから始める関わりが重要になると考えられます。できることを重ねて、自信をつけて、困難に挑むという流れが必要です。

おわりに

昨年の報告書を執筆している際、奥山前代表の訃報に触れ、さらに東日本大震災も起こりました。本報告書を書いている最中、激動の昨年が思い起こされました。

本年の調査では、ひきこもり状態について生活機能という包括的な視点から検討を加えることで、ひきこもり状態にある人が実に多くの領域において支障を感じていることがわかりました。従来指摘されてきた、精神疾患だけではなく、ひきこもることによる生活上の支障は予想以上に大きなものでした。

ただし、今回行った調査は、極めて広範な生活機能についての概要を把握するには不十分な調査であることは否めません。今後は、専門家による詳細な聞き取りを踏まえた検討が必要と考えられます。

一方で、本調査によってひきこもり状態にある人ができることが明らかにされました。困難を多く抱えるひきこもりから回復するには、段階的な支援が必要です。段階的な支援としては、できることを重ねていく必要があります。支援の初期段階としては、まずは本人が楽しめることを体験してもらうことが有効と考えられます。楽しめることを体験してもらうことで、自尊心の向上や自信の回復が認められてから、自立に向けた挑戦を行うという流れが重要になると考えられます。本調査では、引きこもり状態にある人が楽しめることと出来る仕事について調査を行いました。こうした知見が、引きこもり状態への段階的支援に有効活用されることを願っています。

末筆になりましたが、本調査が当事者とその家族、そして関係する全ての方にとって引きこもりへの理解を深める一助になりますことを願っております。

平成24年3月吉日

徳島大学大学院S A S 研究部

准教授 境 泉 洋

引用・参考文献

- 相川 充・藤田正美 2005 成人用社会的スキル自己評定尺度の構成 等 g 卒きょう学芸大学紀要第一部門, 56, 87-93.
- 藤田博一・下寺信次・三野善央・井上新平 2010 The family attitude scaleの日本での妥当性の評価 精神神経学雑誌第101号, 162-163
- 木下奈緒子・山本哲也・嶋田洋徳 2008 日本語版Acceptance and Action Questionnaire-II作成の試み 日本健康心理学会第21会大会発表論文集, 46.
- 厚生労働省 2002 「国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－」(日本語版)の厚生労働省ホームページ掲載について <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>
- 松田侑子・永作 稔・新井邦二郎 2010 大学生の就職活動不安が就職活動に及ぼす影響—コーピングに注目して— 心理学研究, 80, 512-519
- 野中俊介・大野あき子・境 泉洋 2012 行動論的観点からみたひきこもり状態と家族機能の関連 行動療法研究, 38, 1-10.
- 太田さつき・岡村一成 2006 就職活動に対する自己効力感—測定尺度作成の試み— 応用心理学研究, 31, 65-75
- 境 泉洋・堀川 寛・野中俊介・松本美菜子・平川沙織 2011 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑧: NPO法人全国ひきこもりKHJ親の会における実態 徳島大学総合科学部境研究室.
- 境 泉洋・中垣内正和・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2007 「引きこもり」の実態に関する調査報告書④: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 志學館大学人間関係学部境研究室.
- 境 泉洋・川原一紗・木下龍三・久保祥子・若松清江・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2009 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑥: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 徳島大学総合科学部境研究室.
- 境 泉洋・川原一紗・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2008 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑤: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 徳島大学総合科学部境研究室.
- 境 泉洋・中村 光 2006 引きこもり家族実態アンケート調査・調査結果データ分析とまとめ 引きこもり家族調査委員会 引きこもり家族の実態に関する調査報告書, P7~P45.
- 境 泉洋・野中俊介・大野あき子・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2010 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑦: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 徳島大学総合科学部境研究室.
- 境 泉洋・植田健太・中村 光・嶋田洋徳・金沢吉展・坂野雄二・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会(家族連合会) 2005 「引きこもり」の実態に関する調査報告書②: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 志學館大学人間関係学部境研究室.
- 境 泉洋・植田健太・中村 光・嶋田洋徳・坂野雄二・全国引きこもりKHJ親の会(家族連合会) 2004 「引きこもり」の実態に関する調査報告書: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 早稲田大学大学院人間科学研究科坂野研究室.
- 高橋 孝 ICFイラストライブラリー http://www.icfillustration.com/icfil_jpn/top.html
- 宇佐美しおり・他 2009 平成 21 年度 厚生労働省障害者自立支援プロジェクト報告書 http://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/cyousajigyou/jiritsushien_project/seika/research_09/dl/result/11-06a.pdf
- 若松清江・境 泉洋・佐藤健二・川野卓二・坂田 浩・福田スティーブ利久 2011 日本語版 Mindful Attention Awareness Scale (MAAS) の開発: 注意機能とマインドフルネスおよび抑うつとの関連についての検討 日本行動療法学会第37回大会発表論文集, 462-463.

付 録

付録 1 調査用紙（家族用）

調査に含まれたもののうち、制作者に許可を得た上で使用した尺度、及び現在制作中の尺度は記載しておりません。

ご家族用

アンケートの説明

本調査は、ひきこもりと生活機能の関係を明らかにすることを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり問題への対応を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は調査実施担当者のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力くださいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

本調査は徳島県受託事業「平成 23 年度ひきこもり支援対策調査研究事業」の助成を受けて実施しております。また、本調査の実施方法に関しては、徳島大学総合科学部人間科学分野における研究倫理審査委員会の承認を得ております。

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

調査にご回答頂く上でご注意いただきたい点

- ① 本調査では、このアンケートに答えていただいている方（ご家族など）を「あなた」、ひきこもり状態にある（あった）方を「ご本人」と表記しています。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのはありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。
- ③ ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。
次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

調査実施担当者連絡先

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

徳島大学大学院イオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 境 泉洋研究室

Tel&Fax 088-656-7191（直通）

E-mail：motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp

ホームページ：<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけてください。

1. ご本人は現在、社会参加（学校・職場に行く）などをしておらず、自宅以外での活動が失われた状態（以下「ひきこもり状態」と表記する）ですか？

→ a. はい b. いいえ

2. ご本人は過去に「ひきこもり状態」を経験されたことがありますか？

→ a. はい b. いいえ

1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

3. ひきこもり状態にある人が、ご家族に2人以上いらっしゃる方は次の問にお答えください。

ご家族の中で、ひきこもっている方の人数をお答えください。→ [] 人

2人以上いると回答された方は、ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答くださいますようお願いいたします。

B. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、下線部に具体的に記入してください。

1. あなたが住んでいる場所をお答えください。： _____ 都・道・府・県

2. ご本人からみての、あなたの立場をお答えください。

a. 母親 b. 父親 c. その他（具体的に_____）

3. あなたの年齢をお答えください：（_____歳）

4. ご本人の性別をお答えください： a. 男性 b. 女性

5. ご本人の年齢をお答えください：（_____歳）

6. あなたとご本人は： a. 同居 b. 別居（別居してから_____年_____カ月）

0：支障なし（分からないを含む）	1：少し支障あり	2：かなり支障あり
------------------	----------	-----------

3. 運動

- ① 姿勢の変換と保持，乗り移り・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】
- ② 物の運搬・移動・操作（持ち上げる，運ぶ，物を動かす）【 0 1 2 】
- ③ 歩行および移動・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】
- ④ 交通機関や手段を使用しての移動・・・・・・・・・・【 0 1 2 】

4. 自己管理（体を洗う，身体各部の手入れ，排泄，更衣，

食べる，飲む，健康に注意する）・・ 【 0 1 2 】

5. 家庭生活

- ① 必需品の入手（住居・物品・サービスの入手）・・・・ 【 0 1 2 】
- ② 家事（調理，調理以外の家事）・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ③ 家庭用品の管理・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】
- ④ 他者への援助・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】

6. 対人関係

① 一般的な対人関係

基本的な人間関係（敬意と思いやり，感謝，寛容さ，

批判，合図，身体的接触）・・ 【 0 1 2 】

複雑な対人関係（形成・終結，対人関係における行動の制御，

社会的ルールに従った対人関係）・・ 【 0 1 2 】

② 特別な対人関係

よく知らない人との関係・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】

公的な関係（権限のある人，下位の立場にある人，同等の立場にある人）

・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】

非公式な社会的関係（友人，隣人，知人，同居者，仲間）・・ 【 0 1 2 】

家族関係（子ども，親，兄弟姉妹，親族）・・・・・・・・【 0 1 2 】

親密な関係（恋愛関係，婚姻関係，性的関係）・・・・・・・・【 0 1 2 】

7. 主要な生活場面・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】

① 教育（非公式な教育，就学前教育，学校教育，職業訓練，高等教育）

・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】

② 仕事と雇用

職業準備・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】

仕事の獲得・維持・終了（職探し，仕事の継続，退職）・・ 【 0 1 2 】

③ 経済生活（経済的取引，資産，経済上の公的な資格・権利）

・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】

0：支障なし（分からないを含む） 1：少し支障あり 2：かなり支障あり

8. 地域生活・社会生活・市民生活

- ①地域生活（非公式団体，公式の団体，式典）・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ②余暇（遊び，スポーツ，芸術と文化，工芸，趣味，社交）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ③宗教活動（宗教行事への出席，祈り，など）・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ④人権（機会均等，自己決定権，など）・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ⑤政治活動と市民権（選挙権，黙秘権，言論の自由，など）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

Ⅲ. 環境因子

- 1. 生活に必要な物資（食料，衣類，住居，など）・・・・・・ 【 0 1 2 】
- 2. 自然，人為的環境の変化（災害，公害，人口減少，など）・・ 【 0 1 2 】
- 3. 周囲との関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- 4. 周囲の理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- 5. 生活に必要なサービス，制度の不足（公共交通機関，社会保障，労働・雇用）
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

●ひきこもりによる「生活上の困難」について自由にお書きください。

●ご本人ができる「仕事」についてできるだけ多く，具体的にお書きください。

- ご本人が「楽しめること」についてできるだけ多く、具体的にお書きください。

- 本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

次のページからは調査実施担当者が現在行っている「ご本人や家族に対する感情」に関する調査があります。

この調査は、NPO法人全国引きこもりKHJ親の会が実施する全国調査とは別のものですが、報告書には結果を記載致します。

ひきこもり状態のより詳細な実態把握のために行われる調査ですので、調査の趣旨をご理解頂き、ご協力頂ける方のみご記入ください。

The family attitude scale (藤田ら, 2010) を使用

The family attitude scale (藤田ら, 2010) を使用

ひきこもり家族機能尺度（野中ら，2012）を使用

質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

付録2 調査用紙（本人用）

調査に含まれたもののうち、制作者に許可を得た上で使用した尺度、及び現在制作中の尺度は記載しておりません。

アンケートの説明

本調査は、ひきこもりと生活機能の関連を明らかにすることを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり問題への対応を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の結果は調査実施担当者のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解いただき、是非ともご協力くださいますよう、お願い申し上げます。調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

本調査は徳島県受託事業「平成 23 年度ひきこもり支援対策調査研究事業」の助成を受けて実施しております。また、本調査の実施方法に関しては、徳島大学総合科学部人間科学分野における研究倫理審査委員会の承認を得ております。

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

調査にご回答頂く上でのご注意いただきたい点

この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのではありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。

この用紙は、切り離してお持ち帰りください。
次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

調査実施担当者連絡先

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

徳島大学大学院リカ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 境 泉洋研究室

Tel&Fax 088-656-7191（直通）

E-mail: motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp

ホームページ: <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、具体的に記入してください。

1. 現在、あなたは、社会参加（学校・職場に行く）などをしておらず、自宅以外での活動が失われた状態（以下「ひきこもり状態」と表記する）ですか？
→ a. はい b. いいえ
2. あなたは過去に「ひきこもり状態」を経験されたことはありますか？
→ a. はい b. いいえ

1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

B. 以下の質問について該当するところに○をつけるか、具体的に記入してください。

1. あなたが住んでいる都道府県をお答えください。 → _____ 都・道・府・県
2. あなたの年齢をお答えください。 → (_____) 歳
3. あなたの性別をお答えください。 → a. 男性 b. 女性

4. 以下の質問は、あなたの最近2週間の状態についてお聞きするものです。それぞれ当てはまるもの1つを丸（○）で囲んでください。

	全 く 当 て は ま ら な い	ほ と ん ど 当 て は ま ら な い	だ い た い 当 て は ま る	非 常 に 当 て は ま る
1. 自由に外出する	0	1	2	3
2. 対人交流が必要な場所に行く	0	1	2	3
3. 対人交流が必要でない場所に行く	0	1	2	3
4. 家庭内では自由に行動する	0	1	2	3
5. 家庭内で避けている場所がある	0	1	2	3
6. 自室に閉じこもる	0	1	2	3

5. 次の例を参考に、あなたのひきこもり期間をお答えください。

(例) 19才6か月～22才3か月と24才0か月～29才9か月の間で2回ひきこもった場合

1回目：(19)才 (6)か月 ～ (22)才 (3)か月
2回目：(24)才 (0)か月 ～ (29)才 (9)か月

1回目：()才 ()か月 ～ ()才 ()か月
2回目：()才 ()か月 ～ ()才 ()か月
3回目：()才 ()か月 ～ ()才 ()か月

0：支障なし（分からないを含む）	1：少し支障あり	2：かなり支障あり
------------------	----------	-----------

3. 運動

- ① 姿勢の変換と保持，乗り移り・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ② 物の運搬・移動・操作（持ち上げる，運ぶ，物を動かす）【 0 1 2 】
- ③ 歩行および移動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ④ 交通機関や手段を使用しての移動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

4. 自己管理（体を洗う，身体各部の手入れ，排泄，更衣，

食べる，飲む，健康に注意する）・・ 【 0 1 2 】

5. 家庭生活

- ① 必需品の入手（住居・物品・サービスの入手）・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ② 家事（調理，調理以外の家事）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ③ 家庭用品の管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】
- ④ 他者への援助・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

6. 対人関係

① 一般的な対人関係

基本的な人間関係（敬意と思いやり，感謝，寛容さ，批判，合図，身体的接触）
・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

複雑な対人関係（関係の形成・終結，対人関係における行動の制御，
社会的ルールに従った対人関係）・・ 【 0 1 2 】

② 特別な対人関係

よく知らない人との関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

公的な関係（権限のある人，下位の立場にある人，同等の立場にある人）
・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

非公式な社会的関係（友人，隣人，知人，同居者，仲間）・・ 【 0 1 2 】

家族関係（子ども，親，兄弟姉妹，親族）・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

親密な関係（恋愛関係，婚姻関係，性的関係）・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

7. 主要な生活場面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

① 教育（非公式な教育，就学前教育，学校教育，職業訓練，高等教育）
・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

② 仕事と雇用

職業準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

仕事の獲得・維持・終了（職探し，仕事の継続，退職）・・ 【 0 1 2 】

③ 経済生活（経済的取引，資産，経済上の公的な資格・権利）
・・・・・・・・・・ 【 0 1 2 】

0：支障なし（分からないを含む） 1：少し支障あり 2：かなり支障あり

8. 地域生活・社会生活・市民生活

- ①地域生活（非公式団体，公式の団体，式典）・・・・・・・・【 0 1 2 】
- ②余暇（遊び，スポーツ，芸術と文化，工芸，趣味，社交）
・・・・・・・・【 0 1 2 】
- ③宗教活動（宗教行事への出席，祈り，など）・・・・・・・・【 0 1 2 】
- ④人権（機会均等，自己決定権，など）・・・・・・・・【 0 1 2 】
- ⑤政治活動と市民権（選挙権，黙秘権，言論の自由，など）
・・・・・・・・【 0 1 2 】

Ⅲ. 環境因子

- 1. 生活に必要な物資（食料，衣類，住居，など）・・・・・・・・【 0 1 2 】
- 2. 自然，人為的環境の変化（災害，公害，人口減少，など）・・【 0 1 2 】
- 3. 周囲との関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】
- 4. 周囲の理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【 0 1 2 】
- 5. 生活に必要なサービス，制度の不足（公共交通機関，社会保障，労働・雇用）
・・・・・・・・【 0 1 2 】

●ひきこもることによって生じる「生活上の困難」について自由にお書きください。

●あなたが「楽しめること」についてできるだけ多く，具体的にお書きください。

●あなたが「やりたい仕事」についてできるだけ多く、具体的にお書きください。

●本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

次からは調査実施担当者が現在行っている「社会的スキル」に関する調査があります。

この調査は、NPO法人全国引きこもりKHJ親の会が実施する全国調査とは別のもので、報告書には結果を記載致します。

ひきこもり状態のより詳細な実態把握のために行われる調査ですので、調査の趣旨をご理解頂き、ご協力頂ける方のみご記入ください。

A. あなたはこれまでに働いた経験がありますか：

- ・就職、アルバイトについた回数： _____回
- ・職、アルバイトに就いていた期間（最短： _____日 最長： _____年）

B. あなたのここ3カ月間における、以下の就労準備の量はどの程度ですか？具体的な数値でお答えください。

1. エントリーシートの記入数 → _____ 枚
2. 訪問・説明会に参加した企業数 → _____ 社

3. 履歴書を提出した企業数 → _____ 社
4. 就職試験・面接を受けた企業数 → _____ 社
5. その他 (_____) → _____ 回

C. 現在の就労準備の状態についてどの程度 努力 していますか？「全く努力していない (0)」～「非常に努力している (100)」として、数値でお答えください。

→ _____

D. 現在の就労準備の状態についてどの程度 満足 していますか？「全く満足していない (0)」～「非常に満足している (100)」として、数値でお答えください。

→ _____

E.以下の文章を読んで、各項目があなたにどれだけあてはまるか答えてください。最もよくあてはまると思う程度の数字に○をつけてください。あまり深く考えずにお答えください。

成人用ソーシャルスキル自己評価尺度（相川・藤田，2005）を使用

成人用ソーシャルスキル自己評定尺度（相川・藤田，2005）を使用

F.下記の文章はあなたの日頃の体験を表したものです。下に示す 1-6 の評定尺度を基に、最近それぞれの体験がどの程度頻繁であるか、もしくは頻繁でないか、について表してください。あなたが考える理想の体験ではなく、「実際の体験」を基に答えてください。

日本語版 Mindful Attention Awareness Scale（若松ら，2012）を使用

日本語版 Acceptance and Action Questionnaire-II（木下ら，2008）を使用

質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

問い合わせ先

境 泉洋 (さかい もとひろ)

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

臨床コミュニティ心理学研究室

Tel&FAX 088-656-7191

E-mail: motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp

HomePage:<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-4-4

(SCSカウンセリング研究所内)

Tel:03-3918-0655 Fax:03-3918-7873

E-mail: scsikedata.t.toshima.ne.jp

HomePage:<http://www.khj-h.com/>